

金沢工業大学 御中

令和4年度 授業調査 報告書

2023.6.2

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1> 本調査の全体像	2
<2> 基本的な分析	7
<3> 学年別の分析	16
<4> 学部・学科別の分析	22
<5> 科目区分別の分析	32
<6> 同一学生群の分析	38
<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8> 遠隔授業の評価の分析	49
<9> 全体のまとめ	56

<1> 本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

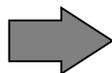
- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が18年目となるため、18年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査開始は平成14年度)
- コロナ禍の対策として、前回に続いてすべてWebで実施した。また、「遠隔授業」に関する質問は3年目となる。

2) 調査の概略

項目	内容					
有効回答数	41,611件(1年次:18,620件、2年次:13,255件、3年次:8,961件、4年次:775件、クラス未記入の37件は集計から除外)					
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	質問項目変更
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
	年度	前学期	後学期	全回答数	調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408		
	平成22年度	48,541	48,175	96,716		
	平成23年度	53,166	49,870	103,036		
	平成24年度	47,317	46,666	93,983		
	平成25年度	47,317	45,003	92,320		
	平成26年度	45,014	50,767	95,781		
	平成27年度	48,882	43,421	92,303		後学期より一部選択肢変更
	平成28年度	47,946	41,113	89,059		
	平成29年度	46,988	39,594	86,582		
	平成30年度	47,659	40,416	88,075		
	令和元年度	41,011	46,990	88,001		
	令和2年度	29,365	32,293	61,658		Web調査へ移行、質問項目追加
	令和3年度	27,148	19,341	46,489		
	令和4年度	22,499	19,112	41,611		
対象科目	747科目(シラバスコードの件数)					
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学期の第14週目から学期最終日、または最終授業日の1週間後まで実施した。 ● 実施方法:記名式.Web入力。 ● Web入力を科目担当の教員より周知するとともに、学生ポータルにて通知した。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度、一部は平成14年度から)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

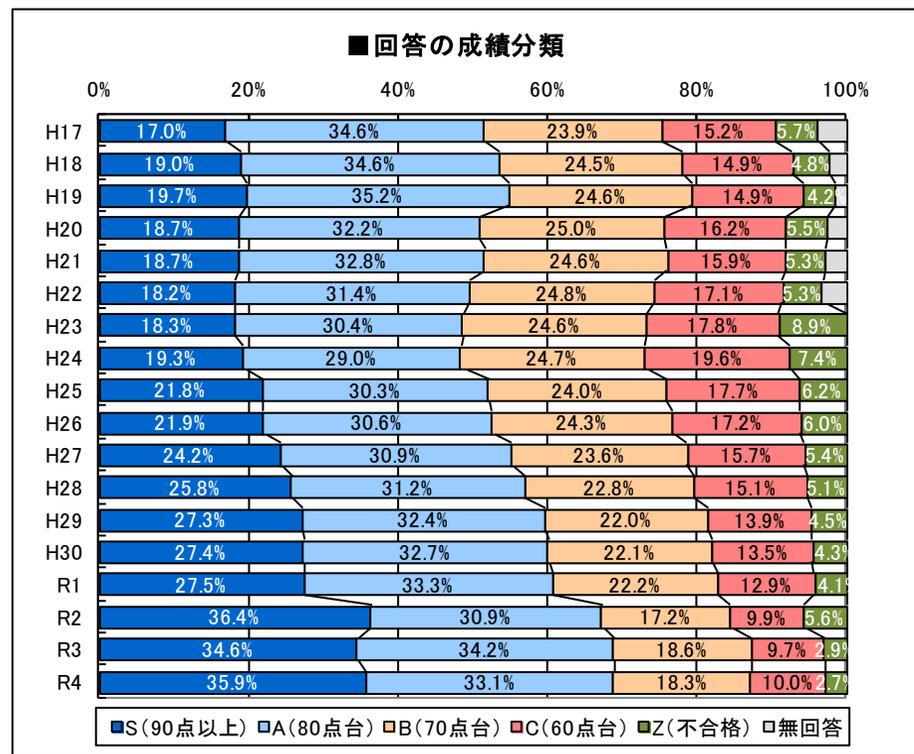
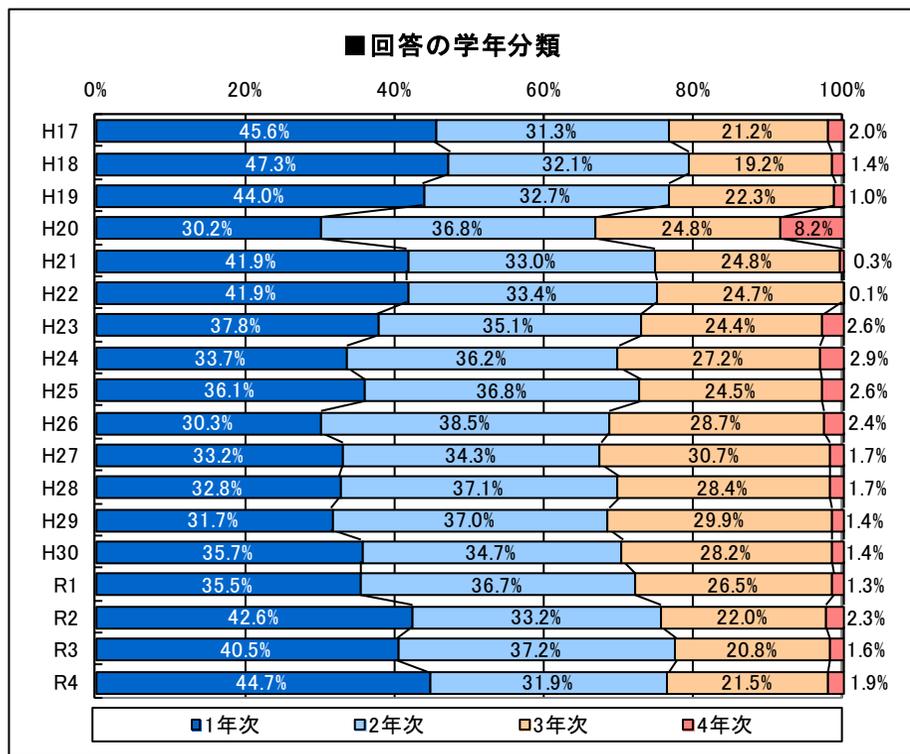


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後学期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合評価

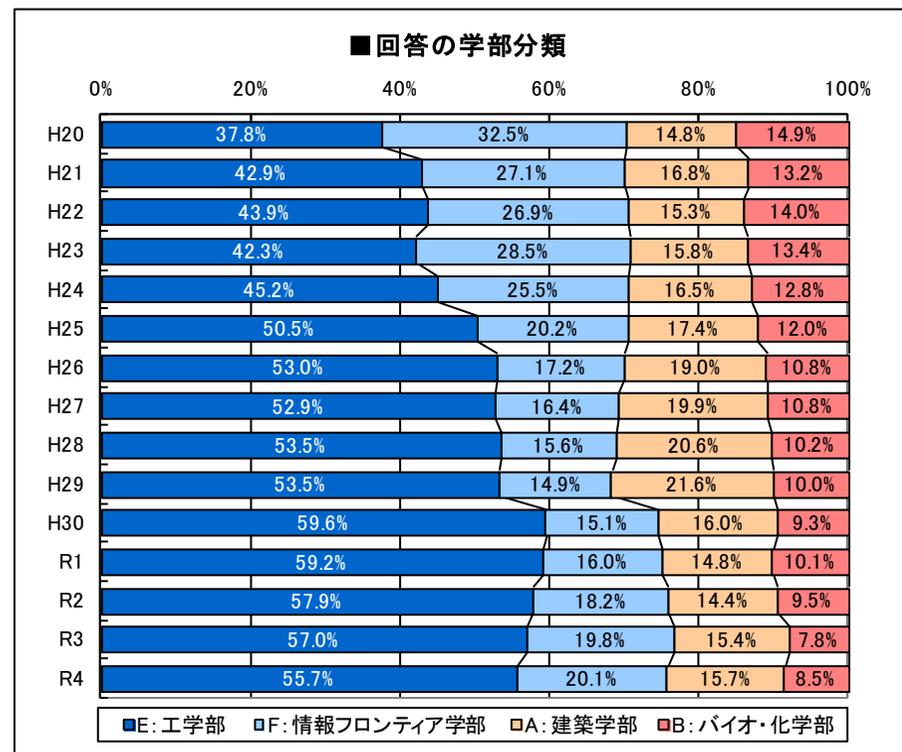
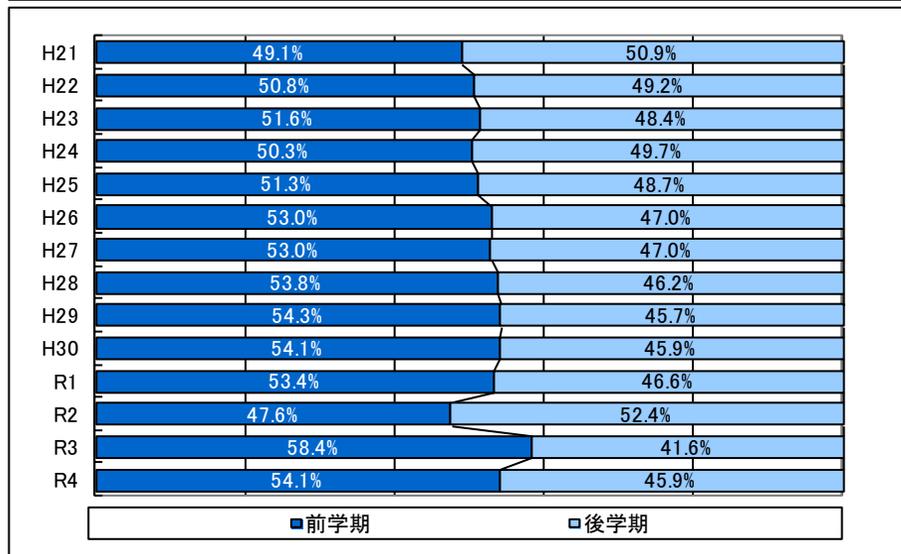
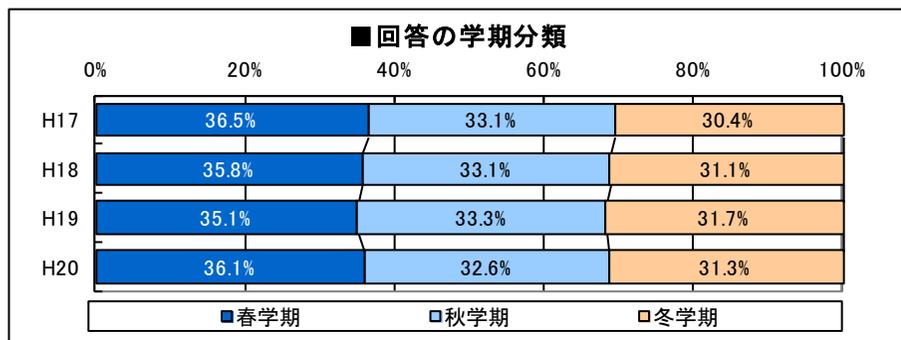
4) 集計に関して

- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度より、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので、これらの4つの設問についてはそれぞれの期間に渡って比較を行っている。それら以外の設問は変更後の平成17年度以降で比較を行った。
- 平成27年度の後学期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後学期からは「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

- 学年別の割合は、「1年次」が44.7%、「2年次」が31.9%、「3年次」が21.5%、「4年次」が1.9%であった。
- 成績別の割合は、「S」が35.9%であり、前回は1.3ポイント上回ってR2に次ぐ多さであった。そして、「A」が33.1%、「B」が18.3%、「C」が10.0%となり、「Z」は過去最低の2.7%であった。



- H21年度以降は2学期制となり、今回の回答数は「前学期」が54.1%、「後学期」が45.9%であった。
- 学部・学科構成はH29までは4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっており、切り替わりのタイミングで構成比の変化が見られる。今回の回答割合は「E:工学部」が55.7%でH30からの減少が続いていた。一方、「F:情報フロンティア学部」は増加が続いて20.1%となり、「A:建築学部」が15.7%、「B:バイオ・化学部」が8.5%となっていた。

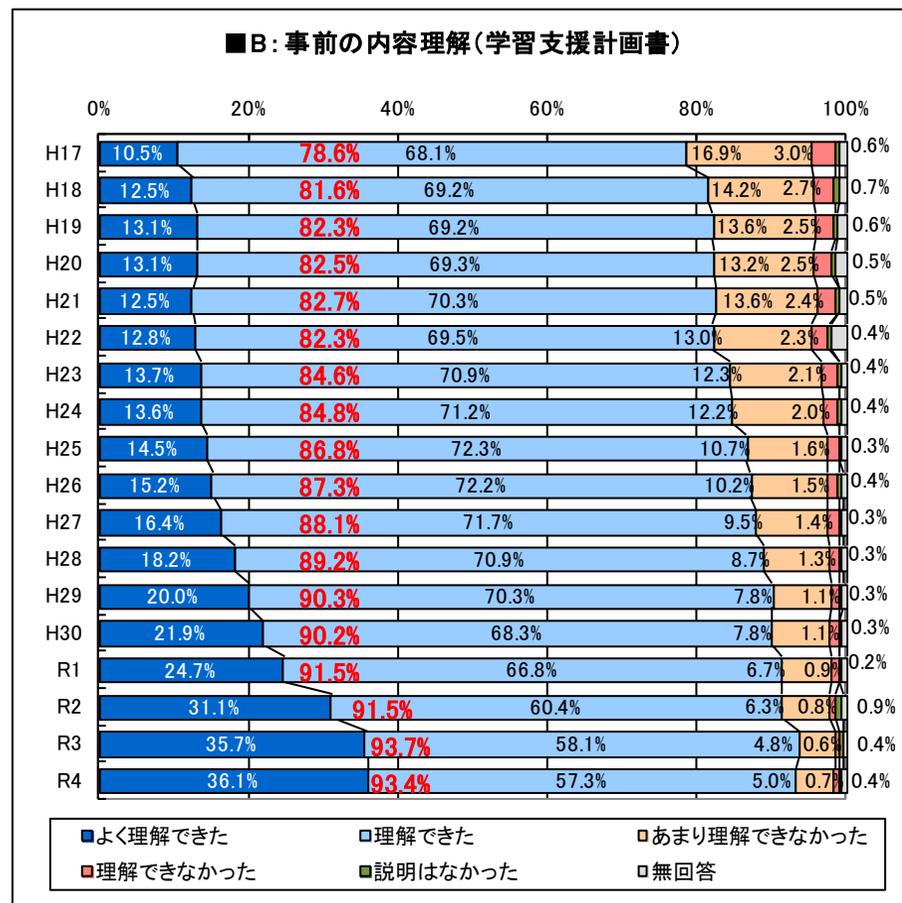
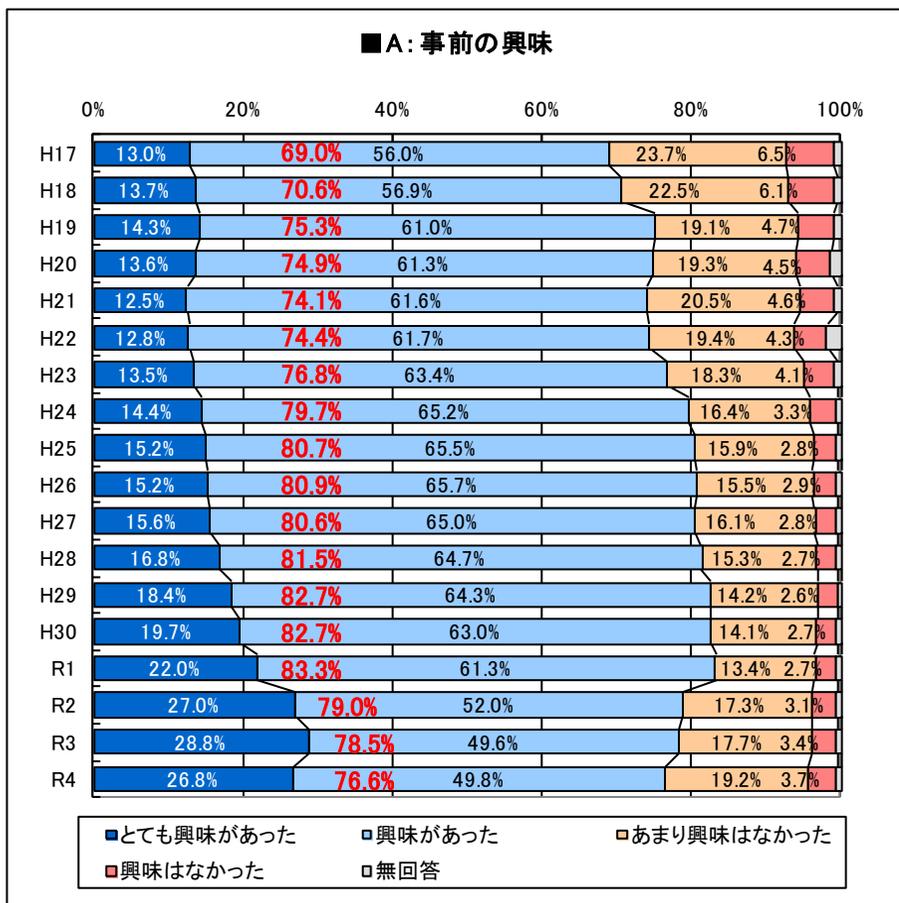


※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

<2> 基本的な分析

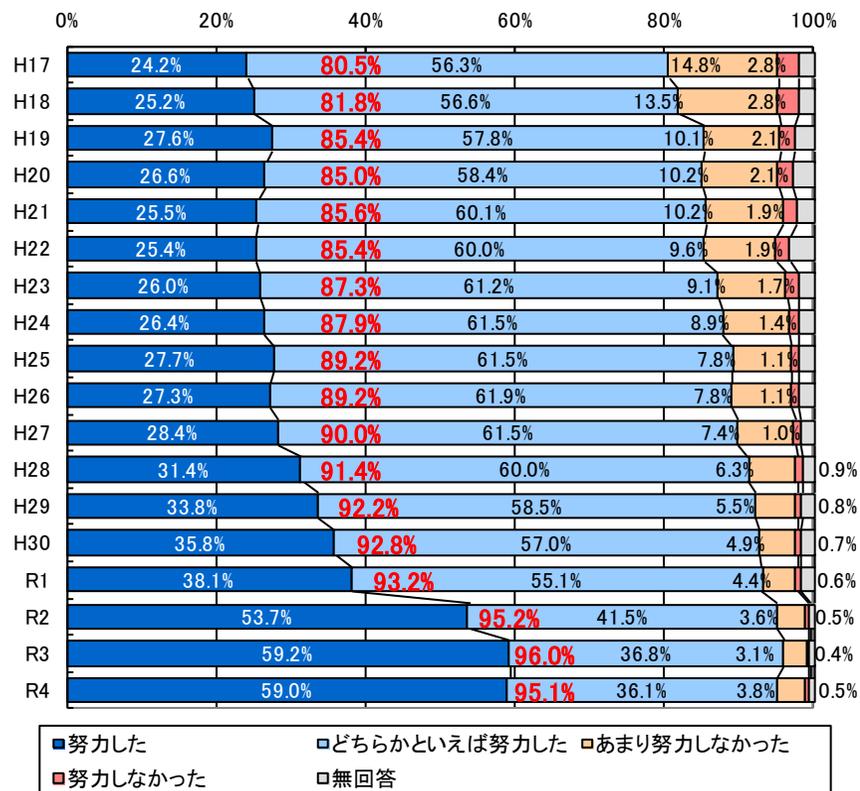
- 経年変化のグラフでは肯定的な意見の合計を赤太文字で示しているが、注意書きにあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。そして、「無回答」の数値は表示していない。
- 「A:事前の興味」の「とても興味があった」は26.8%で、過去最高であった前回を2.0ポイント下回って継続的な増加傾向が止まっていた。そして、「興味があった」も前回を下回って49.8%となり、肯定的な意見の合計もR1からの減少傾向が続いて76.6%となっていた。一方、否定的な意見は22.9%と、2割以上が授業に対する事前の興味を持っておらず、徐々に増加している点が気になった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の「よく理解できた」は増加傾向が続いて過去最高の36.1%となっていた。そして、「理解できた」が57.3%であり、肯定的な意見の合計は93.4%と、過去最高だった前回を0.3ポイント下回ってはいるものの、非常に高い状態が続いていた。

※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

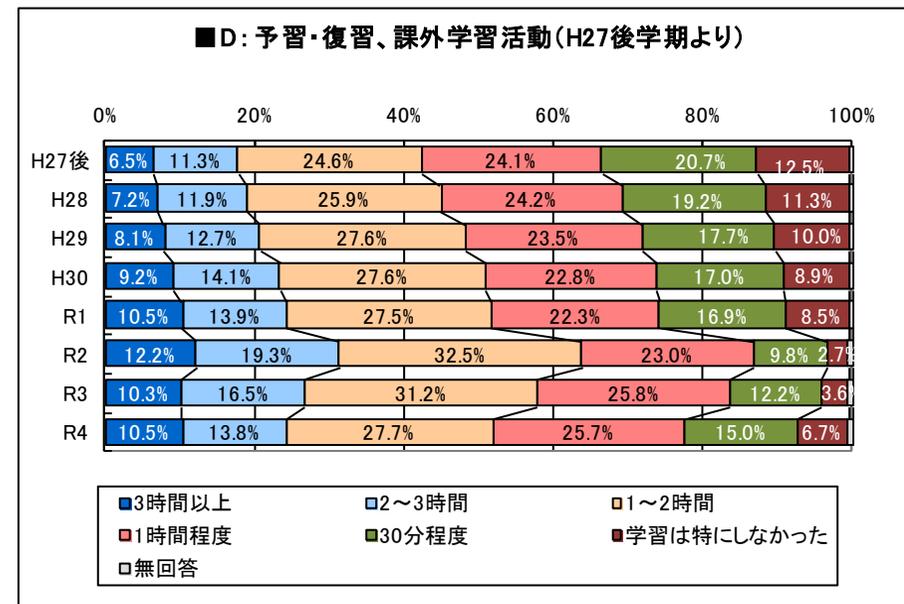
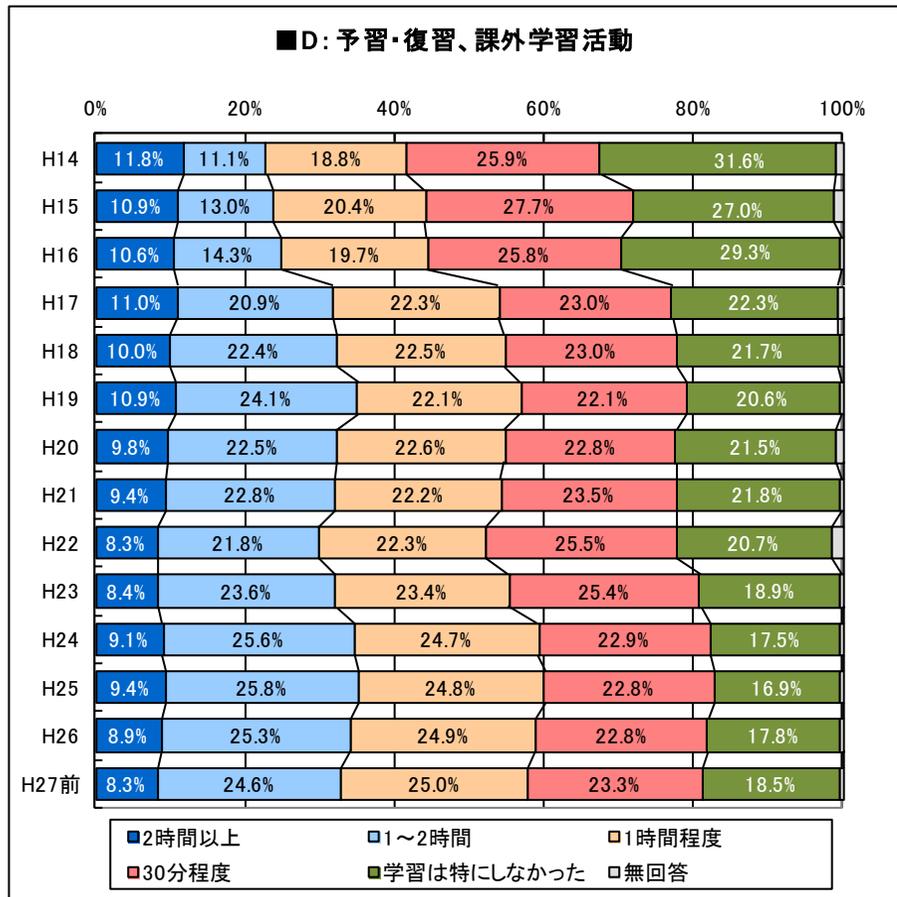


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、「努力した」は59.0%で、過去最高だった前回を0.2ポイント下回ったものの、R2から非常に高い状態が続いていた。そして、「どちらかといえば努力した」を加えると肯定的な意見は95.1%となり、多くの学生が熱意と努力を持って授業に取り組んでいる様子がうかがえた。

■ C: 自分の熱意と努力



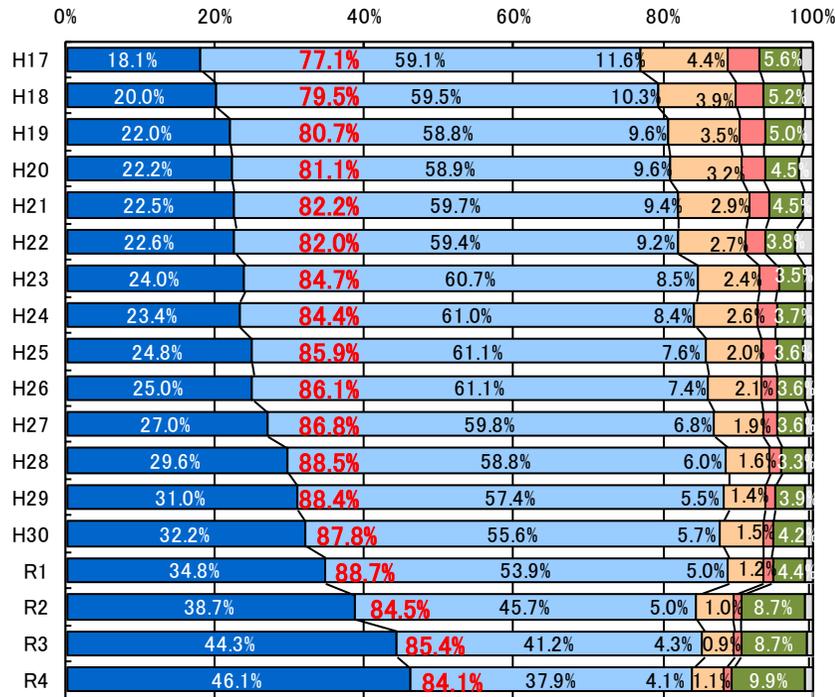
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後学期(H27後)以降は選択肢を変更したため、別のグラフ(右側)で比較をしている。
- 今回は「3時間以上」が10.5%、「2～3時間」が13.8%、「1～2時間」が27.7%であった。ここまでの合計をしっかりと学習時間を確保している層と考えると、「H27後」からR2までは学習時間が長くなる傾向が続いていたが、それ以降は減少傾向となっていた。
- 一方、「30分程度」は15.0%、「学習は特にしなかった」は6.7%であり、上記とは逆にR2から増加傾向が続いていた。



※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。
 ※H27後学期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

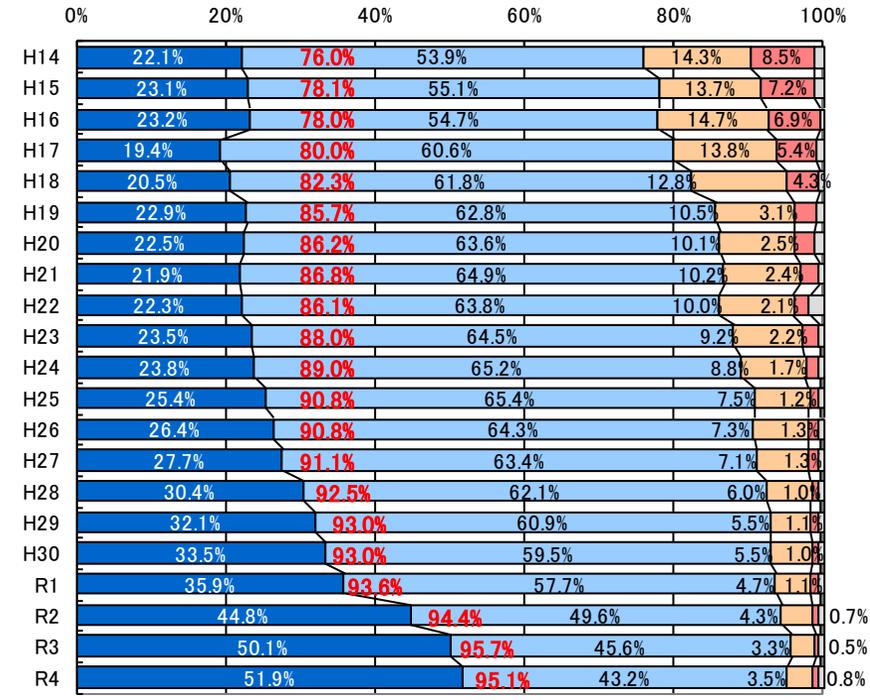
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は前回は1.8ポイント上回って過去最高の46.1%となっていた。そして、「まあ適切だった」の37.9%を加えると肯定的な意見は84.1%で、前回より1.3ポイント下がったが、R2から横ばいが続いていた。また、「教科書・指導書はなかった」がR2から増加傾向にあり、今回は9.9%と過去最高となっていた。これらより、教科書・指導書を強く評価する意見は増加したものの、教科書・指導書がない授業が増えたために肯定的な意見の合計はやや減少し、横ばいになっている状況がうかがえた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」は前回は1.8ポイント上回って過去最高の51.9%であった。そして、「役立った」の43.2%を加えると肯定的な意見の合計は95.1%であり、過去最高の前回は0.6ポイント下回ったものの、非常に高い状態が続いていた。

■E:教科書・指導書の適切さ



適切だった
 まあ適切だった
 あまり適切ではなかった
 適切ではなかった
 教科書・指導書はなかった
 無回答

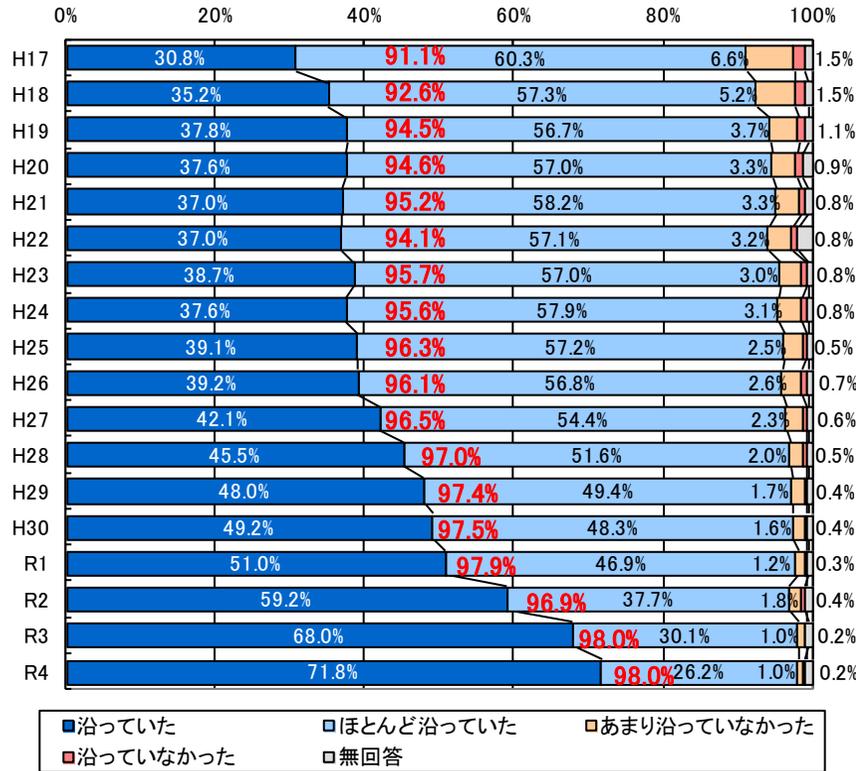
■F:課題・レポートの適切さ



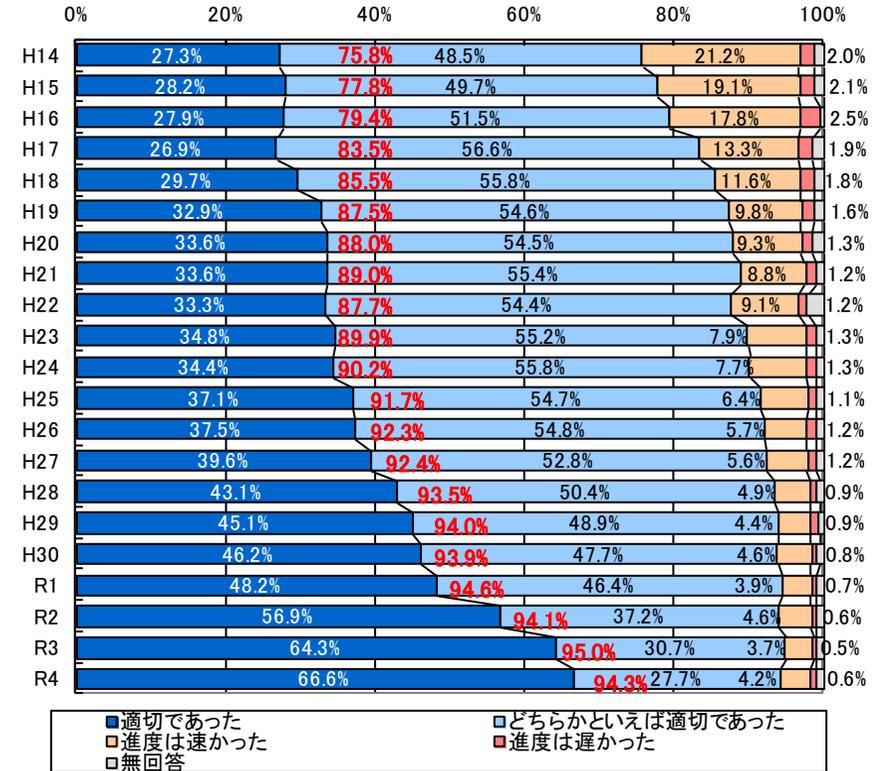
十分役立った
 役立った
 あまり役立たなかった
 課題またはレポート等はなかった
 無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」は前回は3.8ポイント上回って過去最高の71.8%となり、7割以上が学習支援計画書を強く評価する意見であった。そして、「ほとんど沿っていた」の26.2%を加えると肯定的な意見の合計は前回と同じく98.0%で、過去最高であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は2.3ポイント上回って過去最高の66.6%であり、強く評価する意見は継続的に増加していた。そして、「どちらかといえば適切であった」は27.7%で、肯定的な意見の合計は94.3%となり、過去最高の前回はわずかに下回ったものの、高い評価が続いていた。

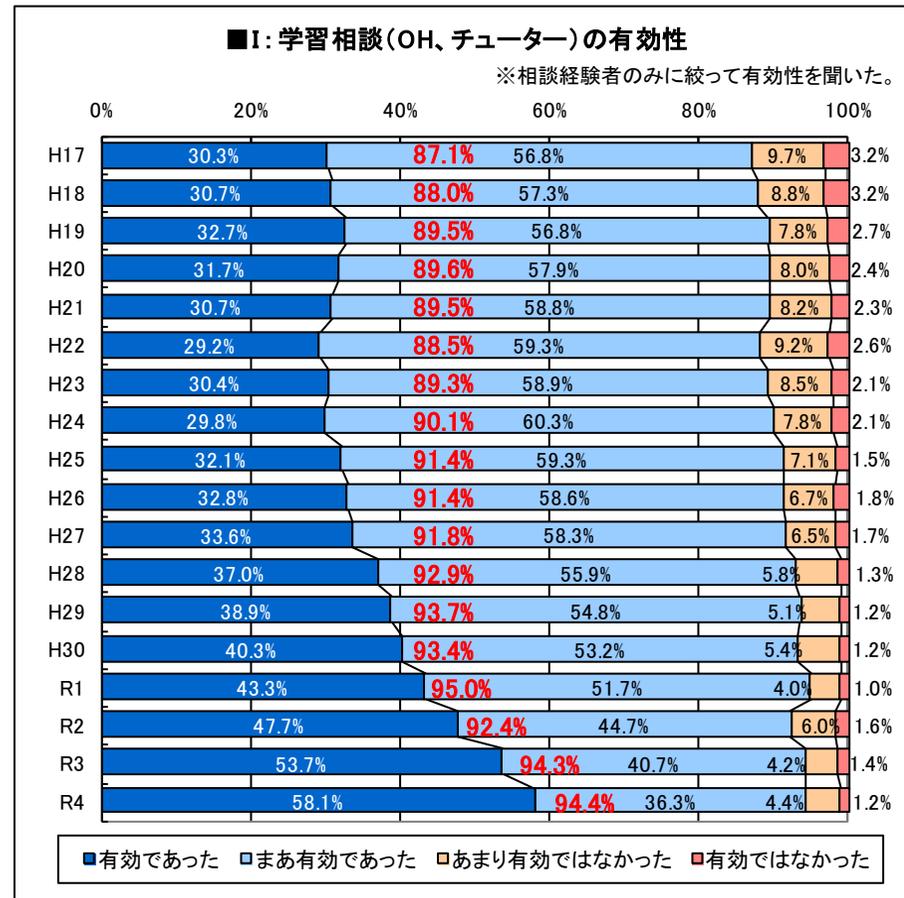
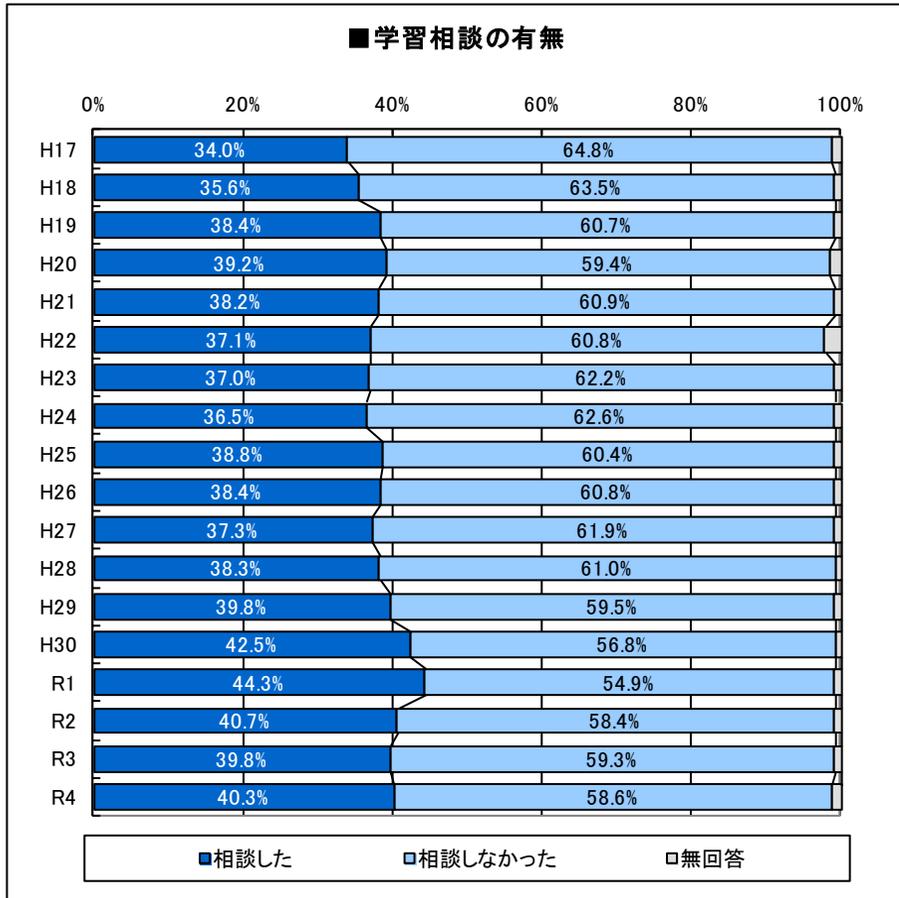
■ G: 学習支援計画書との一致



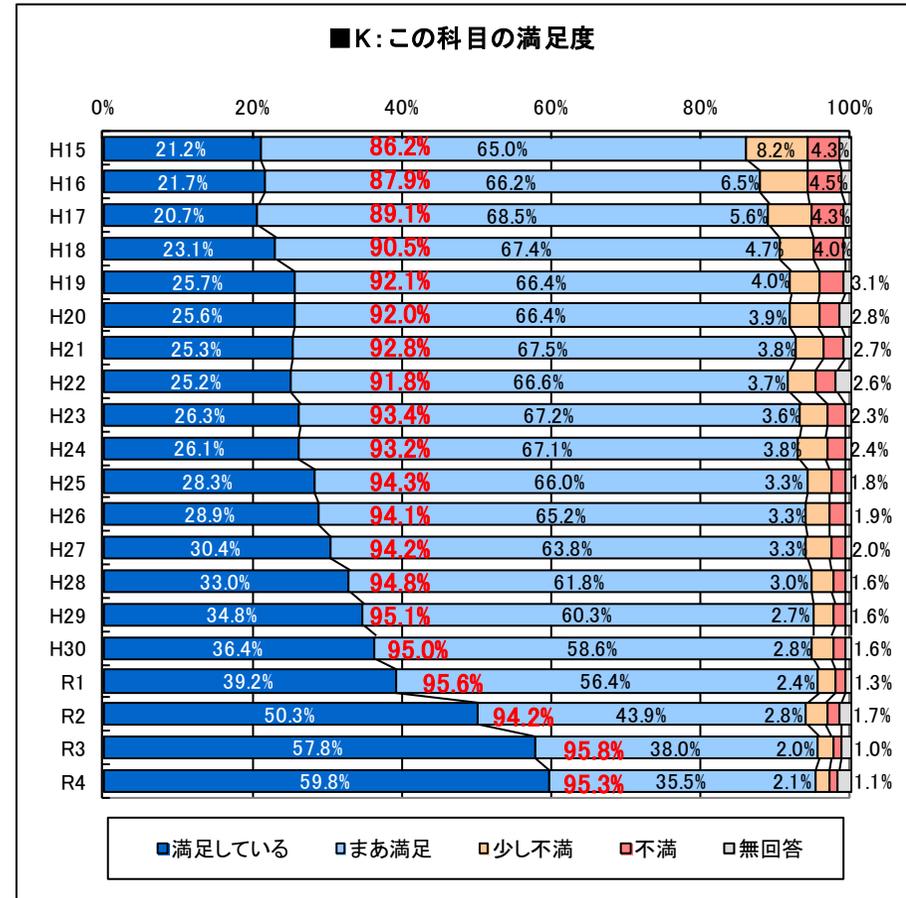
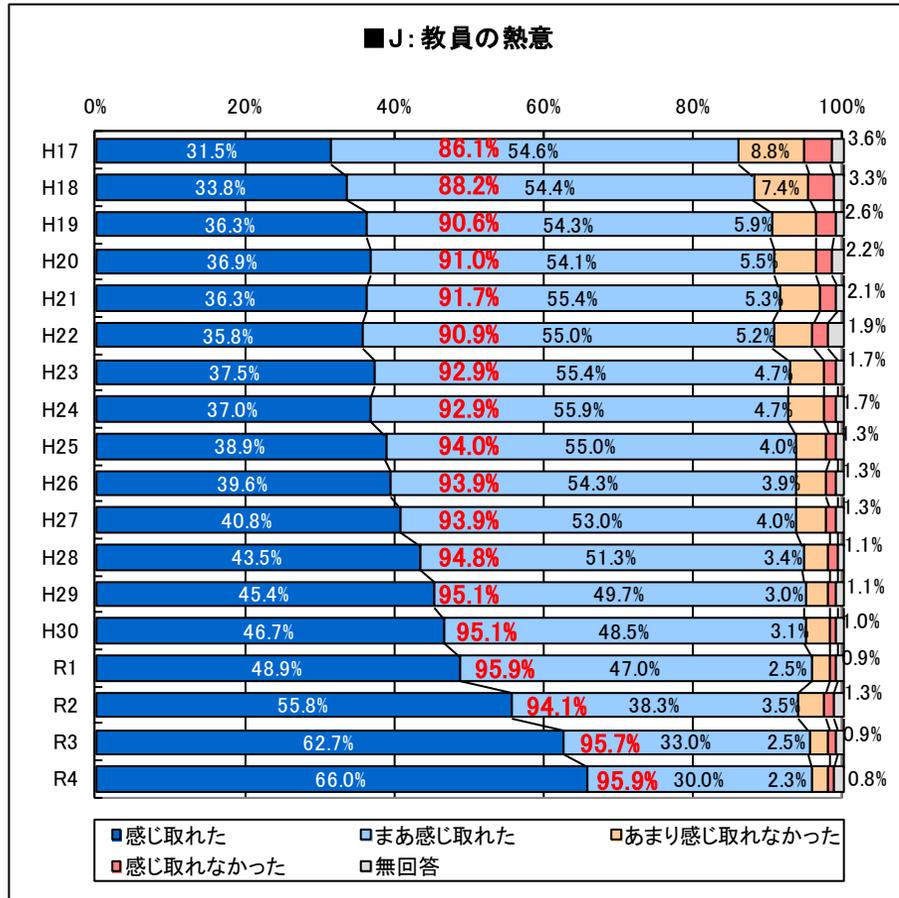
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であり、「有効であった」～「有効ではなかった」という内容の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- 左のグラフは「有効であった」～「有効ではなかった」の4段階評価で回答した学生を「相談した」層、それ以外を「相談しなかった」層として比較をしている。今回の「相談した」は40.3%、「相談しなかった」が58.6%であり、R2から横ばいが続いていた。
- 右のグラフは「相談した」と回答した学生に絞り込んで、「学習相談(OH、チューター)の有効性」を見ている。「有効であった」は継続的な増加傾向が続いて、過去最高の58.1%となっていた。そして、「まあ有効であった」の36.3%を加えた肯定的な意見の合計も過去最高の94.4%であり、「学習相談(OH、チューター)」の評価は非常に高い状態が続き、評価の内訳を見ると、強く評価する意見の増加が続いていると言える。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じる事ができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」は過去最高の66.0%であり、継続的な増加が続いていた。そして、「まあ感じ取れた」は30.0%で、肯定的な意見の合計もR1と同数で過去最高の95.9%であり、ほとんどの学生が授業が学習相談を通して教員の熱意を感じていると答えていた。
- 「K:この科目の満足度」に対しては、「満足している」が過去最高の59.8%であった。「満足している」の割合はR1からR3にかけて急激に増加しており、今回はやや鈍化したものの増加傾向は続いていた。そして、「まあ満足」の35.5%を加えると肯定的な意見の合計は95.3%であり、前回を0.5ポイント下回ったものの、非常に高い状態が続いていた。



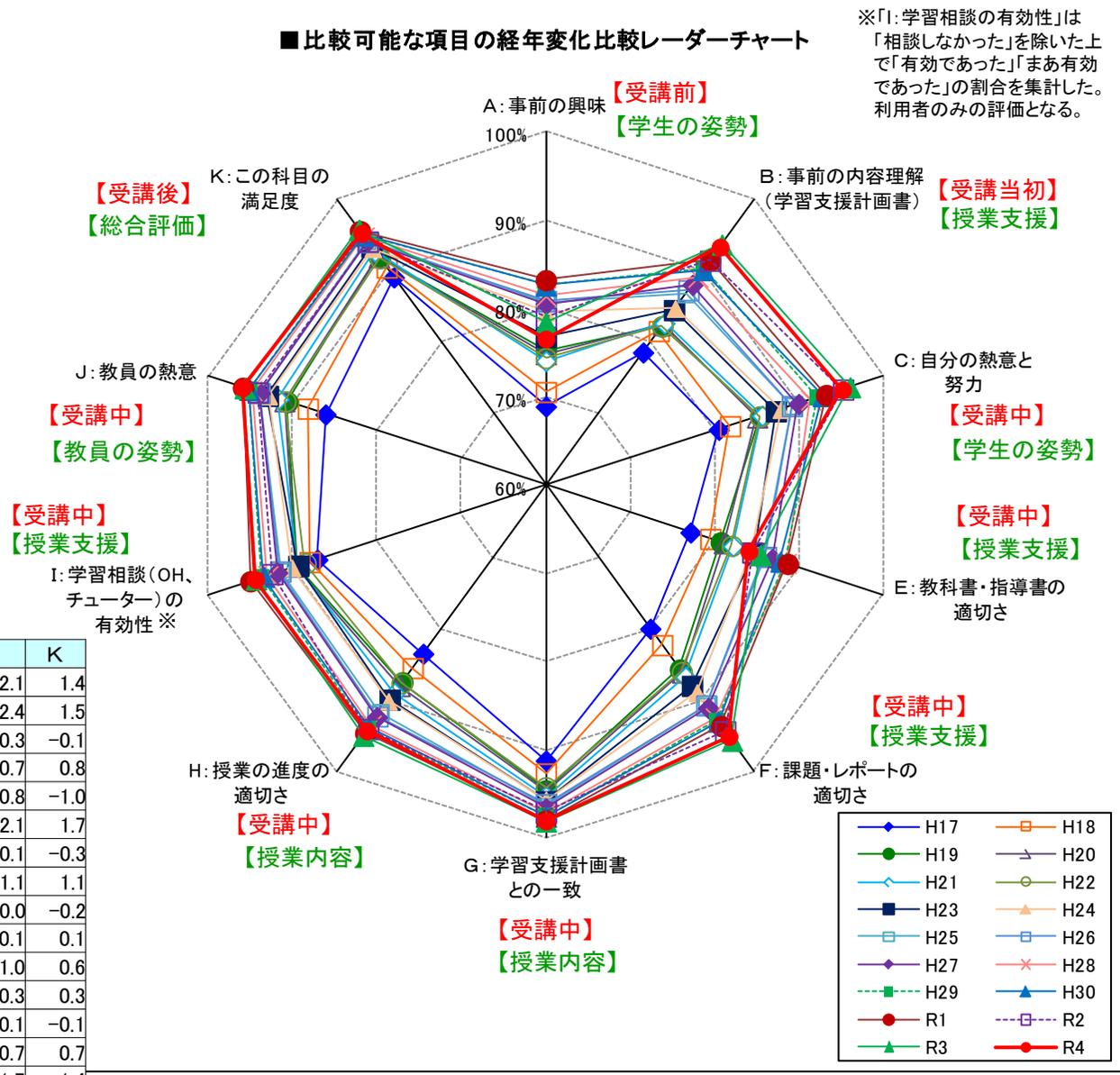
<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回の肯定的な意見の合計を見ると、前回を上回ったのは「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」と「J: 教員の熱意」の2項目のみであった。
- 肯定的な意見の合計では、「A: 事前の興味」と「E: 教科書・指導書の適切さ」はやや低めの評価となっていたが、強く評価する意見が増加している項目が多く、評価の質としては向上が続いていると言える。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30	-0.1	-0.1	0.6	-0.5	0.0	0.1	-0.1	-0.3	0.1	-0.1
H30からR1	0.6	1.3	0.4	0.9	0.6	0.4	0.7	1.6	0.7	0.7
R1からR2	-4.3	0.0	2.0	-4.2	0.7	-1.0	-0.6	-2.6	-1.7	-1.4
R2からR3	-0.5	2.3	0.8	1.0	1.3	1.1	1.0	1.9	1.6	1.7
R3からR4	-1.9	-0.3	-0.9	-1.4	-0.6	-0.1	-0.7	0.1	0.2	-0.5

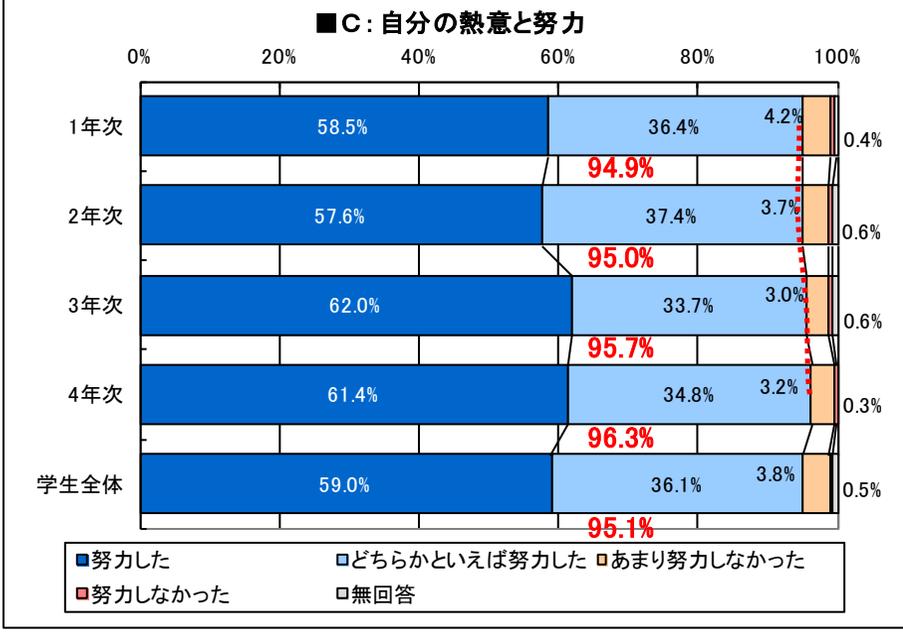
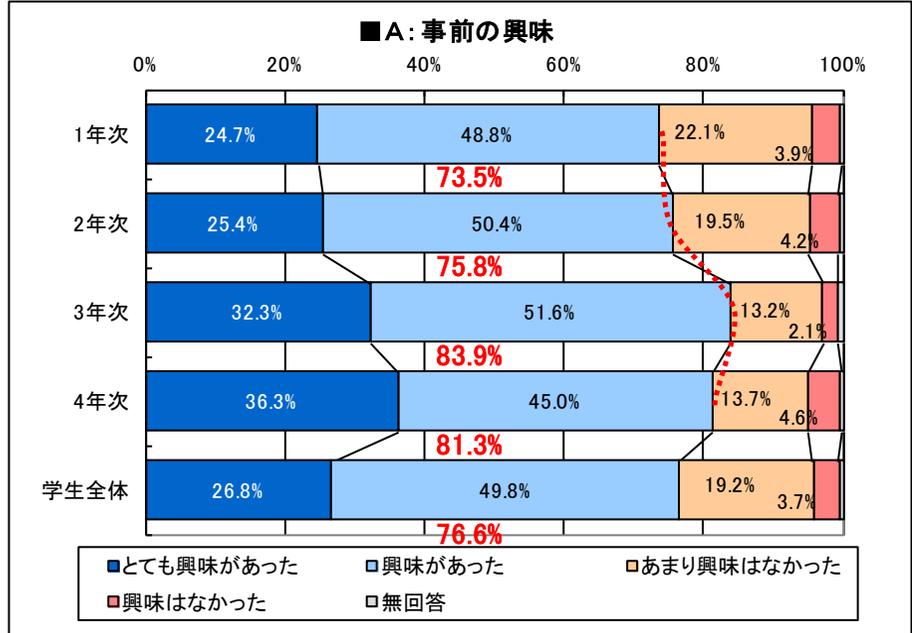
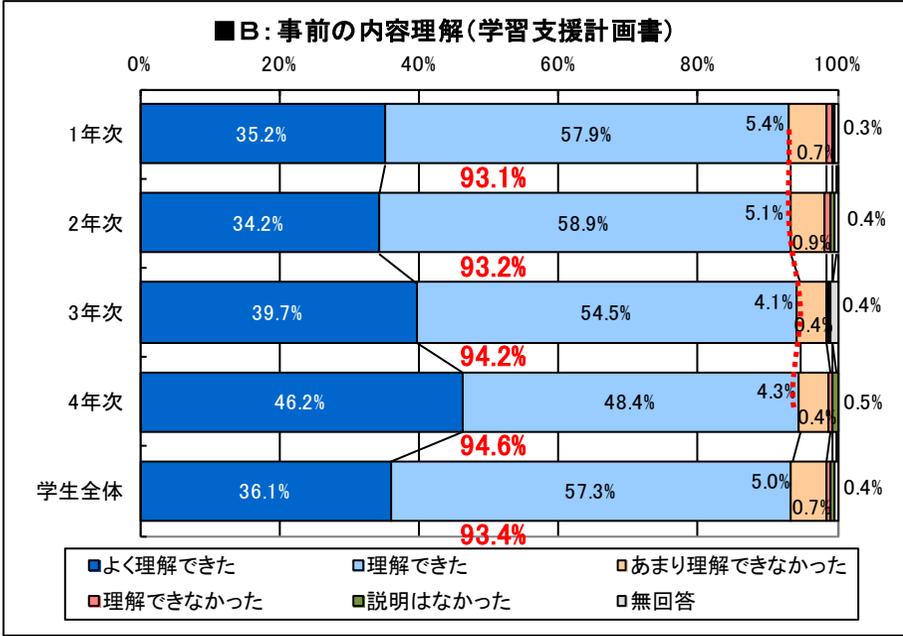
■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート



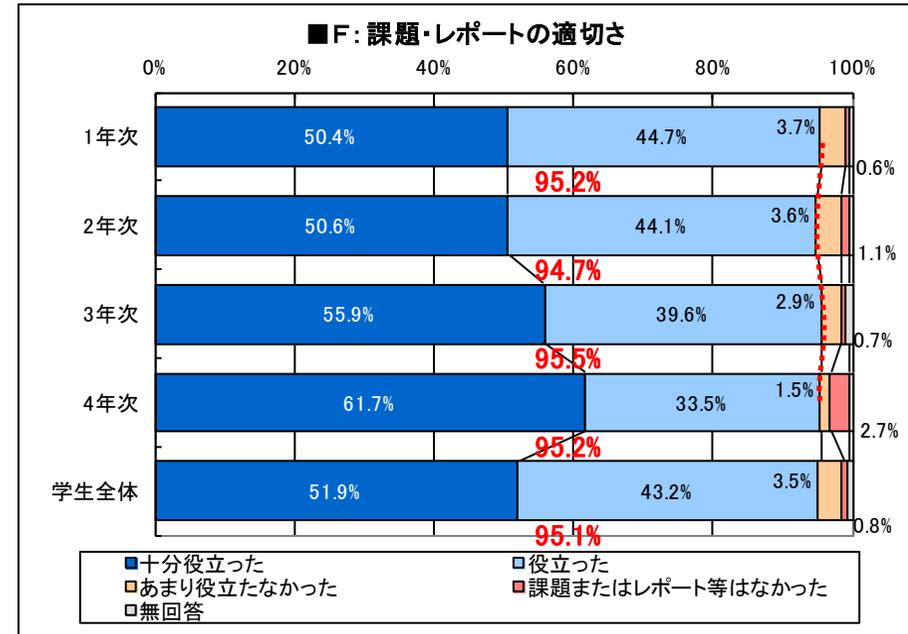
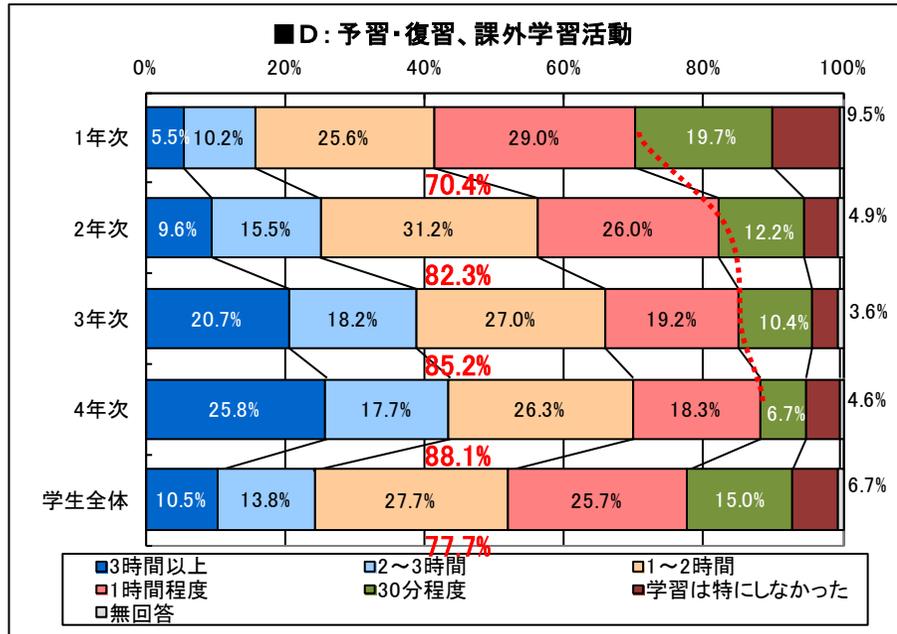
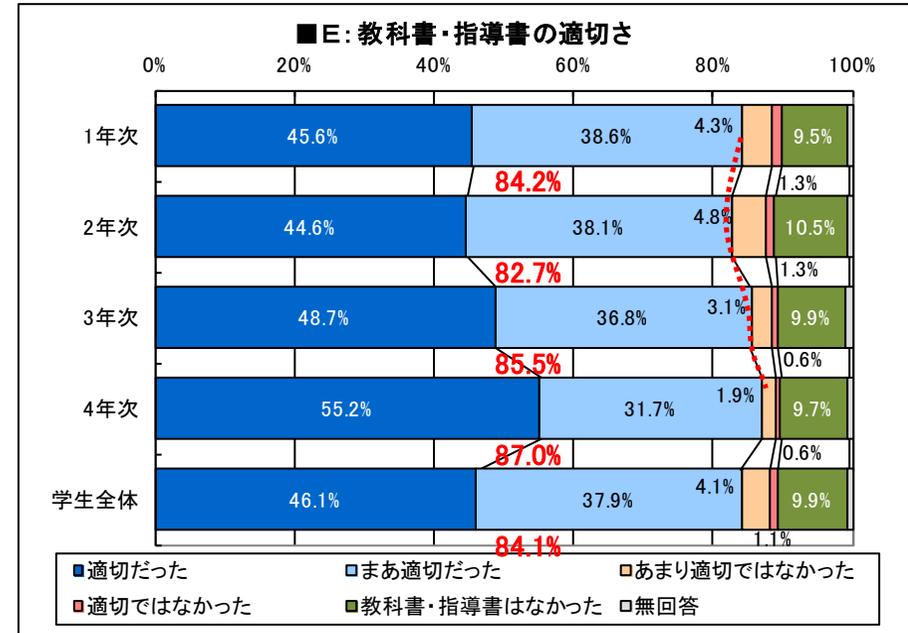
◆ H17	□ H18
● H19	△ H20
◇ H21	○ H22
■ H23	▲ H24
□ H25	□ H26
◆ H27	× H28
■ H29	▲ H30
● R1	○ R2
▲ R3	● R4

<3> 学年別の分析

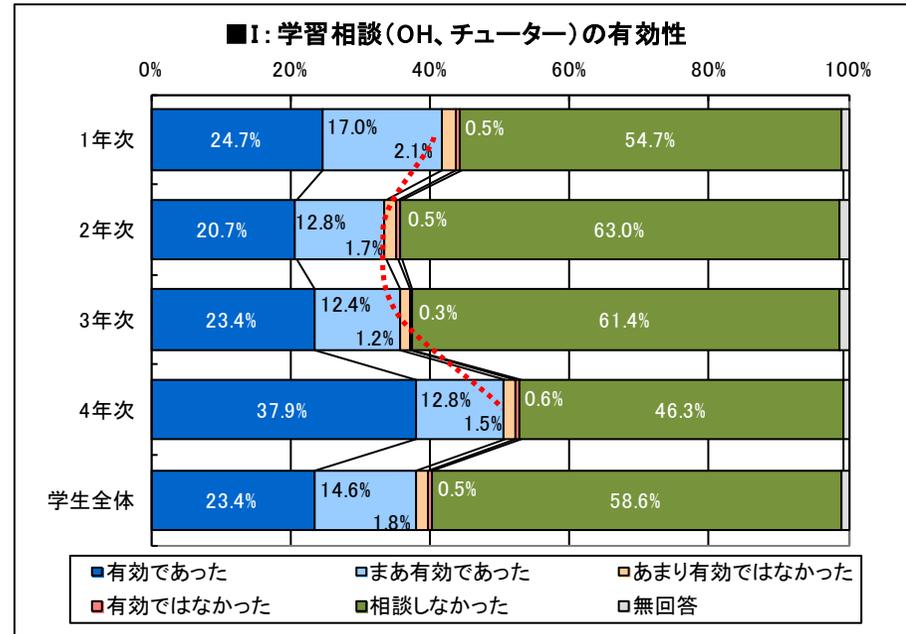
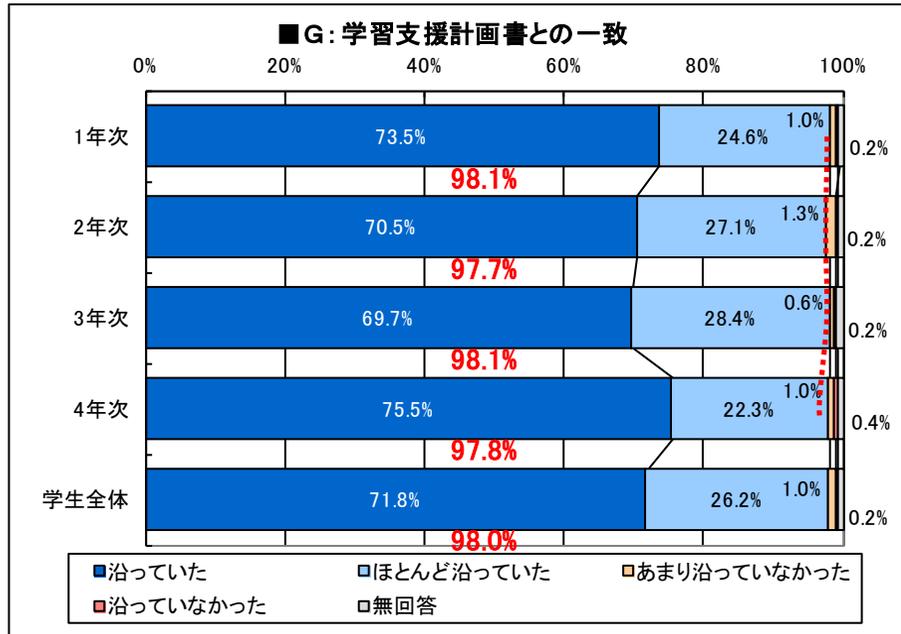
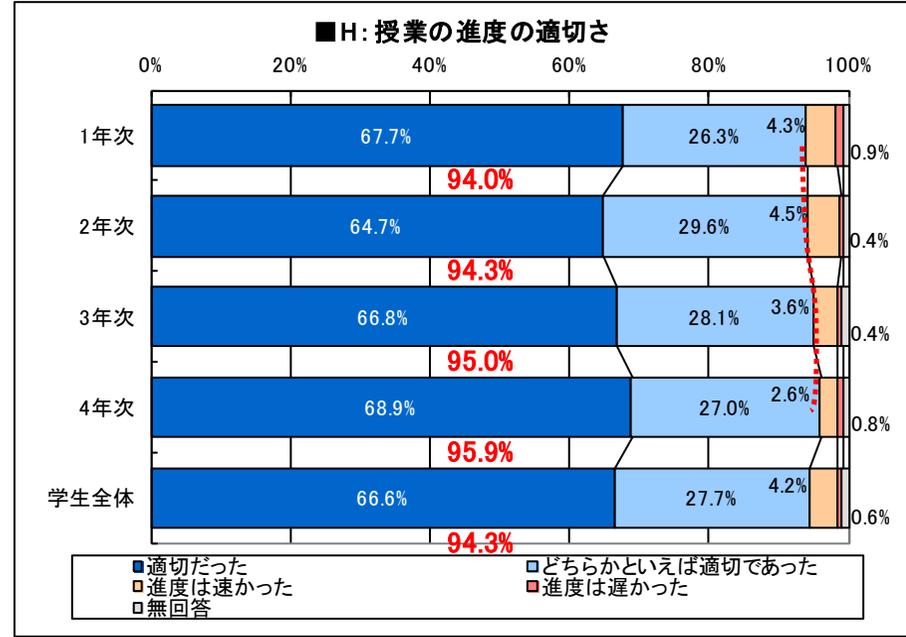
- グラフ中の赤太文字は、肯定的な意見の合計を示している。
- 「A:事前の興味」の肯定的な意見の合計を見ると、「1年次」から「3年次」にかけては高学年ほど多くなっていった。また、「とても興味があった」だけを見ると「4年次」まで高学年ほど多くなっており、学年が上がるほど授業に強い興味を持っている傾向が確認できた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見の合計は学年による差がほとんど見られなかったが、「よく理解できた」だけを見ると、「1年次」と「2年次」がほぼ同じで、それ以降は高学年ほど多くなっており、学年が上がるほど、しっかりと事前の内容理解ができているようであった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計は学年による差がほとんど見られず、いずれの学年でも95%以上が肯定的な意見であった。そして、「努力した」だけを見ると、最高が「3年次」の62.0%、最低が「2年次」の57.6%であり、差は4.4ポイントと小さく、学年との相関関係は見られなかった。



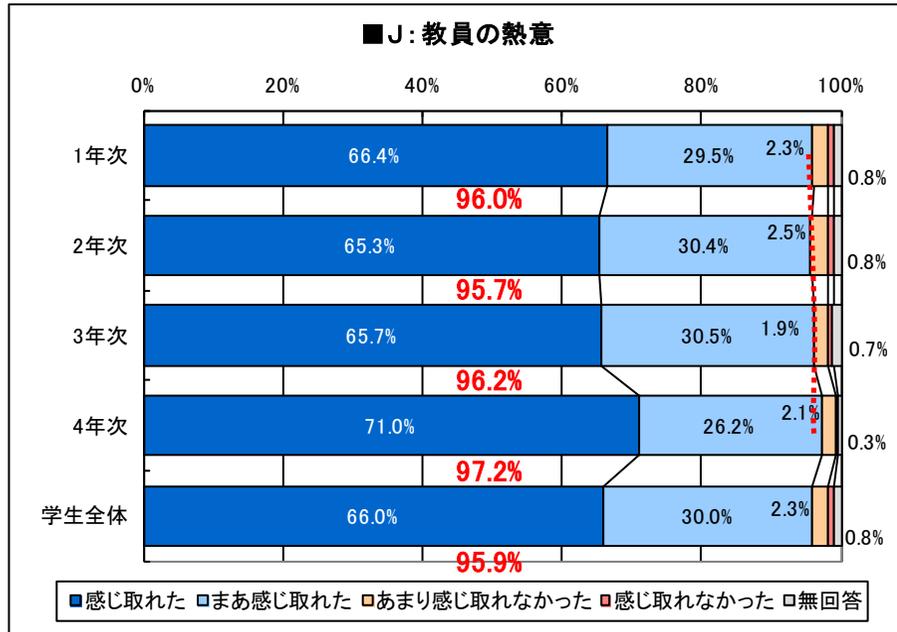
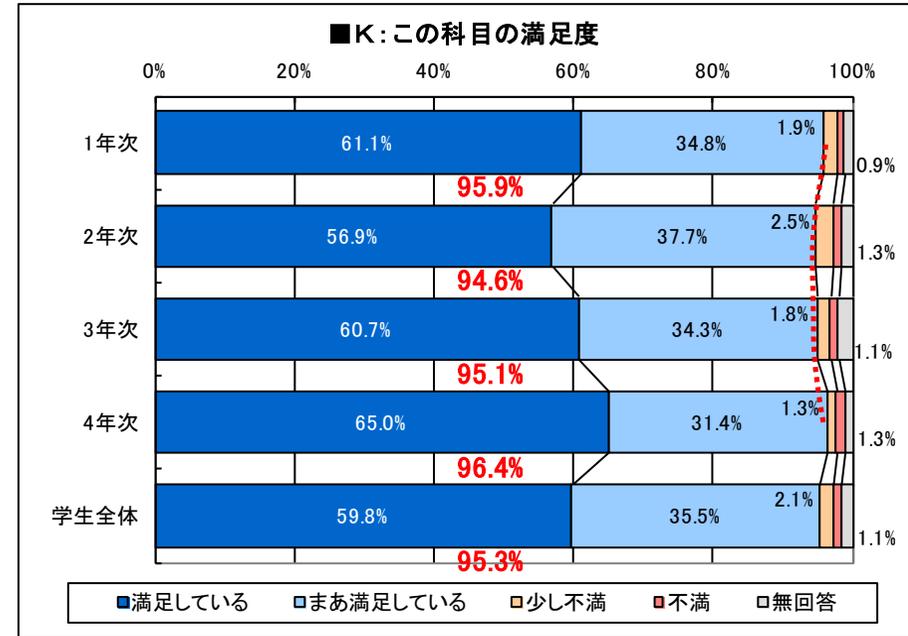
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で比較の目安として「1時間程度」までの合計(グラフ内の赤太文字)を学年別に見ると、高学年ほど多く、差は最大で17.7ポイントとなっていた。内訳を見ると高学年ほど「3時間以上」が多い点が目立っており、学年が上がるほどしっかりと学習時間を確保している傾向が確認できた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見の合計を見ると、差は最大で4.3ポイントと大きくはなかったが、「2年次」が最も少なく、それ以降は高学年ほど増加する傾向が見られた。また、「適切だった」も同じ傾向で、「2年次」と「4年次」の差は10.6ポイントであり、高学年が教科書・指導書を高く評価する傾向となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見の合計の差は最大で0.8ポイントと小さく、いずれの学年でもほぼ95%が肯定的な意見で、高い評価となっていた。また、「十分役立った」だけを見ると高学年ほど多く、「1年次」と「2年次」の差はわずかであるが、「4年次」では61.7%と、課題・レポートを強く評価する意見が非常に多かった。



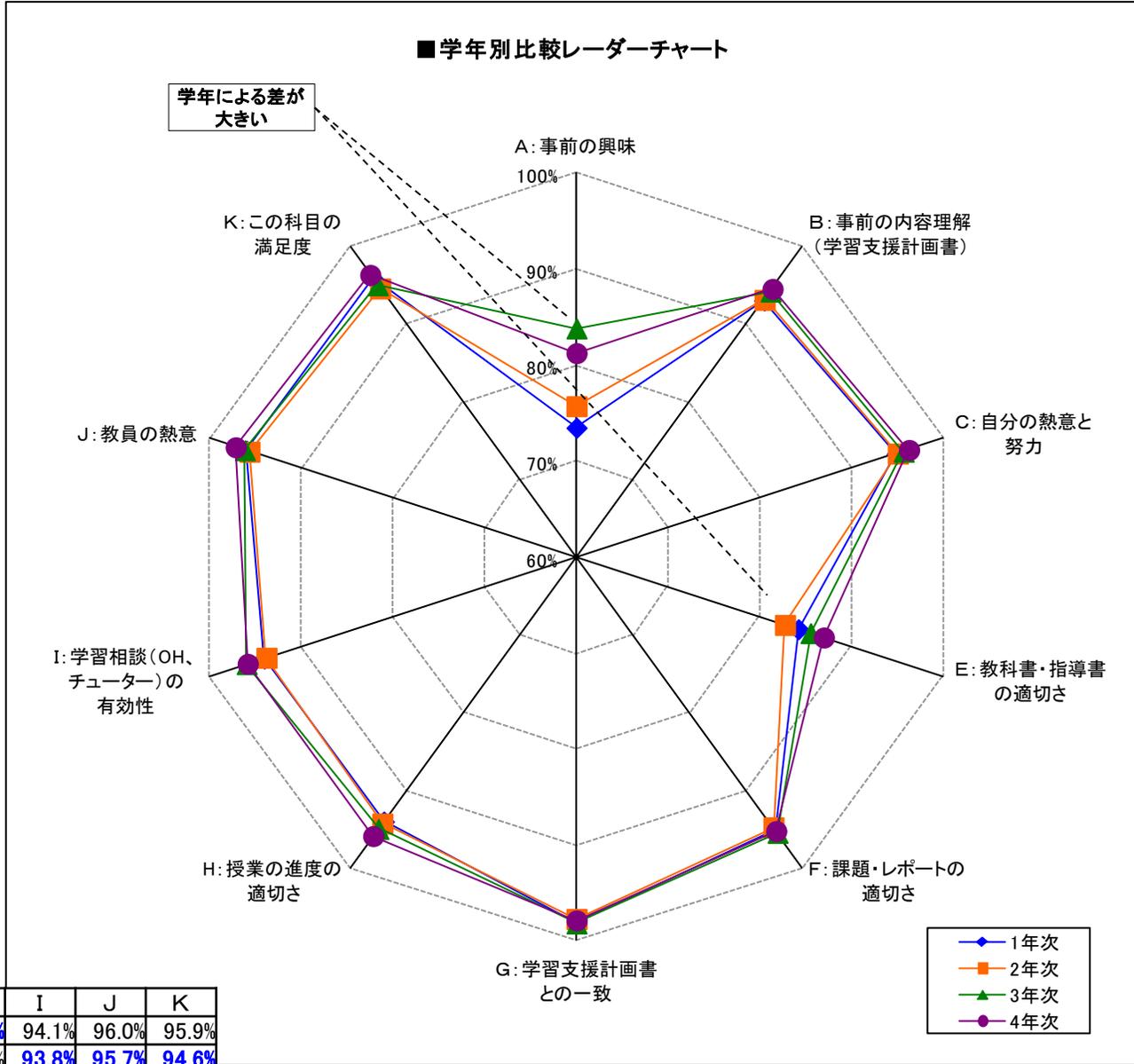
- 「G:学習支援計画書との一致」では、いずれの学年でもほぼ98%が肯定的な意見であり、差は最大でも0.4ポイントとわずかであった。また、「沿っていた」だけを見ても差は最大で5.8ポイントと大きくなく、学年との相関関係は見られなかったが、最も高いのは「4年次」の75.5%であり、「1年次」「2年次」「3年次」と続いていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の95.9%であり、差は最大で1.9ポイントと小さいものの、高学年ほど高い評価であった。また、「適切だった」だけを見ても、最も多かったのは「4年次」の68.9%であったが、学年との相関関係は見られず、「2年次」が64.7%で最も少なかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」を見ると、「4年次」が特徴的で、「有効であった」が37.9%と多さが目立っており、「相談しなかった」は46.3%で最も少なかった。「4年次」に似ていたのは「1年次」であり、「有効であった」の多さと「相談しなかった」の少なさが目立っていた。一方、「2年次」と「3年次」は「相談しなかった」が多いという特徴が見られたが、いずれの学年でも否定的な意見は3%に満たず、利用者の評価としては高いと言える。



- 「J:教員の熱意」の肯定的な意見の合計は、いずれの学年でも95%を超えており、ほとんどの学生が教員の熱意を感じたと答えていた。そして、「感じ取れた」だけを見ると「4年次」が71.0%とやや多かったが、いずれの学年でも65%以上で非常に多く、差は最大でも5.7ポイントと大きなものではなかった。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的な意見の合計が最も多かったのは「4年次」の96.4%であり、「1年次」が95.9%、「3年次」が95.1%、「2年次」が94.6%と続いており、いずれの学年でも非常に高い満足度となっていた。そして、「満足している」だけを見ると「4年次」が65.0%とやや多く、強く満足している様子がうかがえた。一方、最も少なかったのは「2年次」の56.9%であったが、これも十分に高いものであった。



- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 学年による差の大きさが目立っていたのは「A:事前の興味」であり、「1年次」と「2年次」の低さが目立っていた。また、「E:教科書・指導書の適切さ」も学年による差が少し見られた。
- 上記以外の項目では、学年による大きな差は見られなかったものの、下記の表を見ると、肯定的な意見は「4年次」で多く、「1年次」と「2年次」で少なめであった。ただし、差はわずかであり、授業に関して大きな課題のある学年はなさそうであった。



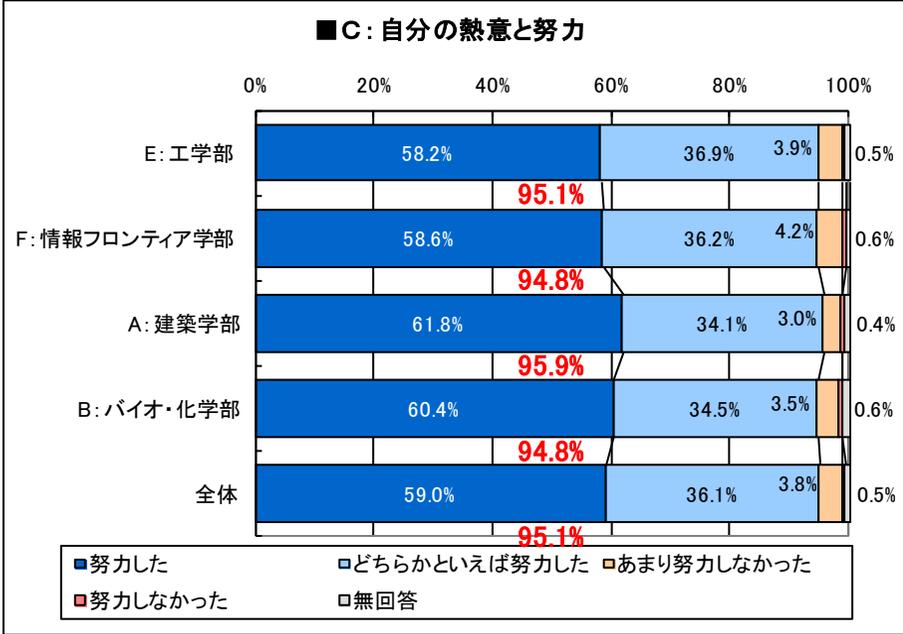
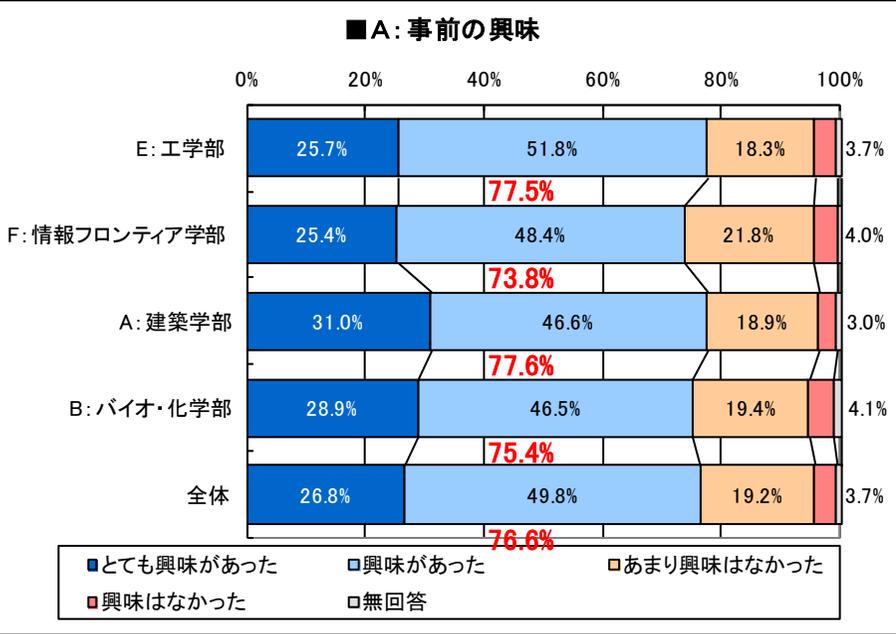
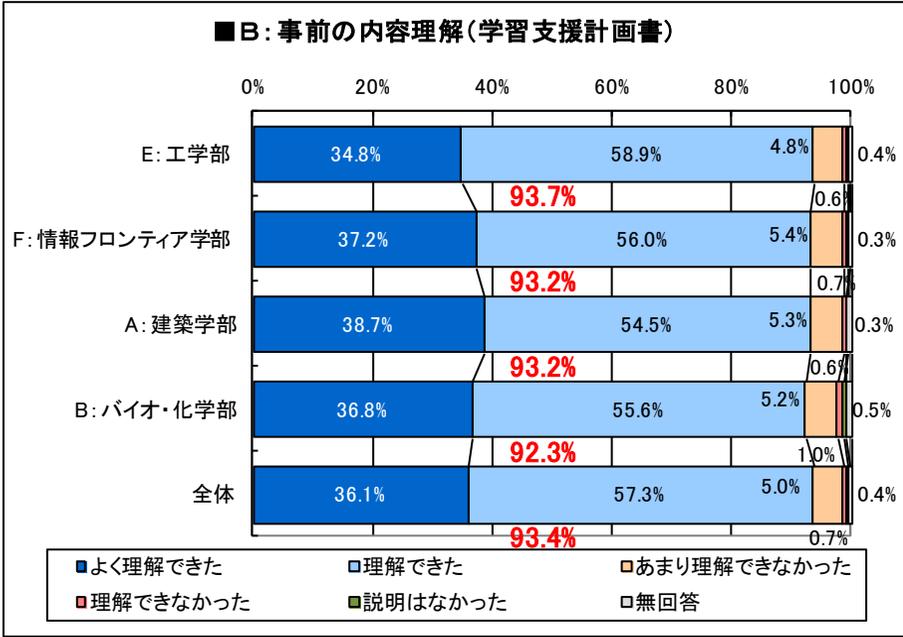
■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次	73.5%	93.1%	94.9%	84.2%	95.2%	98.1%	94.0%	94.1%	96.0%	95.9%
2年次	75.8%	93.2%	95.0%	82.7%	94.7%	97.7%	94.3%	93.8%	95.7%	94.6%
3年次	83.9%	94.2%	95.7%	85.5%	95.5%	98.1%	95.0%	96.0%	96.2%	95.1%
4年次	81.3%	94.6%	96.3%	87.0%	95.2%	97.8%	95.9%	95.9%	97.2%	96.4%

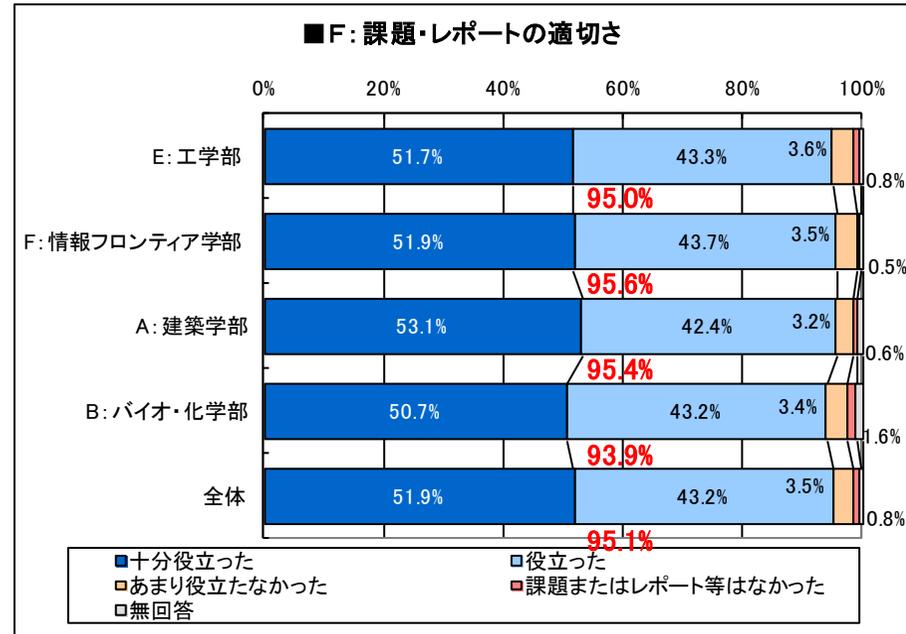
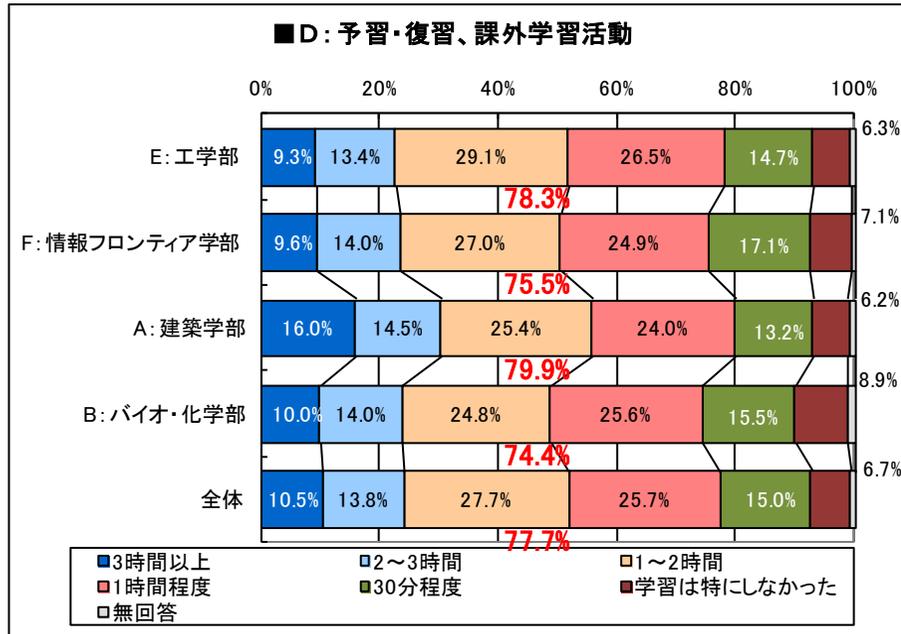
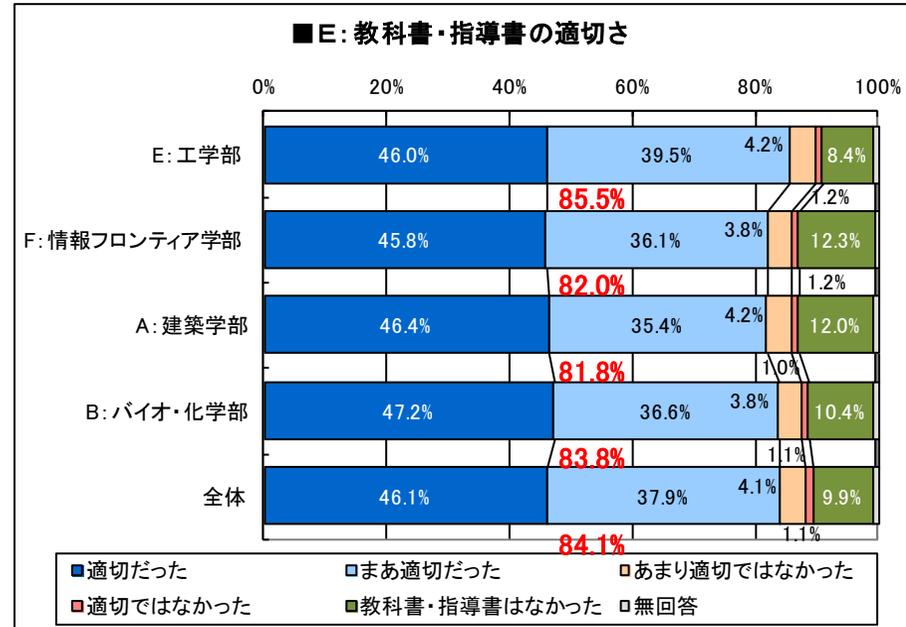
※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

<4>学部・学科別の分析

- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の77.6%であり、ほぼ同数で「E:工学部」の77.5%が続いていた。そして、「B:バイオ・化学部」が75.4%、「F:情報フロンティア学部」が73.8%であり、差は最大で3.8ポイントと小さかった。そして、「とても興味があった」は「A:建築学部」が31.0%でやや目立っており、最も少なかったのは、「F:情報フロンティア学部」の25.4%であった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」の93.7%であったが、「F:情報フロンティア学部」と「A:建築学部」が93.2%、「B:バイオ・化学部」が92.3%であり、差はほとんどなかった。「よく理解できた」の差も最大で3.9ポイントで、事前の内容理解には学部による差は見られなかった。
- 「C:自分の熱意と努力」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の95.9%であり、「E:工学部」が95.1%、「F:情報フロンティア学部」と「B:バイオ・化学部」が94.8%で続いており、差は1.1ポイントとわずかであった。「努力した」の差も最大で3.6ポイントと小さく、授業に対する熱意と努力には学部による差はほとんど見られなかった。

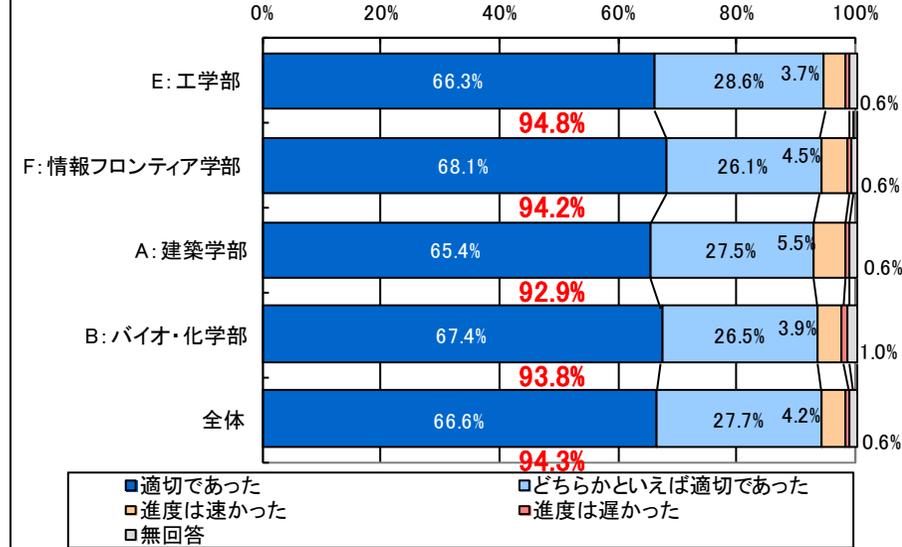


- 「D:予習・復習、課外学習活動」の比較の目安として、「1時間程度」までの合計を見ると、最も多かったのは「A:建築学部」の79.9%であり、特に「3時間以上」が多い点が特徴的であった。次いで、「E:工学部」が78.3%、「F:情報フロンティア学部」が75.5%、「B:バイオ・化学部」が74.4%で続いていた。ただし、差は最大で5.5ポイントであり、それほど大きなものではなかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」の85.5%であり、「B:バイオ・化学部」が83.8%、「F:情報フロンティア学部」が82.0%、「A:建築学部」が81.8%で続いており、差は最大で3.7ポイントと小さかった。そして、「E:工学部」では「教科書・指導書はなかった」が8.4%と、やや少ない点が特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の95.6%であり、「A:建築学部」が95.4%、「E:工学部」が95.0%、「B:バイオ・化学部」が93.9%で続いており、差は最大でも1.7ポイントと小さく、課題・レポートはすべての学部で非常に高い評価となっていた。

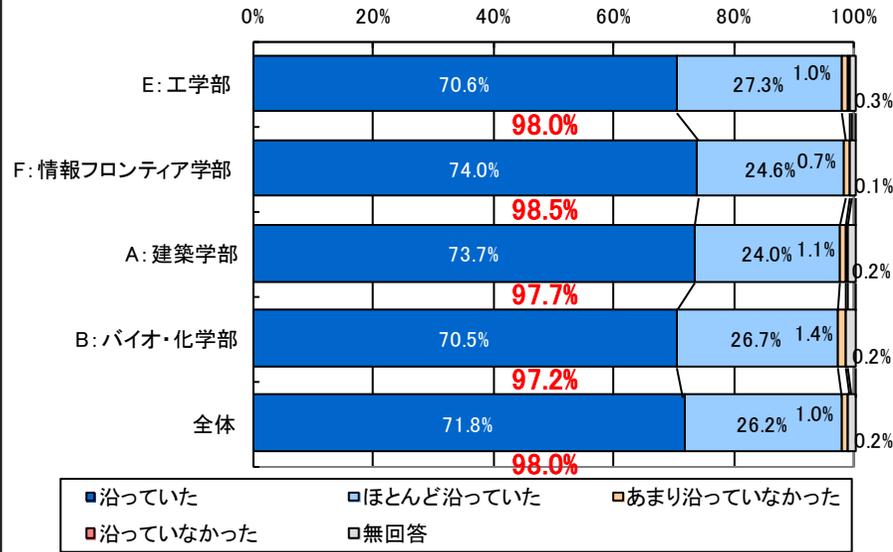


- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の98.5%であり、「E:工学部」が98.0%、「A:建築学部」が97.7%、「B:バイオ・化学部」が97.2%で続いており、すべての学部のほとんどの学生が肯定的な意見であった。そして、いずれの学部でも「沿っていた」が70%以上であり、学習支援計画書の評価は非常に高かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」の94.8%であり、「F:情報フロンティア学部」が94.2%、「B:バイオ・化学部」が93.8%、「A:建築学部」が92.9%で続いており、学部による差は最大でも1.9ポイントと小さく、いずれの学部も高い評価であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」の「相談しなかった」の割合は、「F:情報フロンティア学部」が62.0%、「E:工学部」が60.5%で、この2学部がやや多かった。一方、「A:建築学部」と「B:バイオ・化学部」は「相談しなかった」が少なく「有効であった」が多く、学習相談を有効に活用している様子が見えてきた。

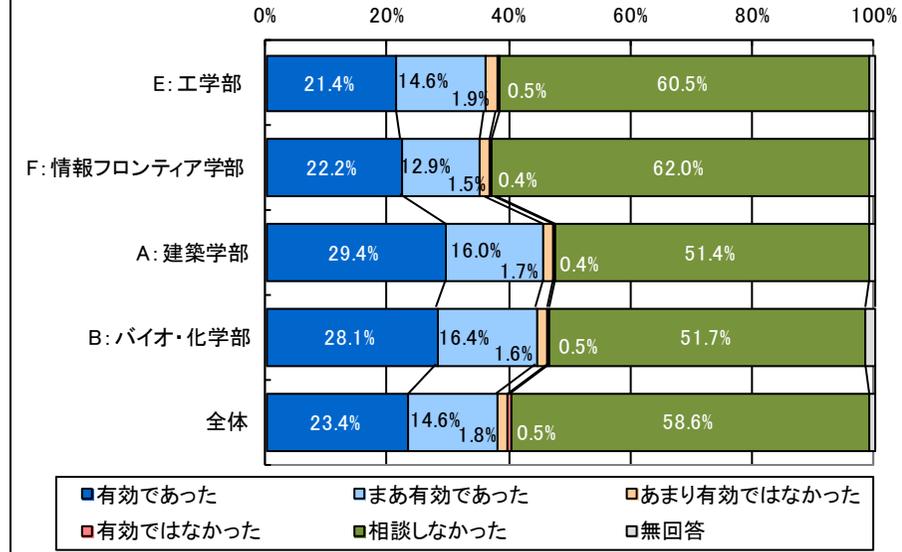
■ H: 授業の進度の適切さ



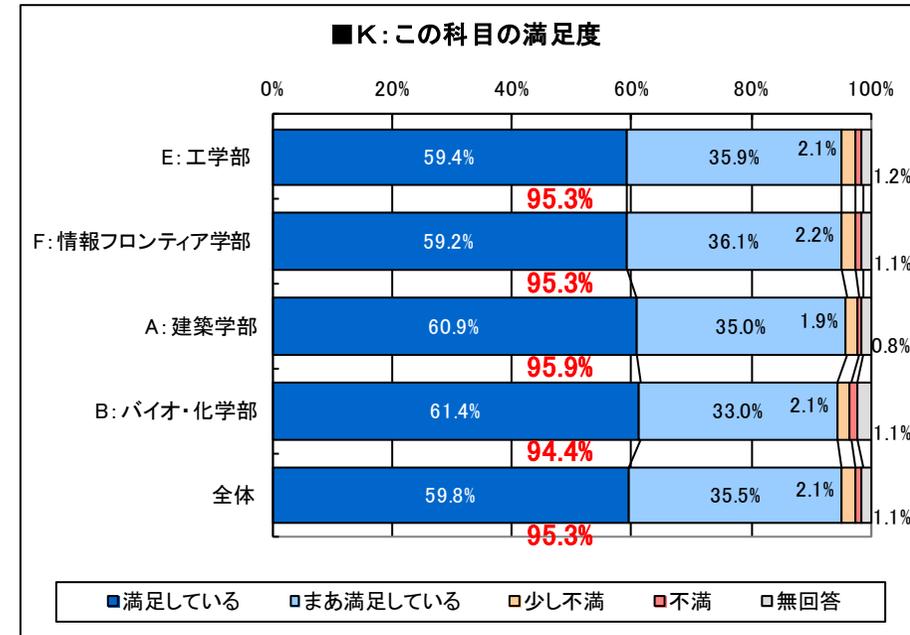
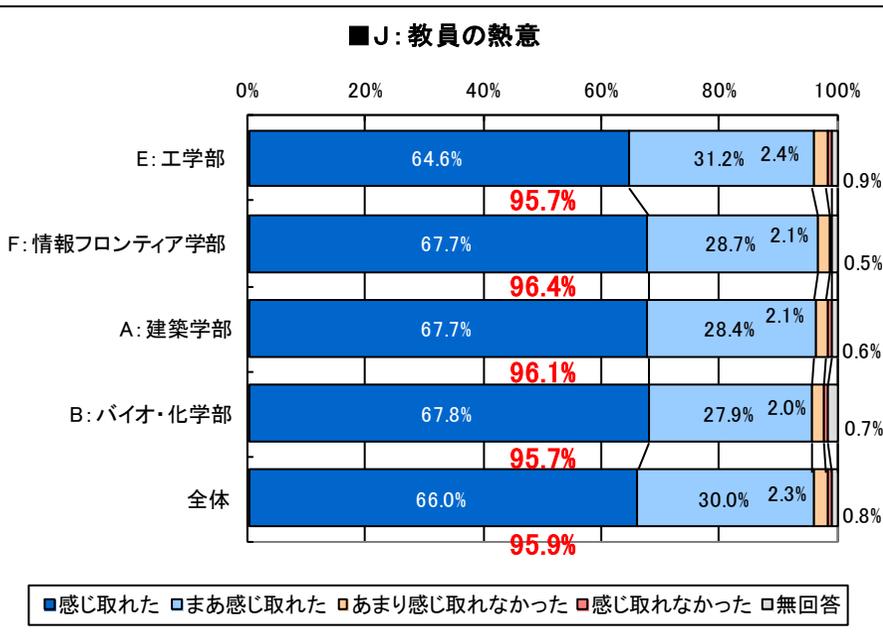
■ G: 学習支援計画書との一致



■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



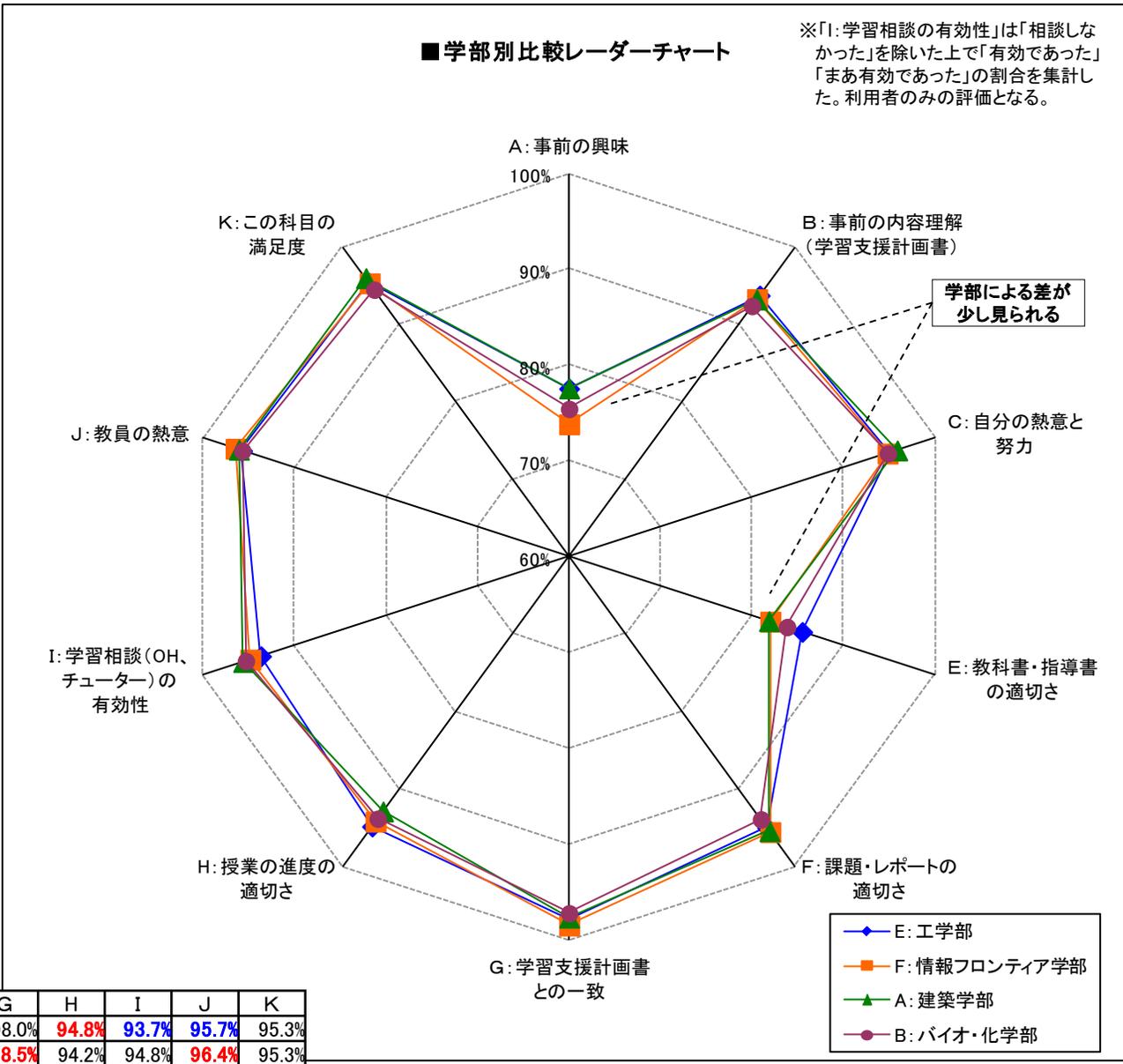
- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の96.4%であり、「A:建築学部」が96.1%、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」が95.7%で続いており、いずれの学部でもほとんどの学生が教員の熱意を感じ取れたと答えていた。内訳を見ても全学部で「感じ取れた」が6割強を占めており、教員の熱意を強く感じている様子が見られた。
- 「K:この科目の満足度」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の95.9%であり、「E:工学部」と「F:情報フロンティア学部」が95.3%、「B:バイオ・化学部」が94.4%で続いており、いずれも高い満足度となっていた。内訳を見ても「満足している」が約6割を占めており、学部による差は見られなかった。



- 肯定的な意見の割合を学部別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体的に学部による大きな差はなかったが、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」でやや差が見られた。
- 表の数値を詳細に見ると、「B:バイオ・化学部」は6項目で最も低かったが、いずれも差はわずかであった。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



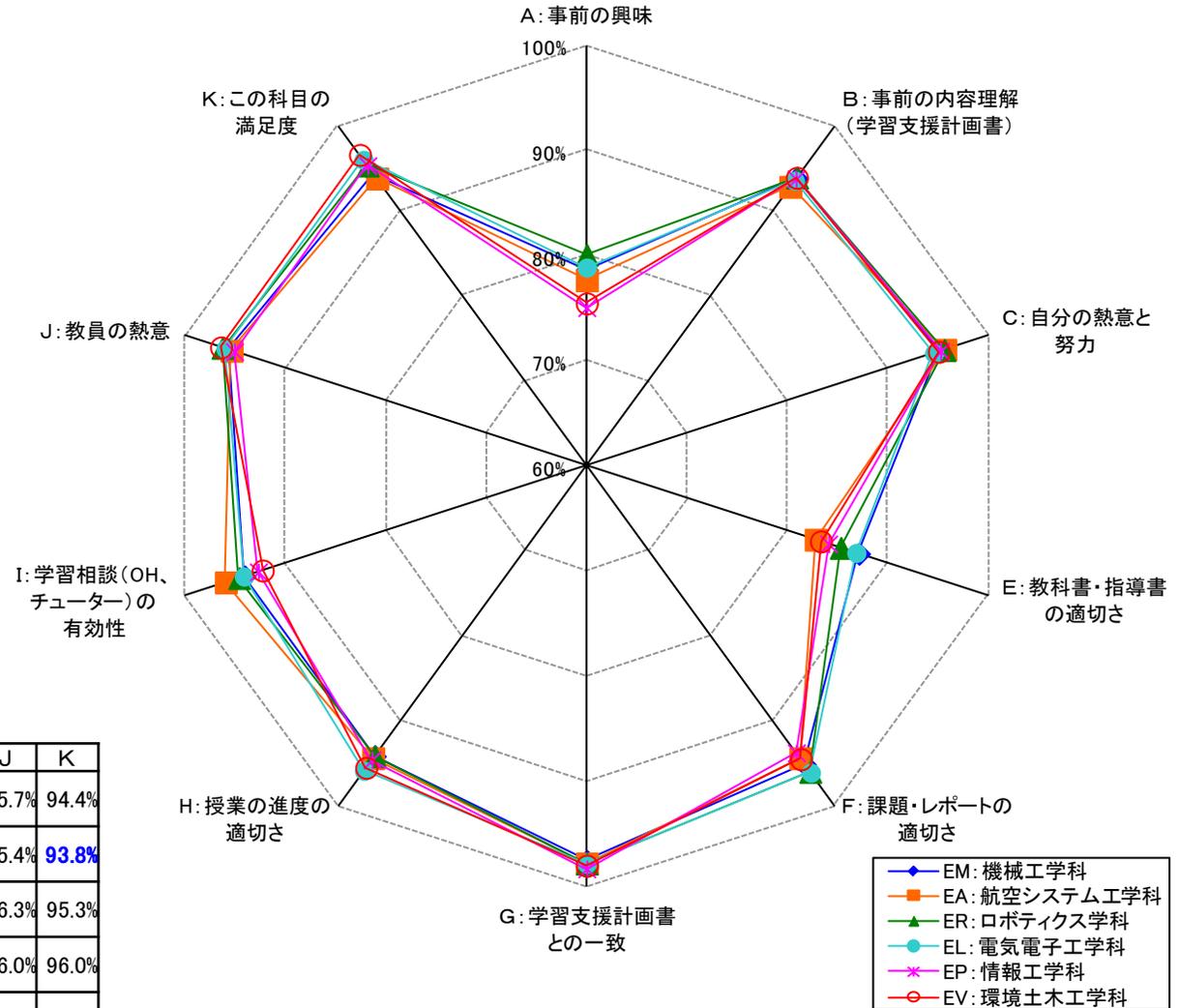
■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	77.5%	93.7%	95.1%	85.5%	95.0%	98.0%	94.8%	93.7%	95.7%	95.3%
F:情報フロンティア学部	73.8%	93.2%	94.8%	82.0%	95.6%	98.5%	94.2%	94.8%	96.4%	95.3%
A:建築学部	77.6%	93.2%	95.9%	81.8%	95.4%	97.7%	92.9%	95.6%	96.1%	95.9%
B:バイオ・化学部	75.4%	92.3%	94.8%	83.8%	93.9%	97.2%	93.8%	95.3%	95.7%	94.4%

※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

- 学科数が多いため、学科別集計は学部ごとに分けて比較をした。
- 「工学部」の各学科の特徴を見ると、全体的に差は少なく、特定の学科の評価が高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 表の数値を詳細に見ると、「EV:環境土木工学科」が3項目で最も高く、「EA:航空システム工学科」と「EP:情報工学科」が3項目で最も低かったが、いずれも目立つ差ではなかった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

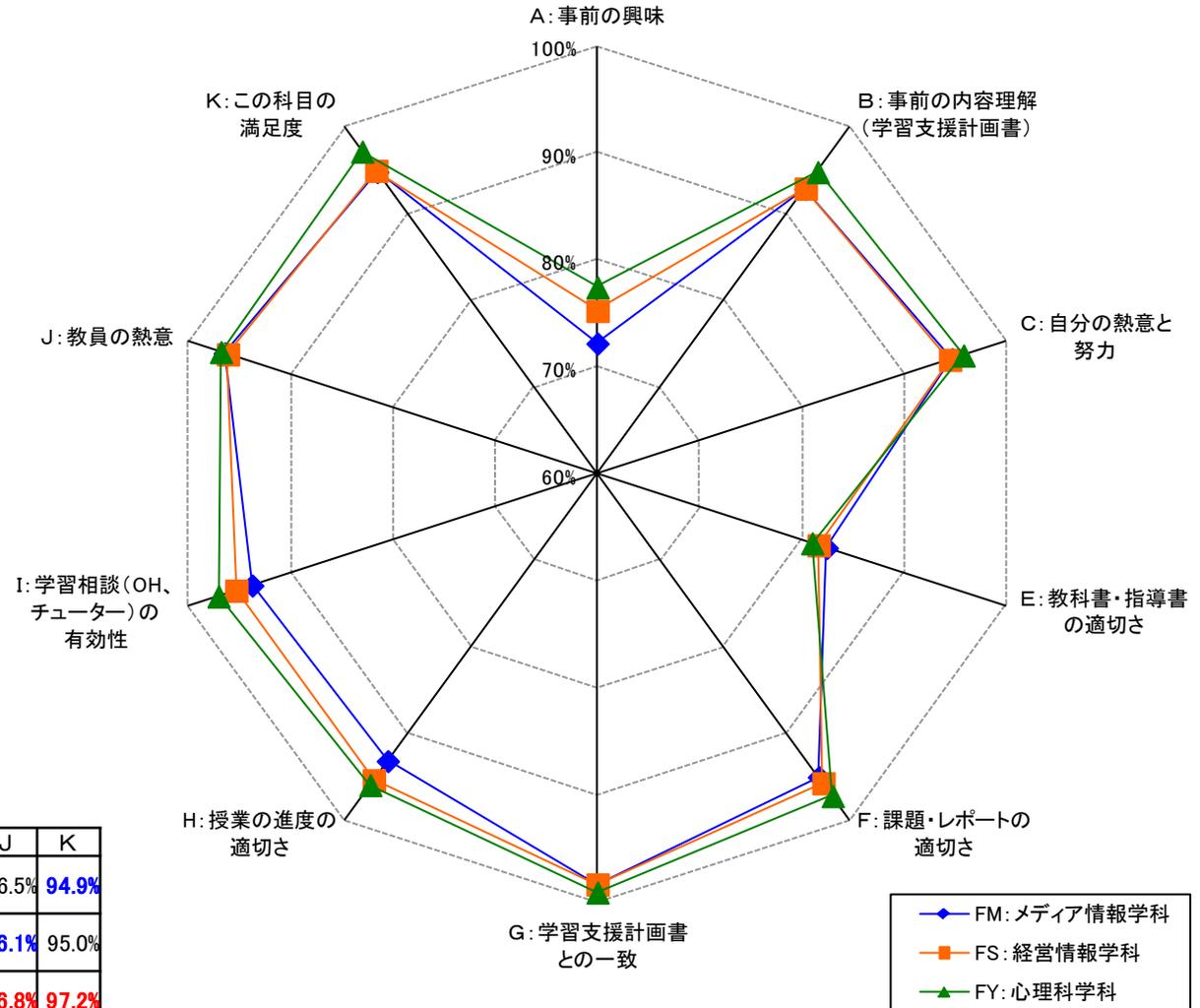


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	78.6%	93.8%	95.1%	87.1%	95.1%	97.6%	94.2%	94.1%	95.7%	94.4%
EA: 航空システム工学科	77.6%	92.8%	95.7%	82.8%	94.4%	97.8%	94.4%	95.9%	95.4%	93.8%
ER: ロボティクス学科	80.1%	93.9%	95.6%	85.3%	96.0%	97.9%	94.2%	94.6%	96.3%	95.3%
EL: 電気電子工学科	78.8%	93.5%	94.6%	86.8%	96.1%	97.9%	95.9%	94.1%	96.0%	96.0%
EP: 情報工学科	75.0%	93.7%	95.2%	84.1%	93.8%	98.4%	94.6%	92.7%	95.1%	95.3%
EV: 環境土木工学科	75.4%	93.9%	95.1%	83.3%	94.5%	98.1%	95.5%	92.3%	96.4%	96.5%

- 「情報フロンティア学部」は3学科の比較であるが、全体的に目立つ差は見られなかった。
- 表の数値を詳細に見ると、「FY:心理科学科」は9項目で最も高かった。一方、「FM:メディア情報学科」は7項目で最も低かった。そして、「FS:経営情報学科」は全体的に中庸な評価であり、目立って高いものや低いものは見られなかった。
- 上記の傾向は「A:事前の興味」ではっきりと現れており、事前の興味がその他の評価に影響しているのではないかとと思われる。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

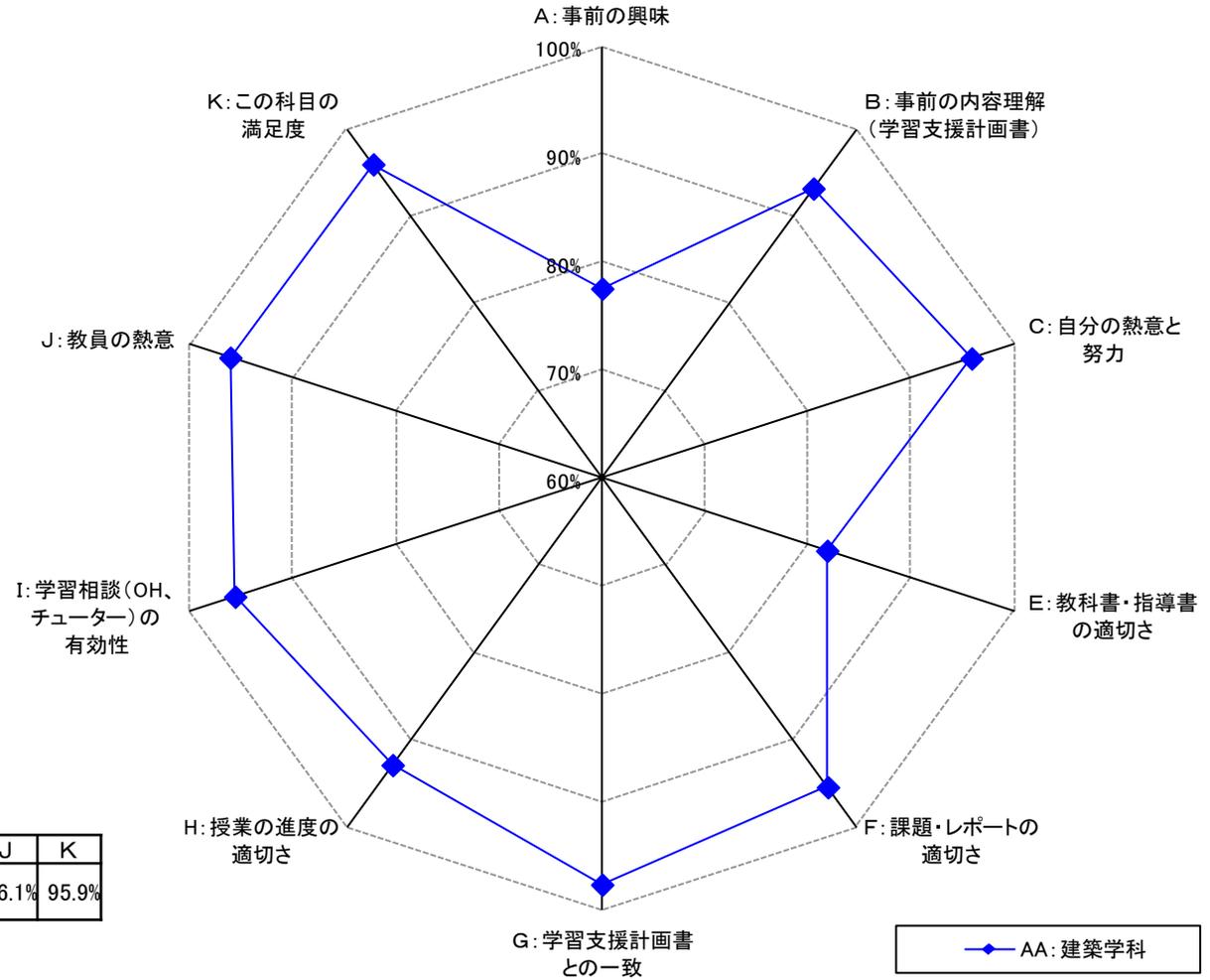


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	72.2%	92.9%	94.7%	82.4%	95.0%	98.4%	93.2%	93.8%	96.5%	94.9%
FS:経営情報学科	75.2%	93.0%	94.5%	81.6%	95.8%	98.4%	95.4%	95.3%	96.1%	95.0%
FY:心理科学科	77.4%	94.9%	95.8%	81.0%	97.2%	99.1%	96.0%	97.1%	96.8%	97.2%

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較は行っていない。

■ 建築学部 学科別比較レーダーチャート

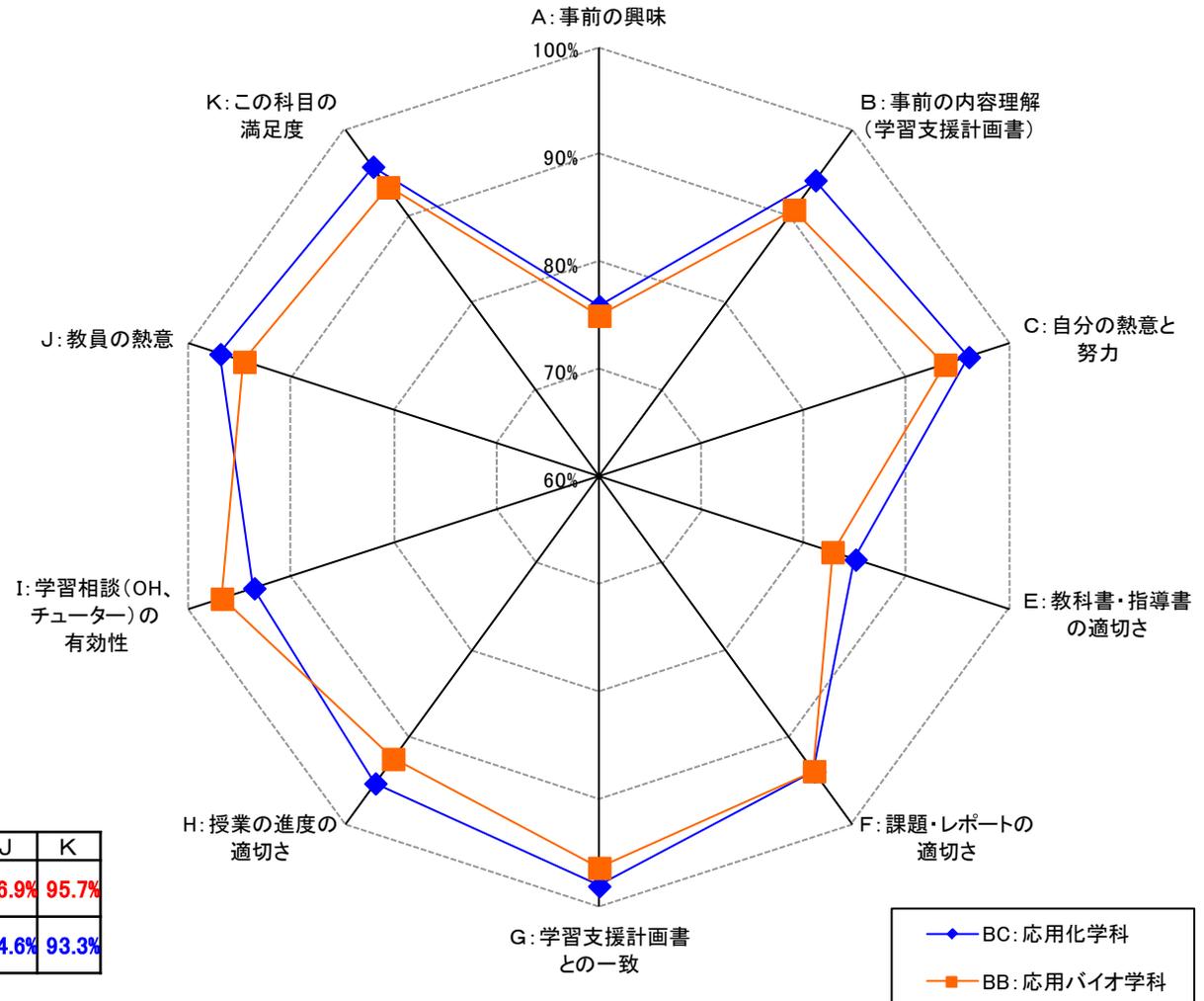


■ 建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA: 建築学科	77.6%	93.2%	95.9%	81.8%	95.4%	97.7%	92.9%	95.6%	96.1%	95.9%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、「BC:応用化学科」が10項目中の8項目で高く、差は小さいものの全体的に高い評価となっていた。
- 一方、「BB:応用バイオ学科」は「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」はやや高く、「F:課題・レポートの適切さ」は同数だったが、他の8項目で「BC:応用化学科」を下回っていた。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

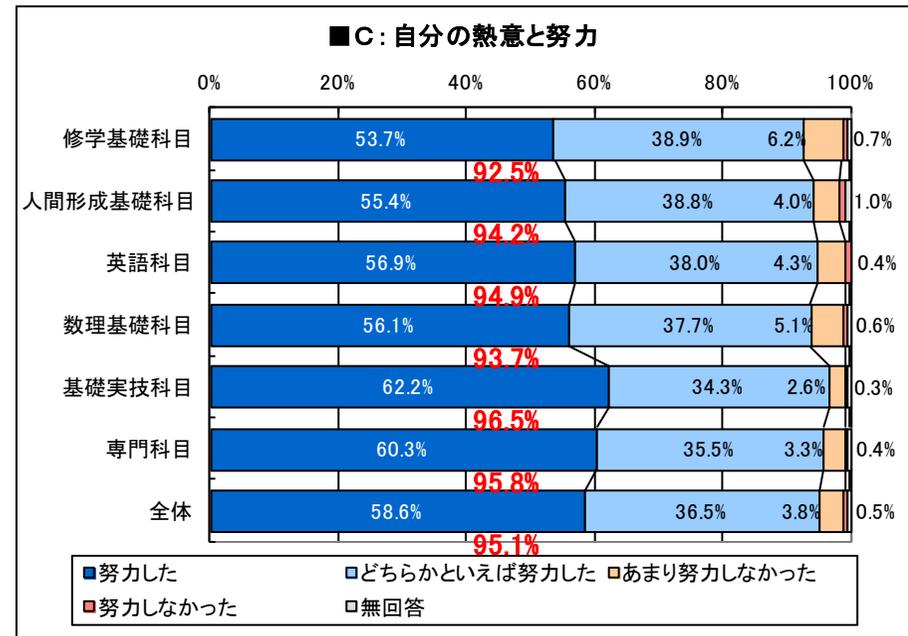
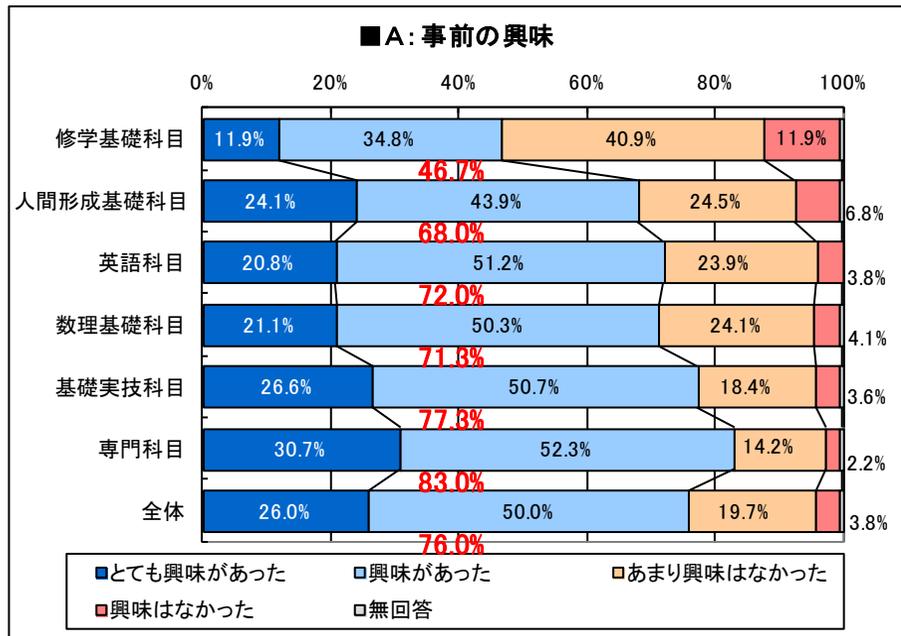
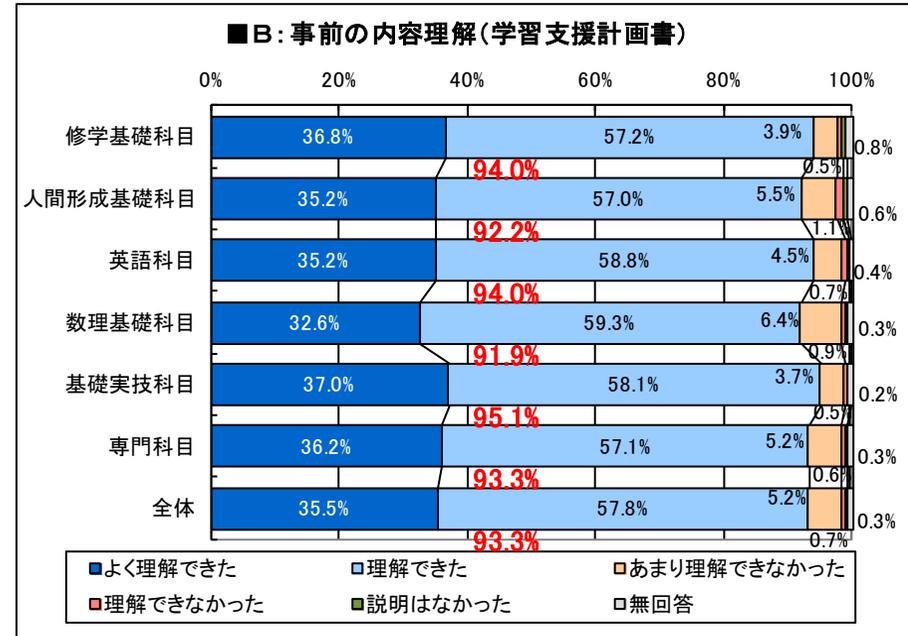


■ バイオ・化学部 学科別比較

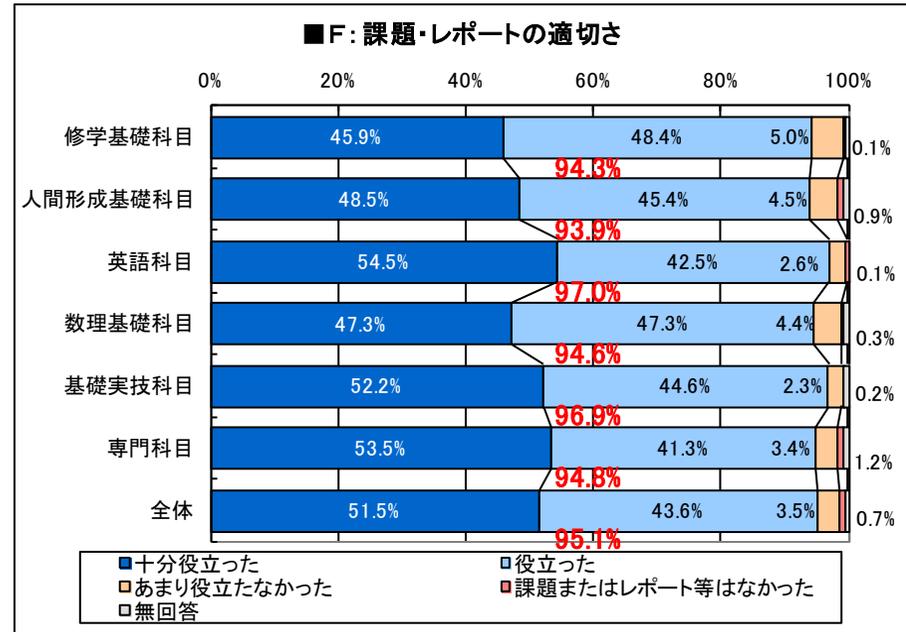
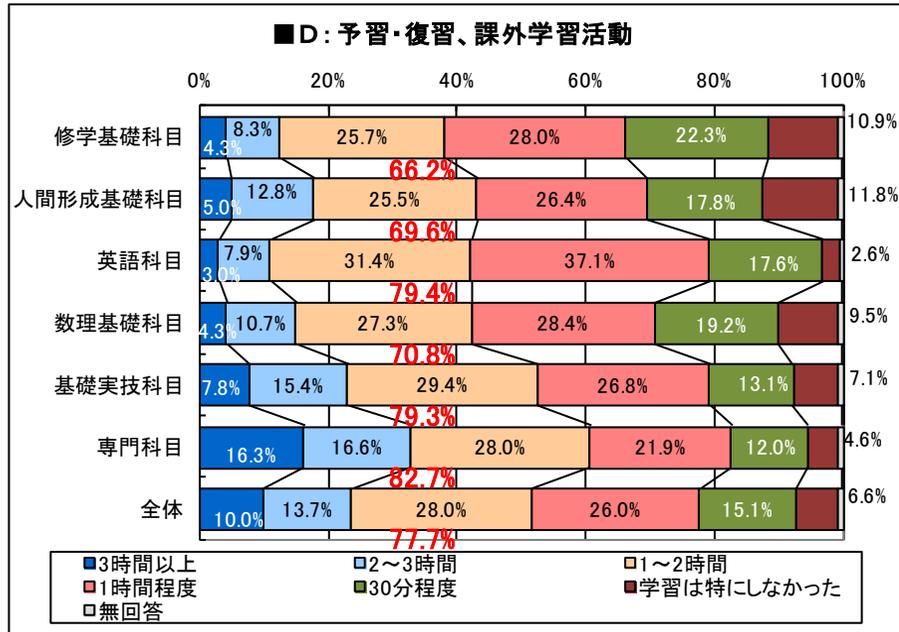
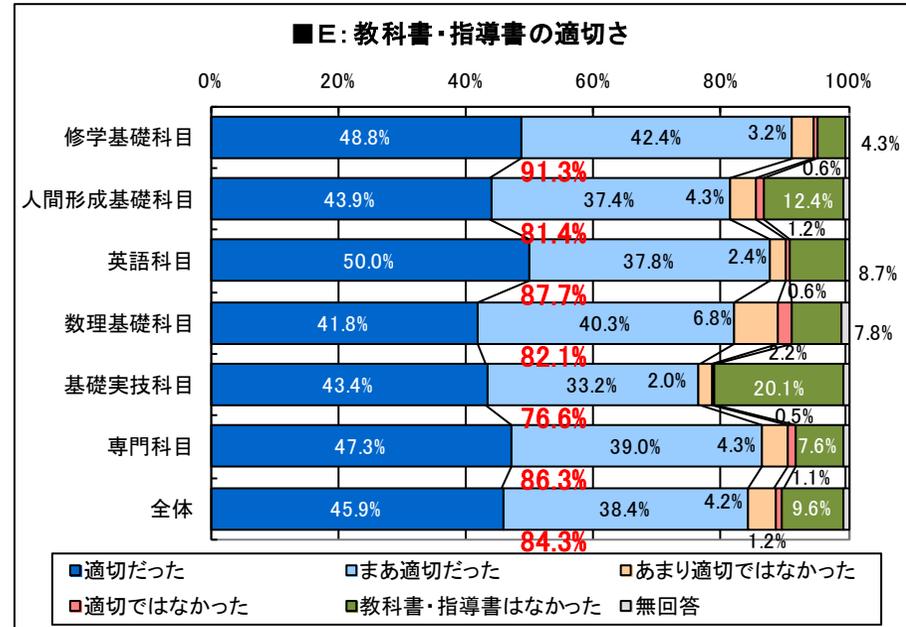
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	75.9%	94.1%	96.0%	85.0%	93.9%	98.1%	95.3%	93.6%	96.9%	95.7%
BB: 応用バイオ学科	75.0%	90.7%	93.7%	82.7%	93.9%	96.4%	92.5%	96.8%	94.6%	93.3%

<5>科目区分別の分析

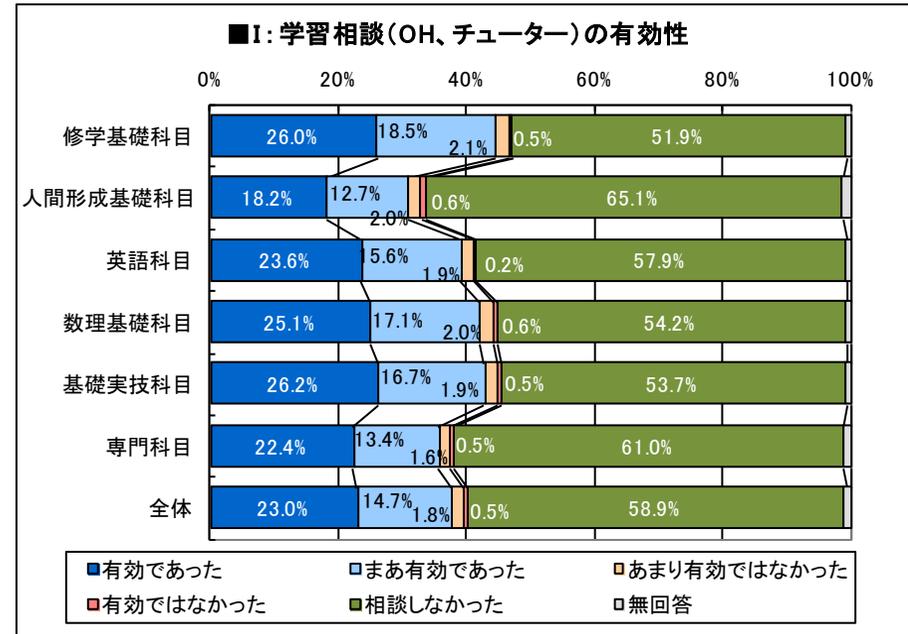
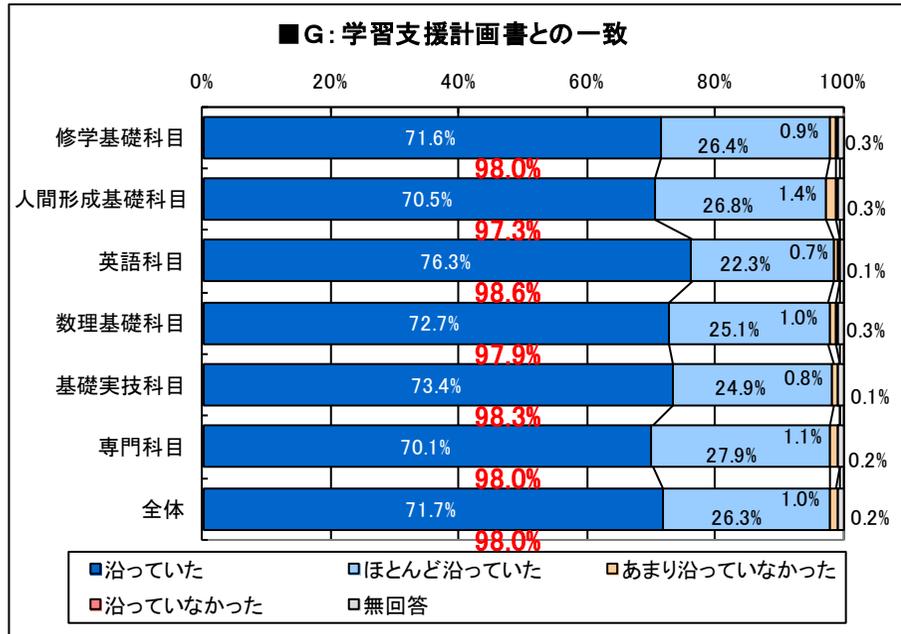
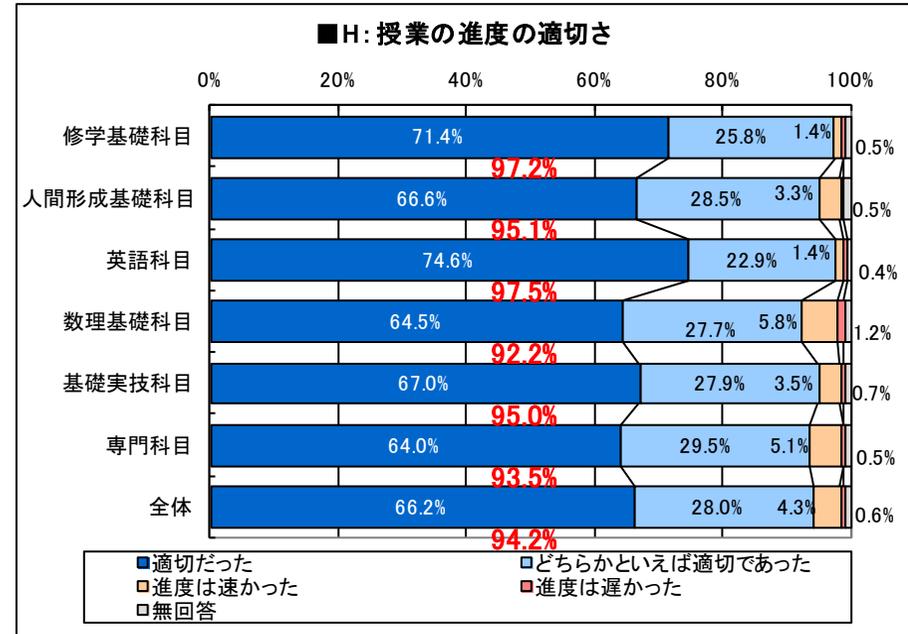
- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価を比較した。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が多かったのは「専門科目」の83.0%であり、他と比べて興味の強さが目立っていた。次いで、「基礎実技科目」が77.3%、「英語科目」が72.0%が続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の46.7%であり、「とても興味があった」も11.9%と少なく、興味の低さが目立っていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見はいずれも9割を超えており、差は最大でも3.2ポイントと小さく、全体的に事前の内容理解が進んでいるようであった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見もすべての科目区分で9割を超え、差は最大でも4.0ポイントであり、どの科目区分の授業に対しても熱意と努力を持って取り組んでいる様子が見えたと。 「努力した」だけを見ると、「基礎実技科目」が62.2%、「専門科目」が60.3%とやや高く、積極性が感じられた。



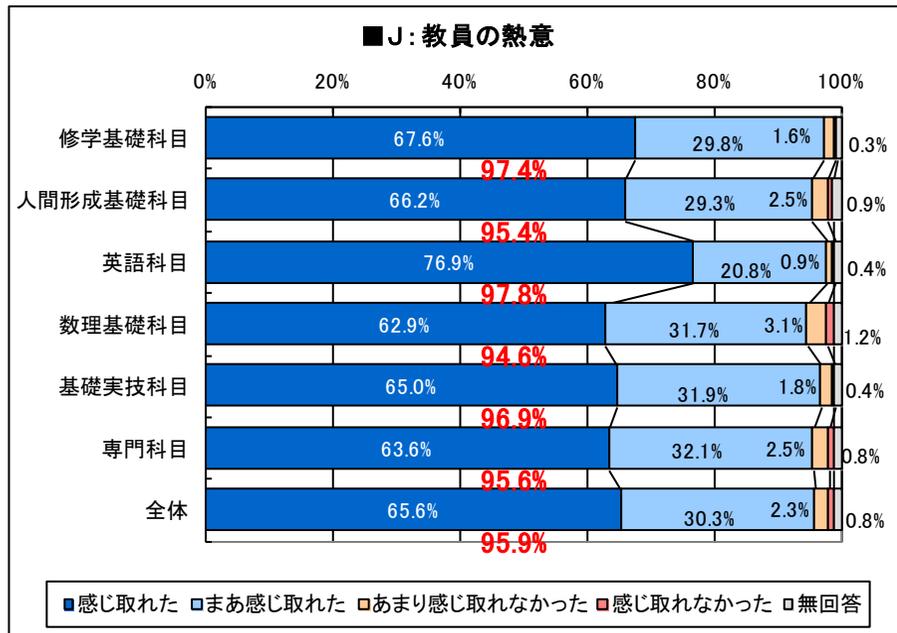
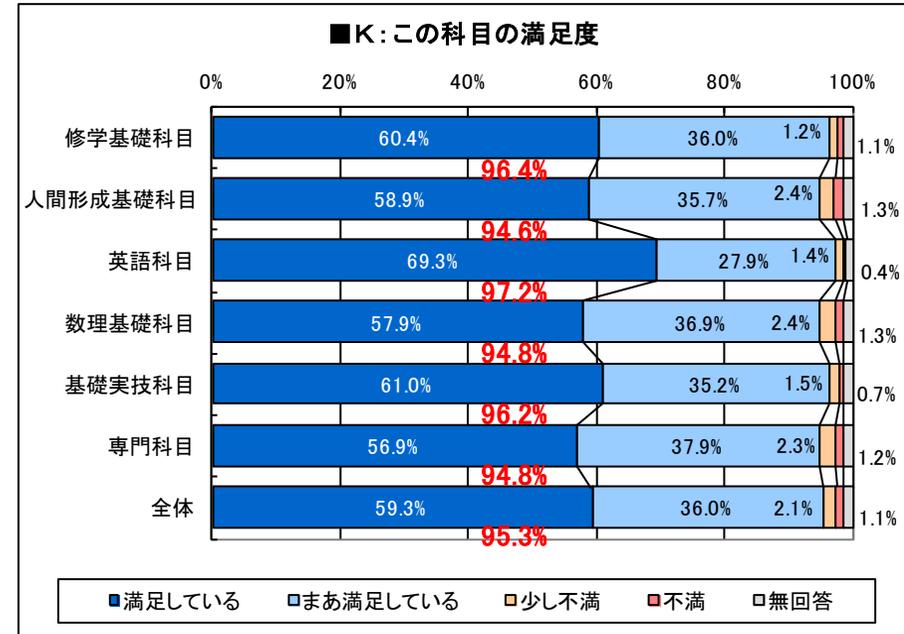
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計が最も多かったのは「専門科目」の82.7%であり、内訳を見ても「3時間以上」「2～3時間」が多いなど、しっかりと学習時間を確保している様子がうかがえた。次いで、「英語科目」が79.4%、「基礎実技科目」が79.3%で続いていたが、「英語科目」では「3時間以上」「2～3時間」が少ないという特徴も見られた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の66.2%であった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「修学基礎科目」の91.3%であり、「英語科目」が87.7%、「専門科目」が86.3%で続いていた。一方、少なかったのは「基礎実技科目」の76.6%、「人間形成基礎科目」の81.4%であったが、この2つの科目区分では「教科書・指導書はなかった」が、各々、20.1%、12.4%と多い点が特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、全体的に評価は非常に高かった。「十分役立った」だけを見ると、「英語科目」が54.5%で最も多く、「専門科目」が53.5%、「基礎実技科目」が52.2%で続いていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的な意見はすべての科目区分で95%を超えており、非常に高い評価となっていた。「沿っていた」だけを見てもいずれも70%を超え、この点に関する課題は全く見られなかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」もほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超えていた。やや低かったのは「数理基礎科目」の92.2%と「専門科目」の93.5%であったが、これらも十分に高い評価であった。また、「適切だった」だけを見てもすべて60%を超えており、授業の進度に関して大きな課題は見られなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関して、まず、「相談しなかった」の割合を比較すると、「人間形成基礎科目」が65.1%、「専門科目」が61.0%でやや多く、最も少ないのは「修学基礎科目」の51.9%であり、学習相談の利用には差が見られた。そして、利用者の評価を見ると、すべての科目区分で否定的な意見は3%以内に収まっており、評価としては大きな課題はなさそうであった。



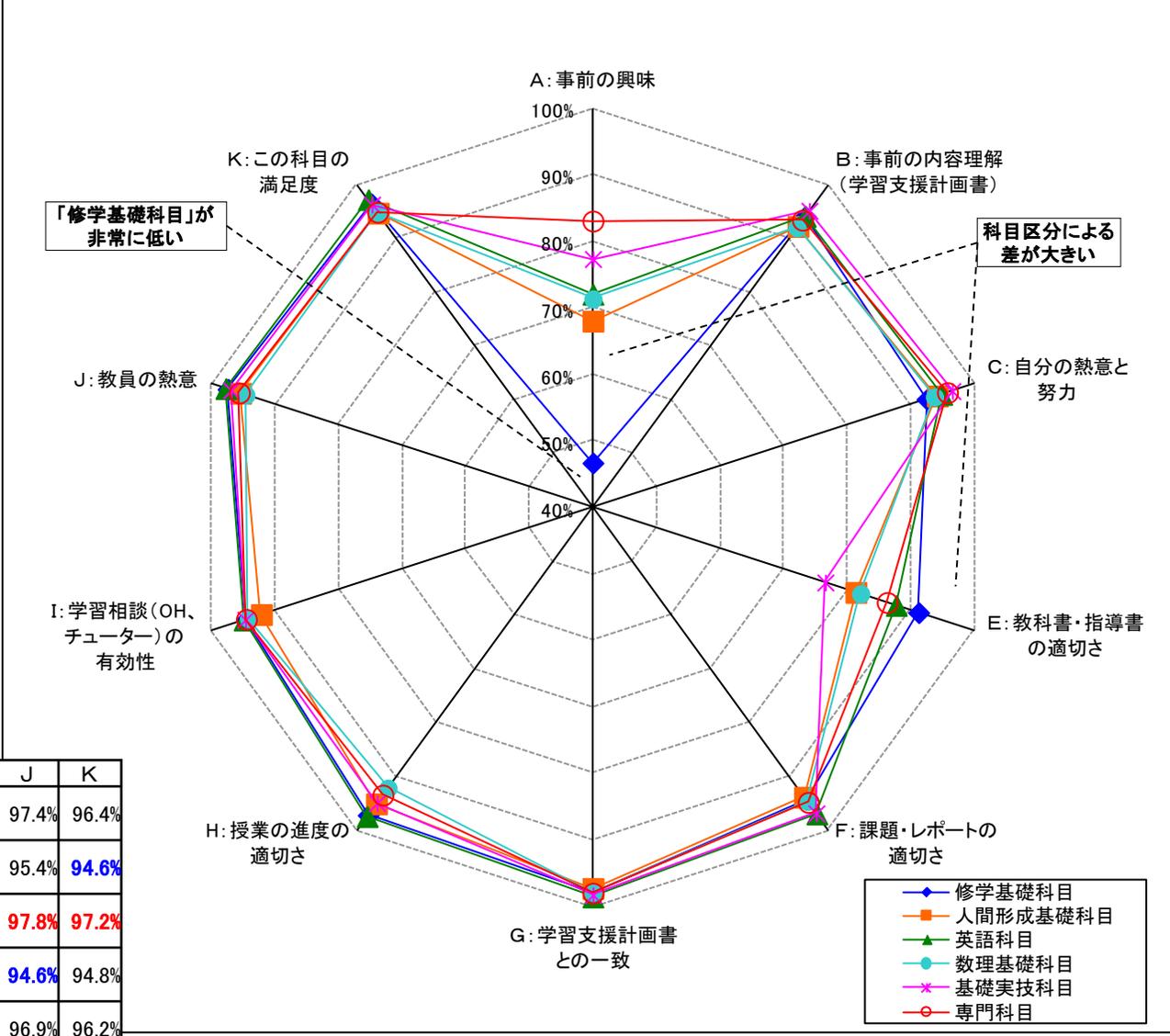
- 「J:教員の熱意」はほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超えていた。最も多かったのは「英語科目」の97.8%であり、「感じ取れた」が76.9%と突出している点も特徴的であった。次いで、「修学基礎科目」が97.4%、「基礎実技科目」が96.9%で続いていた。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の94.6%であったが、これも十分に高い評価であり、すべての科目区分でしっかりと教員の熱意を感じている様子が見えられた。
- 「K:この科目の満足度」もほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超えており、全体的に非常に高い満足度となっていた。最も多かったのは「英語科目」の97.2%であり、ここでも「満足している」が69.3%と突出していた。それ以降は「修学基礎科目」が96.4%、「基礎実技科目」が96.2%と続き、最も少ない「人間形成基礎科目」でも94.6%であり、科目区分による差も最大で2.6ポイントと小さかった。



<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体を見て目立っていたのは「A:事前の興味」であり、「修学基礎科目」が非常に低い点が特徴的であった。また、他の科目区分でも差は大きめであり、事前の興味の強さには幅があることがよく分かる結果となっていた。
- 上記に次いで科目区分による差が大きかったのが「E:教科書・指導書の適切さ」であり、「修学基礎科目」が高く、「基礎実技科目」が低かった。ただし、この項目を見る際には「教科書・指導書はなかった」の割合に差があるという点を考慮する必要がある。
- 上記の2項目以外では科目区分による差が非常に少なかったが、表の数値を詳細に見ると、「英語科目」は6項目で最も高く、「人間形成基礎科目」は4項目で最も低かった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



■ 科目の評価比較

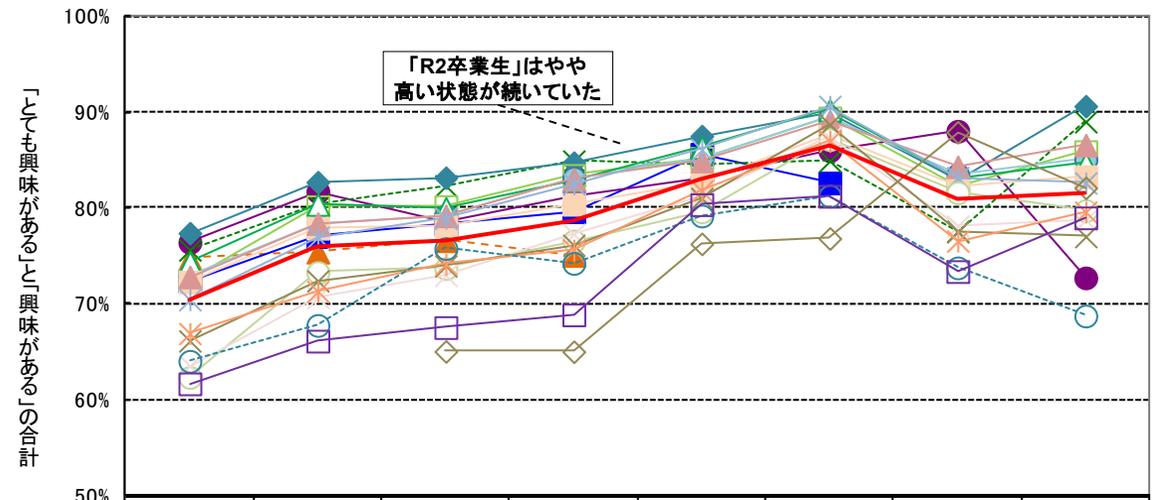
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	46.7%	94.0%	92.5%	91.3%	94.3%	98.0%	97.2%	94.5%	97.4%	96.4%
人間形成基礎科目	68.0%	92.2%	94.2%	81.4%	93.9%	97.3%	95.1%	92.2%	95.4%	94.6%
英語科目	72.0%	94.0%	94.9%	87.7%	97.0%	98.6%	97.5%	94.9%	97.8%	97.2%
数理基礎科目	71.3%	91.9%	93.7%	82.1%	94.6%	97.9%	92.2%	94.2%	94.6%	94.8%
基礎実技科目	77.3%	95.1%	96.5%	76.6%	96.9%	98.3%	95.0%	94.7%	96.9%	96.2%
専門科目	83.0%	93.3%	95.8%	86.3%	94.8%	98.0%	93.5%	94.5%	95.6%	94.8%

<6> 同一学生群の分析

<6-1> 同一学生群の変化に関する分析

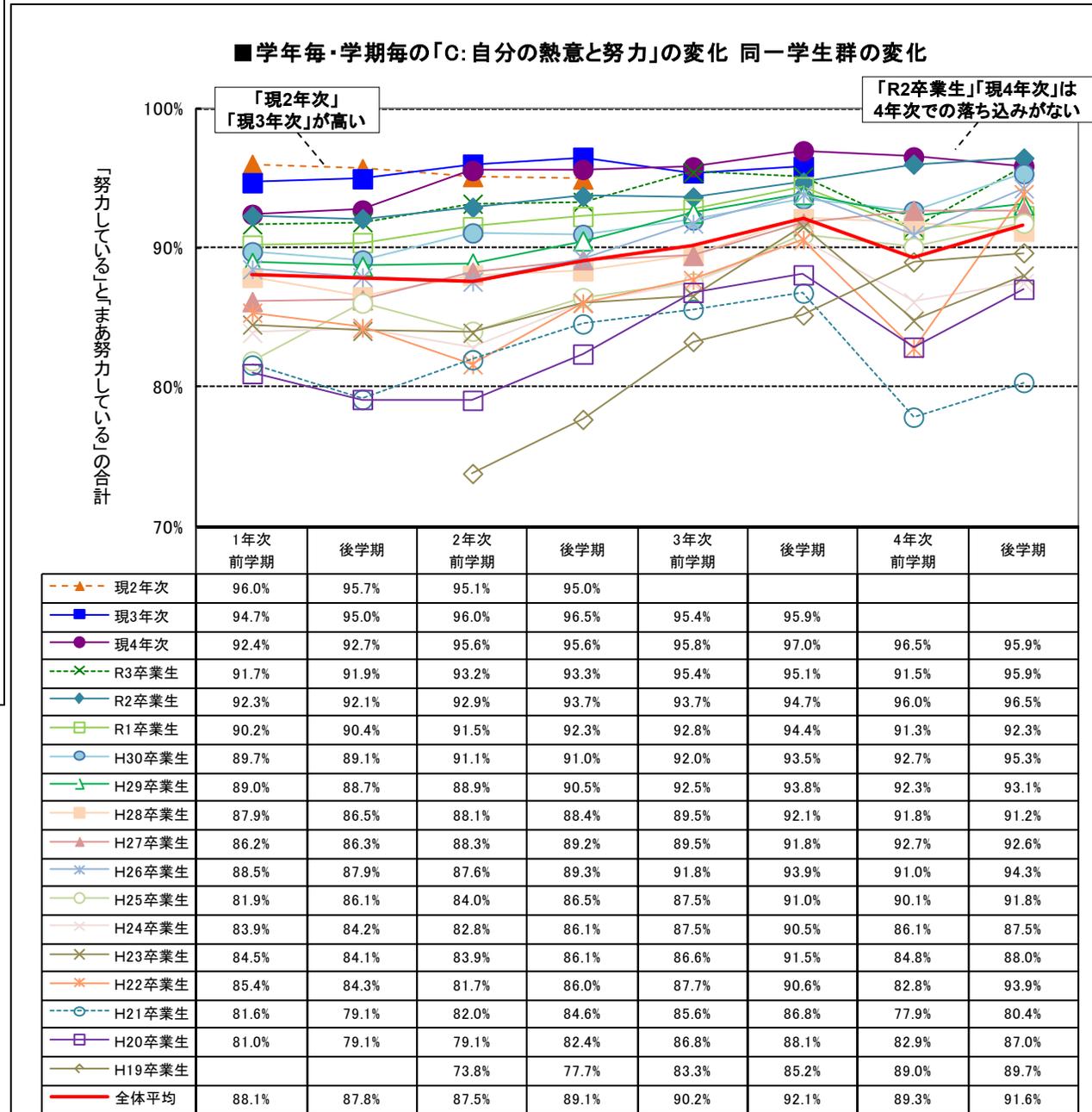
- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのように意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後学期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」は、「1年次-前学期」には70.4%であり、「3年次-後学期」の86.4%まで授業に対する興味が徐々に増加し、その後、「4年次-前学期」で低下して、「4年次-後学期」まで横ばいとなる流れが確認できた。
- 学生群ごとに見ると、以前は4年間を通して低い学生群が多かったが、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が多くなってきており、授業に対する事前の興味が強くなってきているようであった。
- ここ数年は更に興味が増しており、「R2卒業生」は4年間を通じて肯定的な意見が多い状態を維持したまま卒業に至っており、「R3卒業生」は「3年次-後学期」から「4年次-前学期」にかけて低下したものの、「4年次-後学期」には「R2卒業生」に次ぐ高さとなった卒業に至っていた。
- 在学生を見ると、「現4年次」は「1年次-前学期」から「1年次-後学期」にかけては高く、その後、「4年次-前学期」で過去最高となり、「4年次-後学期」で過去2番目の低さになるなど、今までにない変化をする学生群であった。

■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



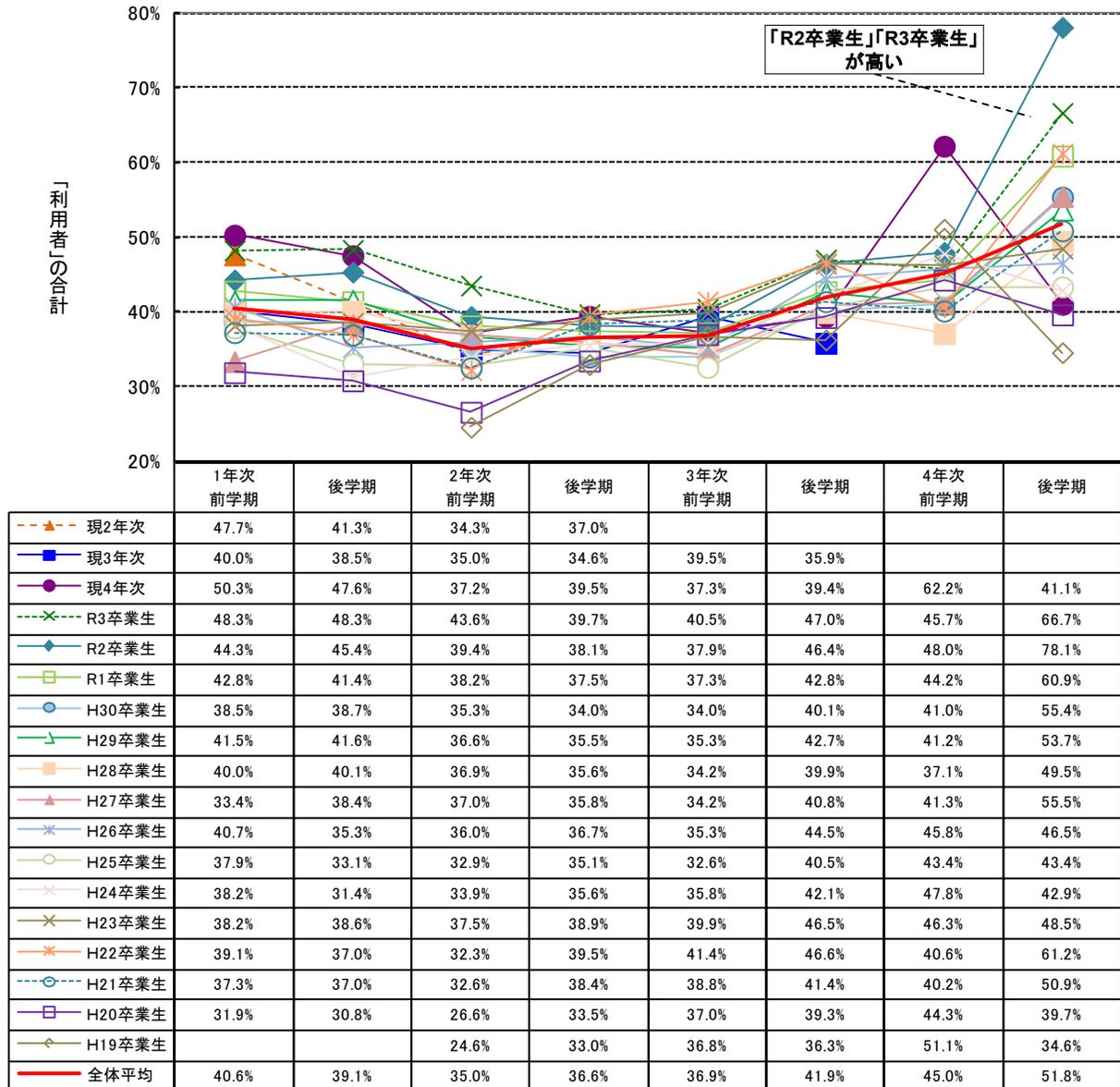
	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	74.7%	75.4%	76.6%	75.1%				
---■--- 現3年次	72.4%	77.0%	78.4%	79.6%	85.6%	82.6%		
---●--- 現4年次	76.4%	81.7%	78.5%	81.3%	83.0%	86.0%	88.0%	72.7%
---×--- R3卒業生	75.6%	80.4%	82.3%	84.9%	84.5%	84.9%	77.6%	89.0%
---◆--- R2卒業生	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%	87.5%	89.9%	83.0%	90.6%
---□--- R1卒業生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%	82.2%	85.9%
---○--- H30卒業生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
---▽--- H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
---◇--- H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
---▲--- H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
---*--- H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---○--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---×--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---×--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---*--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---○--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---□--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---◇--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---●--- 全体平均	70.4%	75.9%	76.5%	78.6%	83.0%	86.4%	81.0%	81.6%

- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」は、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけては横這いの後、「3年次-後学期」にかけてゆるやかに向上し、「4年次-前学期」で低下した後、「4年次-後学期」で再び向上していた。ただし、いずれの変化も小さいものであり、熱意と努力は4年間であまり大きく変動していないようであった。
- 学生群ごとに見ると、以前は「H20卒業生」「H21卒業生」「H22卒業生」のように、4年次で大きく低下する学生群も見られたが、ここ数年は4年間の変化が少なく、大きく落ち込むことなく卒業に至るケースが増加しているように思われる。
- 特に「R2卒業生」「現4年次」は、4年間で熱意と努力が低下せず、中だるみのような変化がないままに卒業に至っていた。
- また、「現2年次」「現3年次」のように、「1年次-前学期」の段階で非常に強い熱意を持って努力するケースも見られ、学生の意識の変化が感じられた。



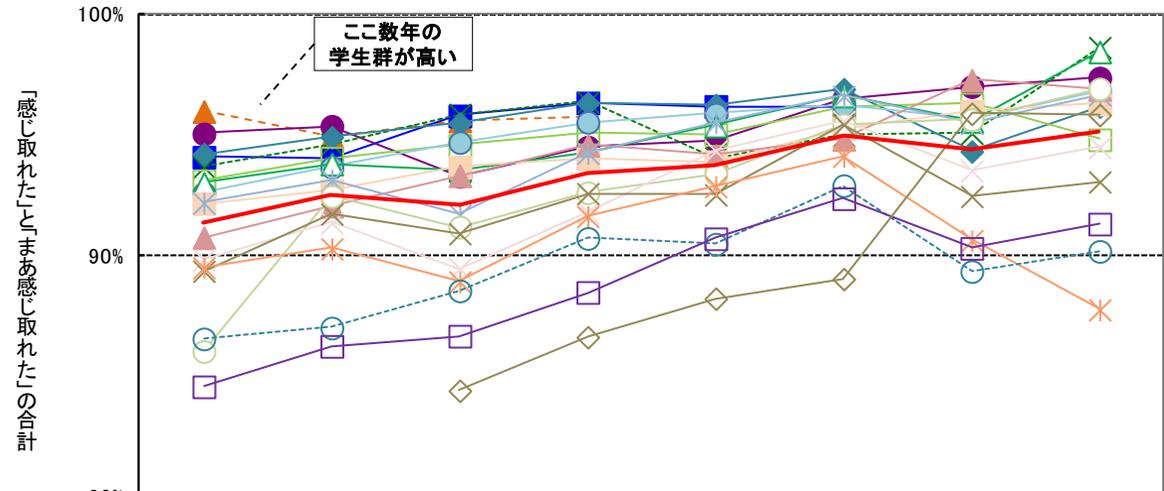
- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」は、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけてやや減少で推移し、その後は「4年次-後学期」にかけて徐々に増加していた。利用者の割合としては約35%から約50%に収まっており、一定割合の学生は継続的に学習相談を利用しているようであった。
- 各々の学生群の動きは、「2年次-後学期」から「3年次-後学期」にかけてはバラツキが少ないが、「4年次-後学期」では大きな差が見られた。
- 特徴的であったのは「R2卒業生」であり、「4年次-後学期」の利用率が78.1%と非常に高く、「R3卒業生」も66.7%と高かった。また、「現4年次」は「4年次-前学期」が62.2%と目立って高く、「4年次-後学期」には急激に低下するなど、ここ数年の学生群にはいくつかの特徴が見られた。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



- 「J:教員の熱意」の「全体平均」は少しの低下はあるものの、基本的には90%から95%の間で、緩やかな右肩上がり推移していた。これを見ると、4年間を通してしっかりと教員の熱意を感じており、学年が上がるほどその傾向が強まっていると言える。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標と同様に、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が多くなってきており、「4年次-前学期」での中だるみのような低下も少なくなっているようであった。
- ここ数年の学生群は「1年次-前学期」から肯定的な意見が非常に多く、「現2年次」「現4年次」「R2卒業生」「現3年次」はこれまでの学生群の中でも上位となっていた。そして、それ以降の学年で高いまま推移するケースが増加しており、全体平均を下回ることはほとんどなくなっている。

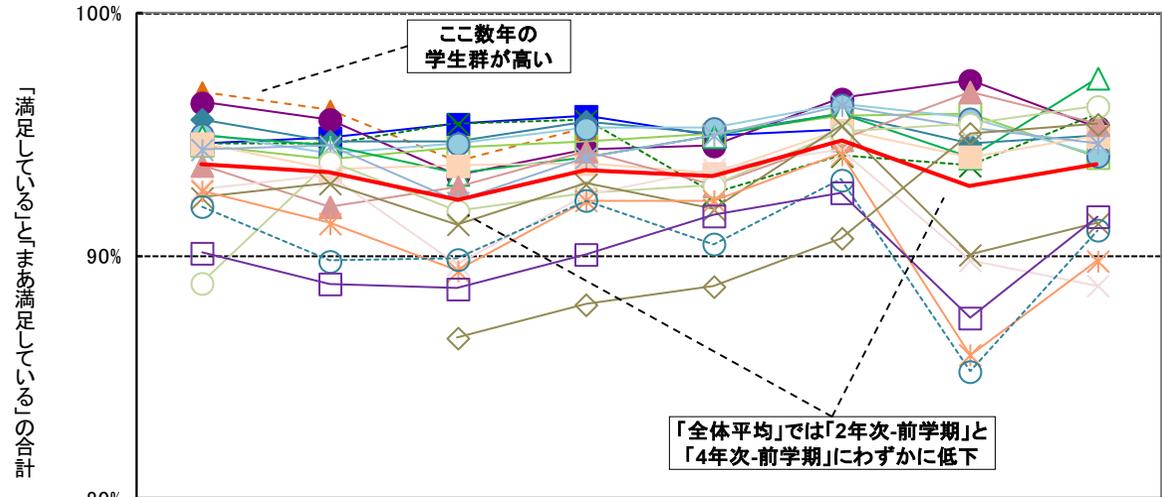
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	96.0%	94.9%	95.6%	95.7%				
—■— 現3年次	94.1%	94.0%	95.8%	96.3%	96.2%	96.1%		
—●— 現4年次	95.0%	95.4%	93.3%	94.5%	94.8%	96.5%	97.0%	97.4%
---×--- R3卒業生	93.7%	94.6%	95.9%	96.4%	94.1%	95.0%	95.1%	98.6%
—◆— R2卒業生	94.2%	94.9%	95.5%	96.3%	96.2%	96.9%	94.3%	96.2%
—□— R1卒業生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%	95.0%	96.1%	96.3%	94.8%
—○— H30卒業生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%	95.7%	96.8%
—△— H29卒業生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
—◇— H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
—▲— H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
—*— H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
—○— H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
—×— H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
—×— H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
—*— H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
—○— H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
—□— H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
—◇— H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
—●— 全体平均	91.3%	92.5%	92.1%	93.4%	93.7%	95.0%	94.4%	95.1%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」は、「2年次-前学期」と「4年次-前学期」でわずかに低下するものの、4年間を通して93%前後が満足と答えていた。これは非常に高い数値であり、授業の充実度が感じられる結果であった。
- 以前の学生群は「4年次-前学期」で大きく低下することがあったが、他の指標と同様に「H26卒業生」あたりから4年間の変動が少なくなってきており、中だるみがないまま卒業に至るケースが多いようであった。
- 特に、ここ数年の学生群の満足度は高く、「現2年次」「現4年次」「R2卒業生」の「1年次-前学期」の満足度は95%を超えており、入学直後の満足度が向上してきている。また、それ以降の低下も少なく、「現3年次」「現4年次」などは高いまま推移しており、「現4年次」は「4年次-前学期」で在学中の最高の満足度になるなど、学生の意識の変化が感じられた。

■ 学年毎・学期毎の「K:この科目の満足度」の変化 同一学生群の変化

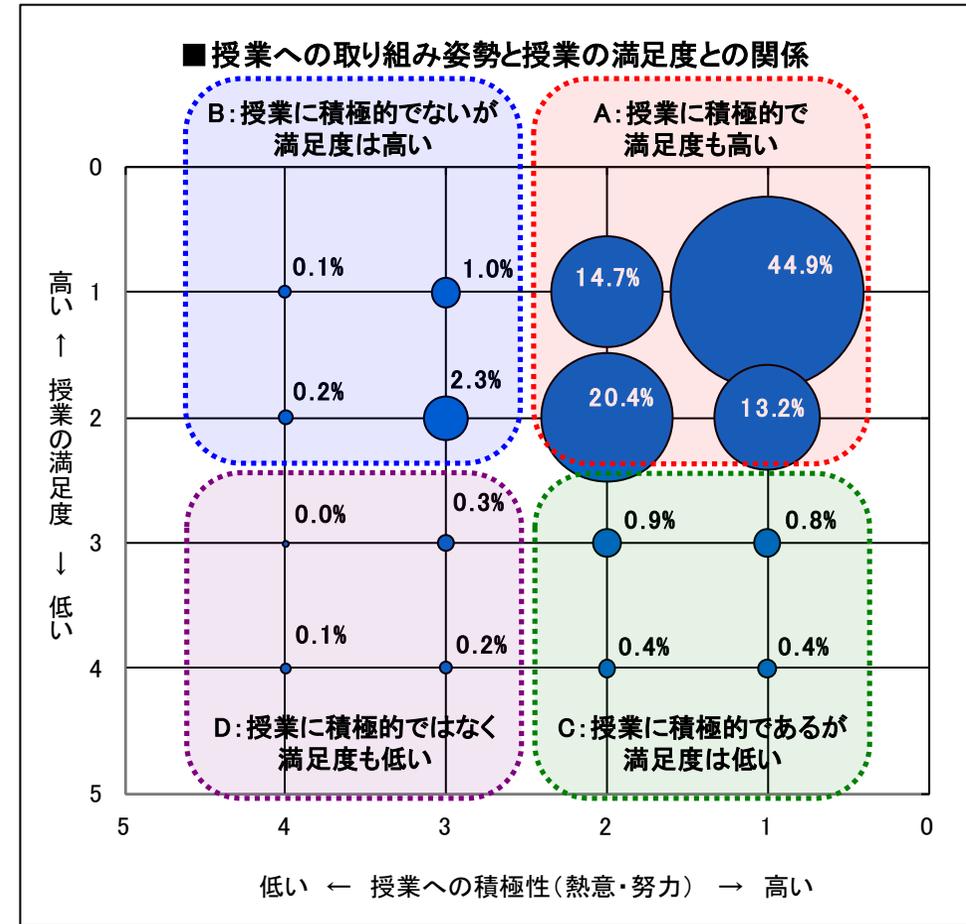


	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	96.7%	96.0%	93.9%	95.3%				
---■--- 現3年次	94.6%	94.9%	95.4%	95.8%	94.9%	95.2%		
---●--- 現4年次	96.3%	95.6%	93.3%	94.4%	94.5%	96.5%	97.2%	95.3%
---×--- R3卒業生	94.7%	94.6%	95.5%	95.6%	92.6%	94.1%	93.7%	95.9%
---◆--- R2卒業生	95.6%	94.7%	94.7%	95.6%	95.0%	95.9%	94.6%	94.9%
---□--- R1卒業生	94.6%	94.0%	94.5%	94.7%	95.0%	95.7%	95.9%	94.1%
---○--- H30卒業生	95.0%	94.2%	94.6%	95.3%	95.3%	96.2%	95.7%	94.1%
---△--- H29卒業生	94.9%	94.5%	93.4%	94.0%	94.9%	95.9%	94.0%	97.3%
---◇--- H28卒業生	94.6%	93.6%	93.7%	93.8%	93.4%	95.2%	94.1%	94.9%
---▲--- H27卒業生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%	92.9%	94.8%	96.8%	95.4%
---*--- H26卒業生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%	95.3%	94.6%
---○--- H25卒業生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
---×--- H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
---×--- H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
---*--- H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
---○--- H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
---□--- H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
---◇--- H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
---■--- 全体平均	93.8%	93.5%	92.3%	93.5%	93.2%	94.8%	92.9%	93.8%

<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

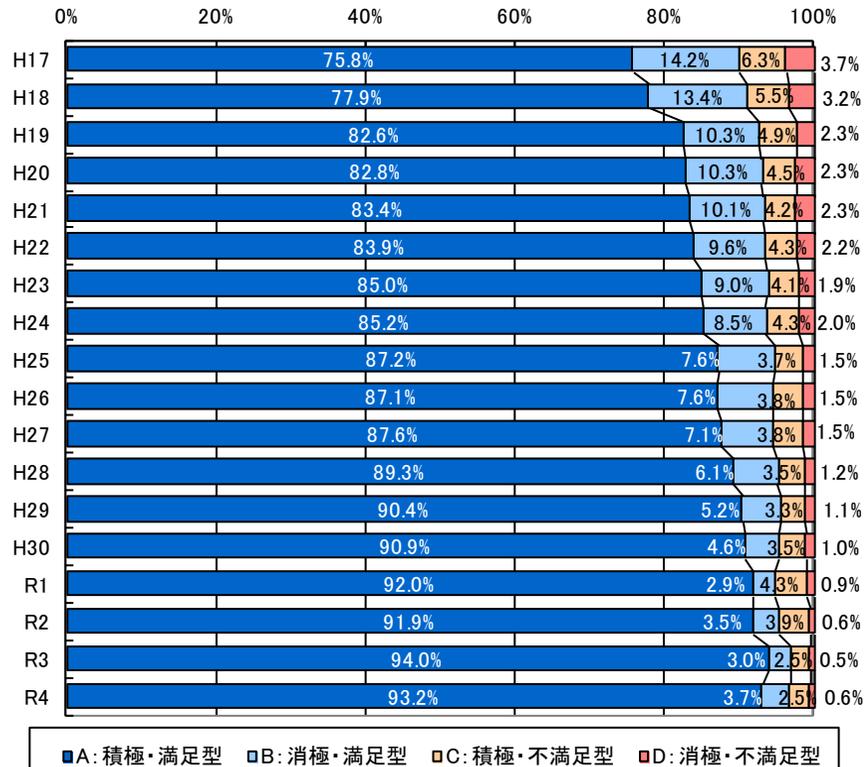
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」は93.2%であり、ほとんどの学生がこのグループに属していた。内訳を見ても、「満足度」「積極性」がともに高い学生が44.9%であり、半数近くは非常に積極的で満足度が高く、充実しているようであった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」というグループは3.7%であった。これは授業には積極的というわけではないが満足度は高い学生群であり、教員の指導で引っ張られている学生などが想定される。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」というグループは2.5%であった。この学生群は授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず満足度が低いというものであり、授業の内容や指導方法などに不満を持っている学生が想定される。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」というグループは0.6%であった。これは最も課題が多い学生群であり、退学予備軍にも近いと思われ、しっかりとしたフォローが必要であると思われる。



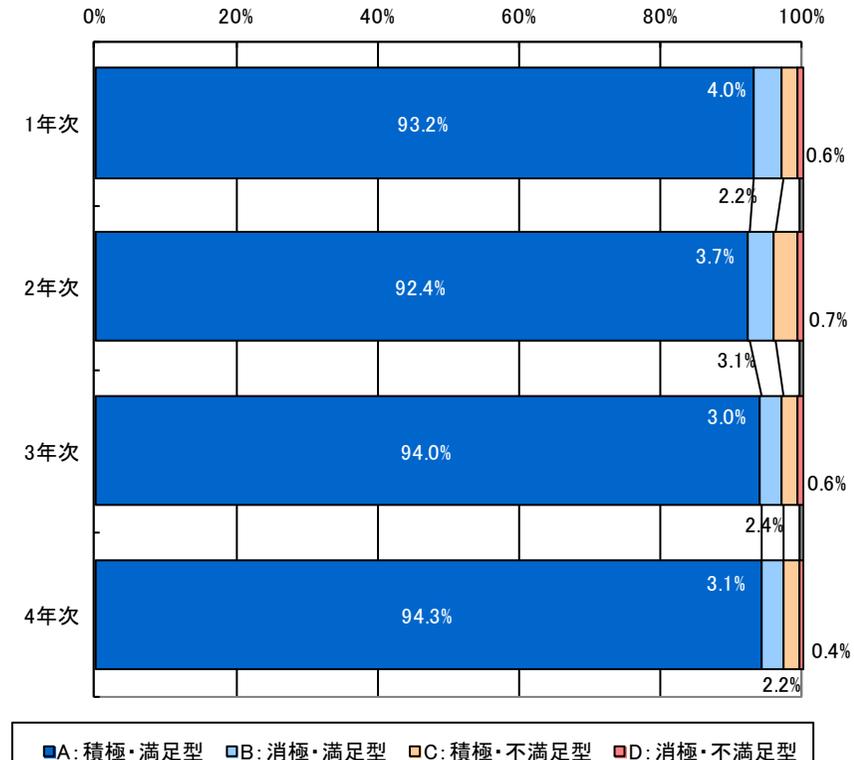
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	93.2%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	3.7%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	2.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	0.6%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は93.2%で、過去最高であった前回は0.8ポイント下回っていた。そして、「B:消極・満足型」は前回から0.7ポイントの増加、「C:積極・不満足型」は同数、「D:消極・不満足型」は0.1ポイントの増加であり、いずれも小さな変化であった。
- 「A:積極・満足型」の割合を学年別に比較したところ、「4年次」が94.3%と最も多く、「3年次」が94.0%、「1年次」が93.2%、「2年次」が92.4%となっており、学年との相関関係は見られなかった。なお、差は最大でも1.9ポイントと非常に小さく、ほぼ横並びと言えるものであった。

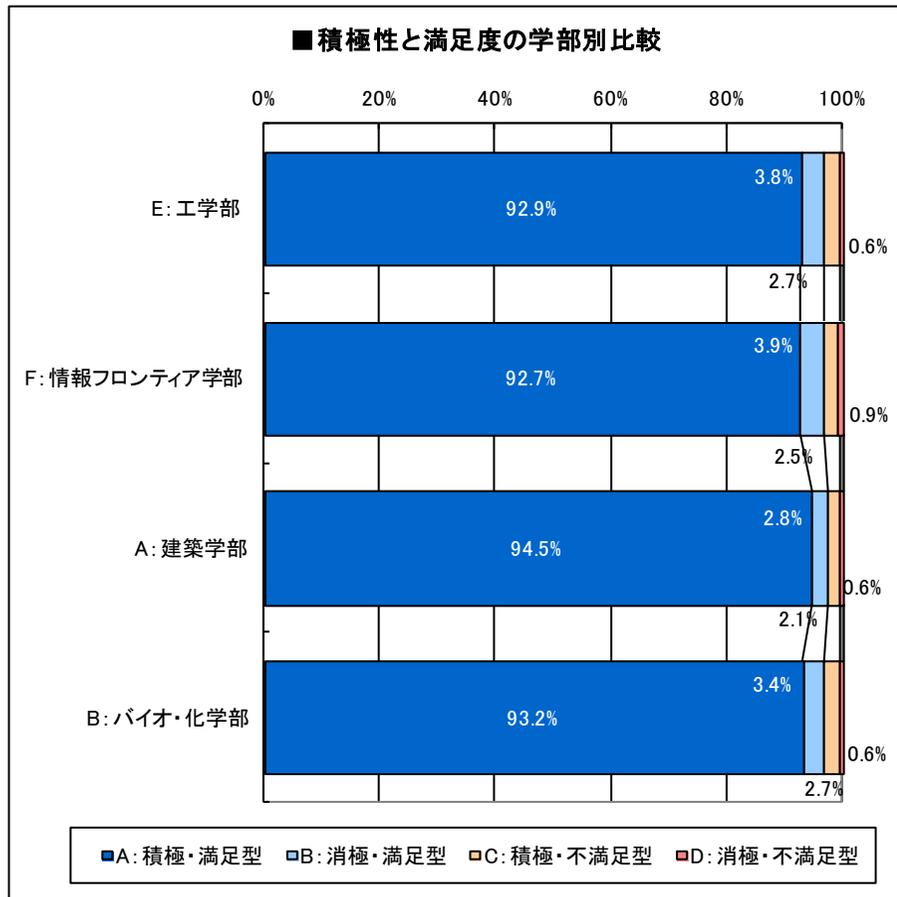
■ 積極性と満足度の経年変化



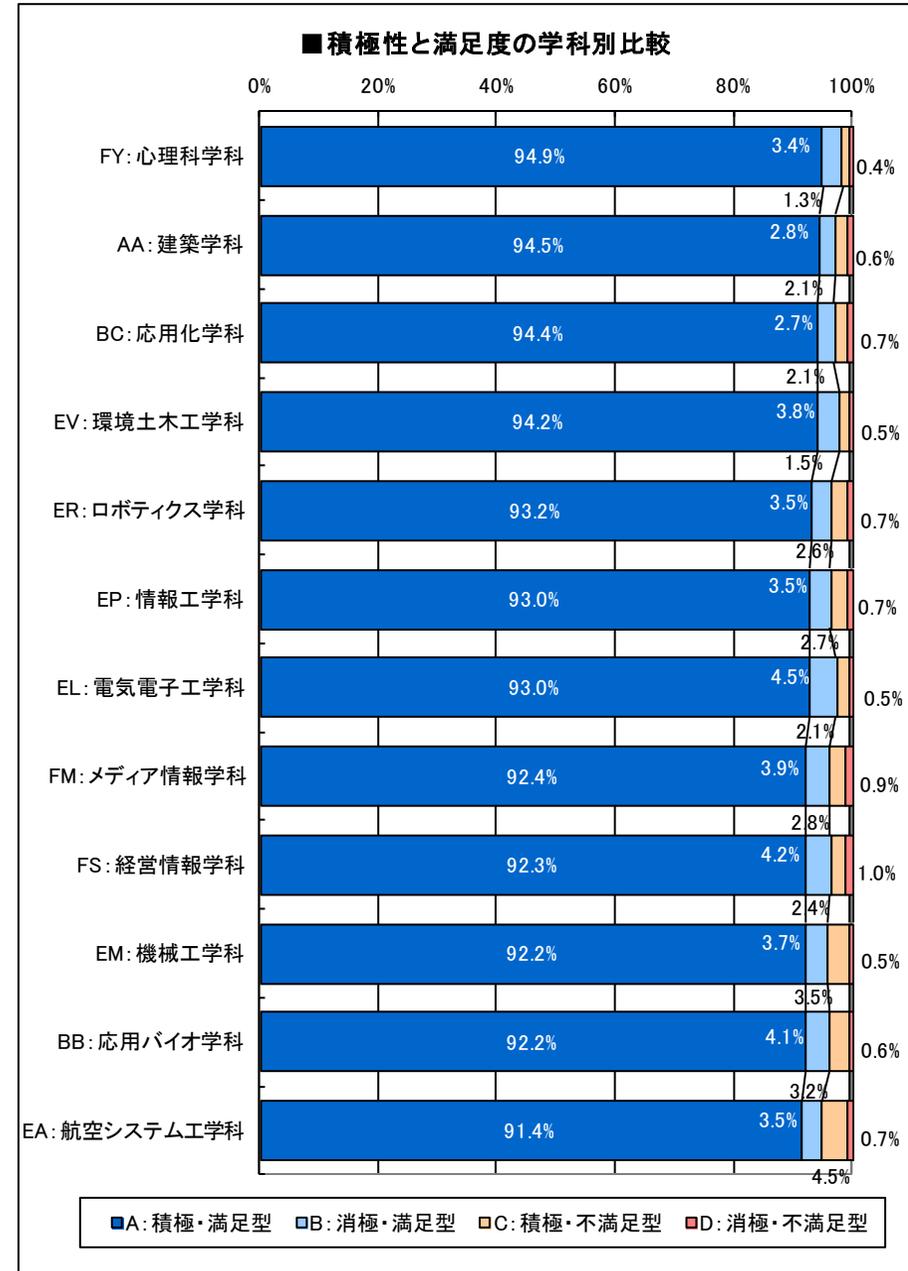
■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別に比較したところ、「A:積極・満足型」が最も多かったのは「A:建築学部」の94.5%であり、「B:バイオ・化学部」が93.2%、「E:工学部」が92.9%、「F:情報フロンティア学部」が92.7%と続いていたが、差は最大でも1.8ポイントと小さかった。
- 他の3つのグループも学部による差はわずかであり、学部別でもほぼ横並びと言えるものであった。

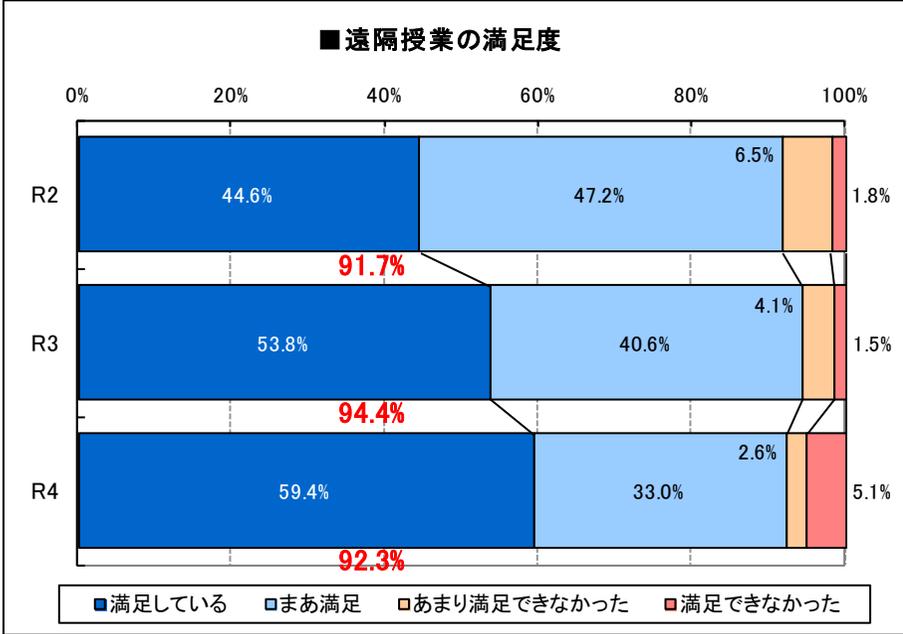
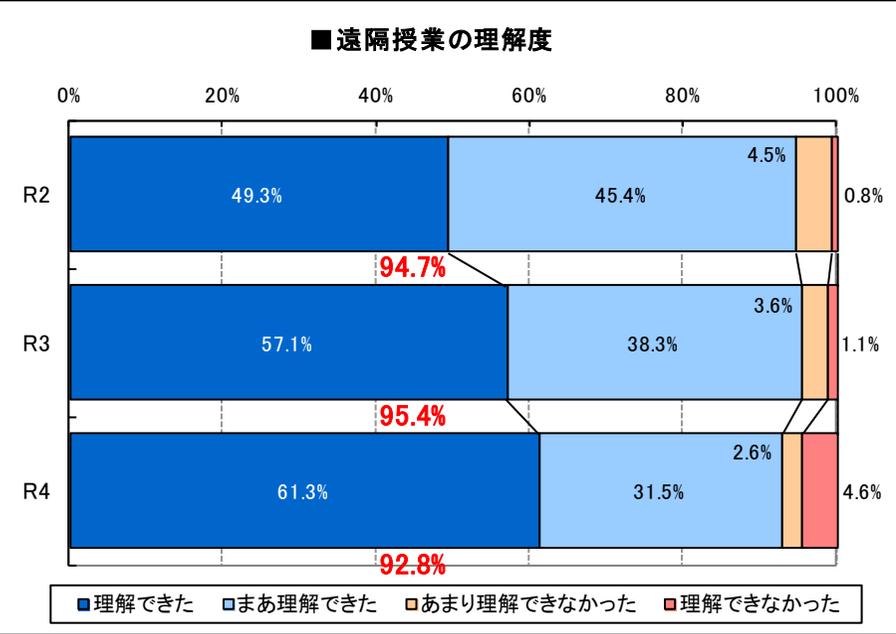
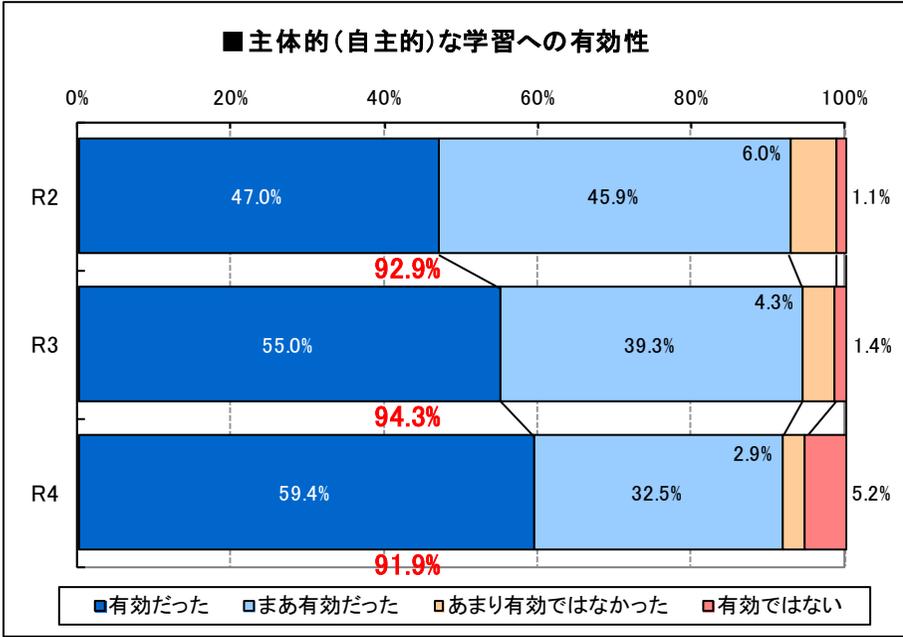


- 学科別のグラフは「A:積極・満足型」の割合でソートしているが、最も多かったのは「FY:心理科学科」の94.9%であり、「AA:建築学科」が94.5%、「BC:応用化学科」が94.4%で続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは、「EA:航空システム工学科」の91.4%であり、「BB:応用バイオ学科」と「EM:機械工学科」が92.2%で続いていた。ただし、いずれも「A:積極・満足型」は9割を超えており、決して充実度が低いわけではなかった。

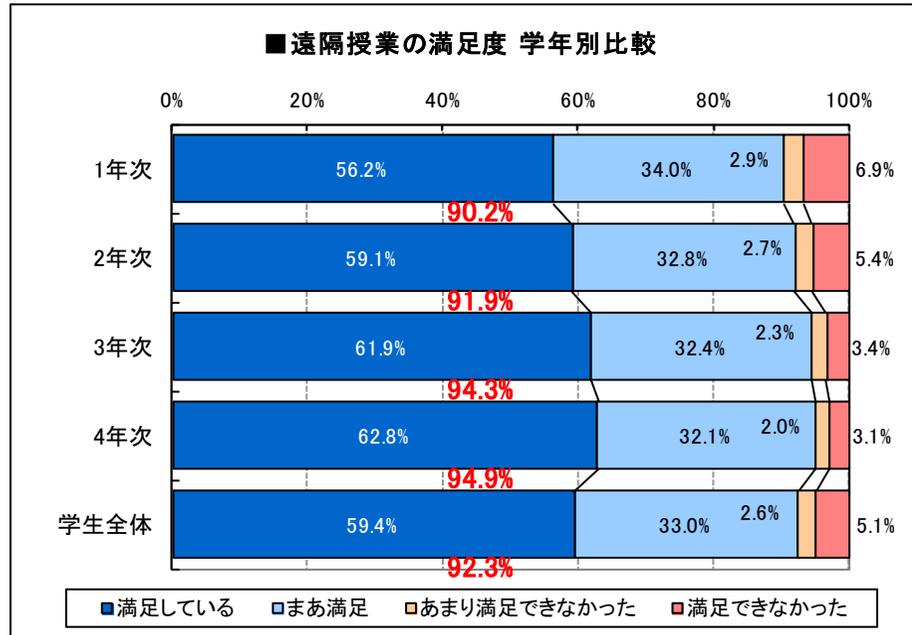
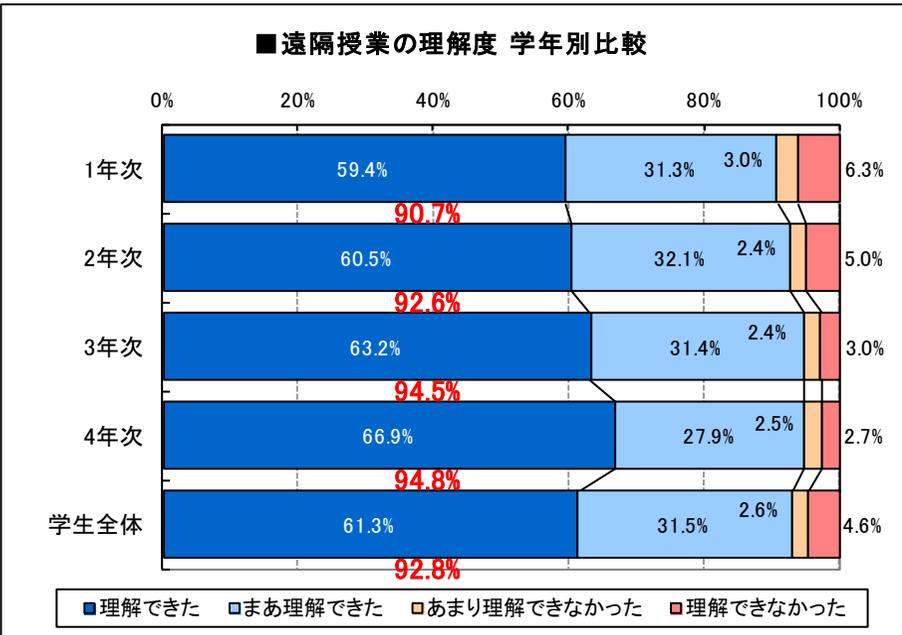
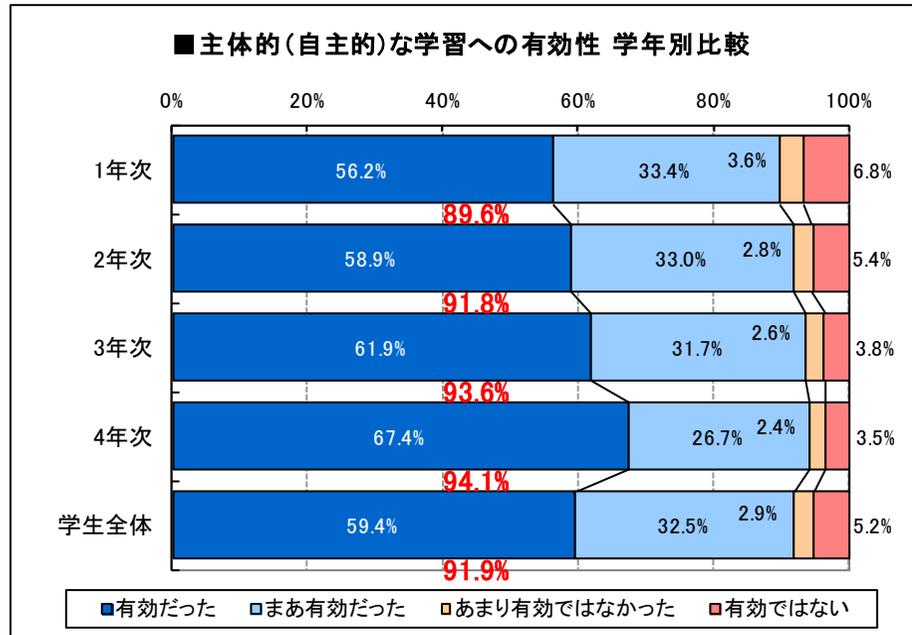


<8>遠隔授業の評価の分析

- R2から「遠隔授業」に関して質問を追加している。前回までは「無回答」を含めて集計していたが、今回は遠隔授業の切り替わりの時期であるためか、「無回答」が多くなっていったため、過去に遡って「無回答」を除外して経年変化を見ている。
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見は、92.8%と非常に高かったが、前回と比較すると2.6ポイントとわずかに減少していた。そして、「理解できた」は増加が続いており、R2と比較して12.0ポイントの増加となっていた。一方、否定的な意見は少なかったものの、「理解できなかった」が徐々に増加して4.6%となっている点が気になった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」も、肯定的な意見は91.9%で前回よりやや減少していたが、「有効だった」は増加傾向にあり、「有効ではない」も増加して5.2%となっていた。
- 「遠隔授業の満足度」も上記の2項目と同じ傾向で、肯定的な意見は92.3%と多いものの、前回より2.1ポイント低下していた。「満足している」は59.4%で増加が続いており、満足度としては非常に高いと言える。ただし、「満足できなかった」が5.1%とやや多かった。

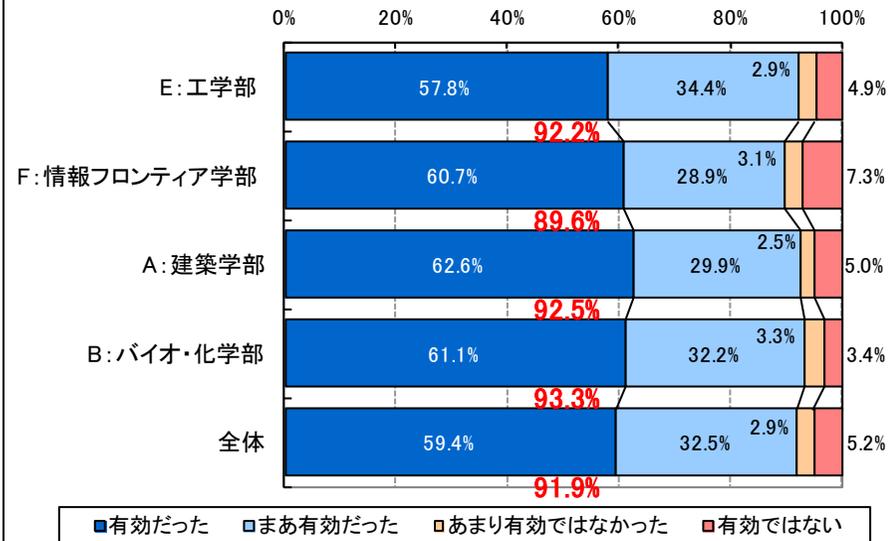


- 「遠隔授業の理解度」で肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の94.8%であり、「3年次」が94.5%、「2年次」が92.6%、「1年次」が90.7%となっており、高学年ほど理解度が高く、「理解できた」も同様の傾向であった。一方、「理解できなかった」は低学年ほど多く、学年との相関関係がはっきりと現れていた。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」も高学年ほど肯定的な意見が多く、「有効だった」だけを見ても「1年次」と「4年次」では11.2ポイントの差がついていた。そして、低学年ほど「有効ではない」という否定的な意見が多かった。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見も「4年次」が94.9%で最も多く、低学年ほど低下して「1年次」では90.2%となっており、差は4.7ポイントと少ないものの、高学年ほど高い満足度となっていた。そして、「4年次」では「満足している」が62.8%と6割を超えていた。一方、「満足できなかった」は低学年ほど多く、最も多い「1年次」では6.9%であった。

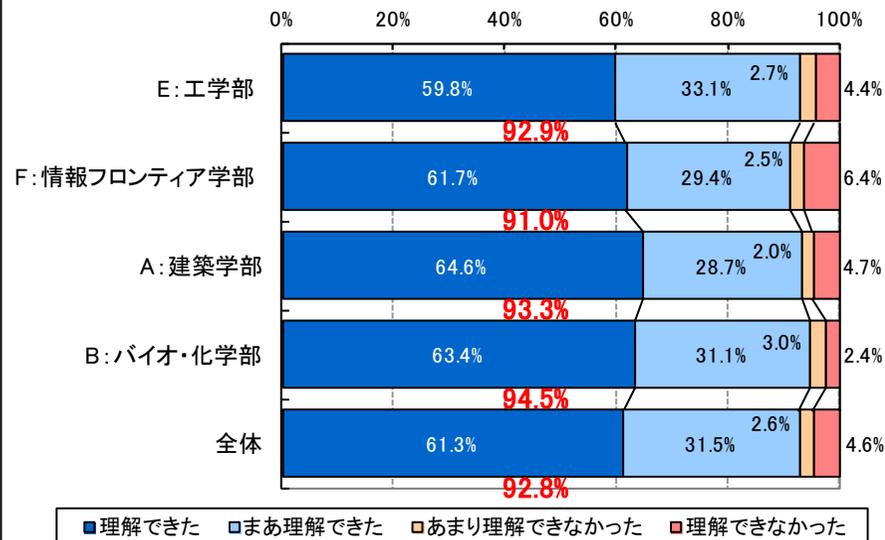


- 「遠隔授業の理解度」で肯定的な意見が最も多かったのは「B: バイオ・化学部」の94.5%であり、次いで、「A: 建築学部」が93.3%、「E: 工学部」が92.9%、「F: 情報フロンティア学部」が91.0%で続いていたが、差は最大でも3.5ポイントと大きくはなかった。そして、「理解できた」は「A: 建築学部」が64.6%で最も多く、最も少なかったのは「E: 工学部」の59.8%であった。一方、「理解できなかった」が最も多かったのは「F: 情報フロンティア学部」の6.4%であった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」も上記と同様に「B: バイオ・化学部」が93.3%で最も多く、「A: 建築学部」、「E: 工学部」、「F: 情報フロンティア学部」と続いており、「有効だった」も上記と同様に「A: 建築学部」が最も多く、「E: 工学部」が最も少なかった。
- 「遠隔授業の満足度」も上記2項目と同様に「B: バイオ・化学部」が92.9%で最も高く、「A: 建築学部」が92.8%、「E: 工学部」が92.7%で続いていたが、この3学部の満足度はほぼ同じであった。そして、「F: 情報フロンティア学部」は90.5%とやや低く、不満という否定的な意見の合計は9.5%であり、1割近くが遠隔授業に満足できていないという回答であった。

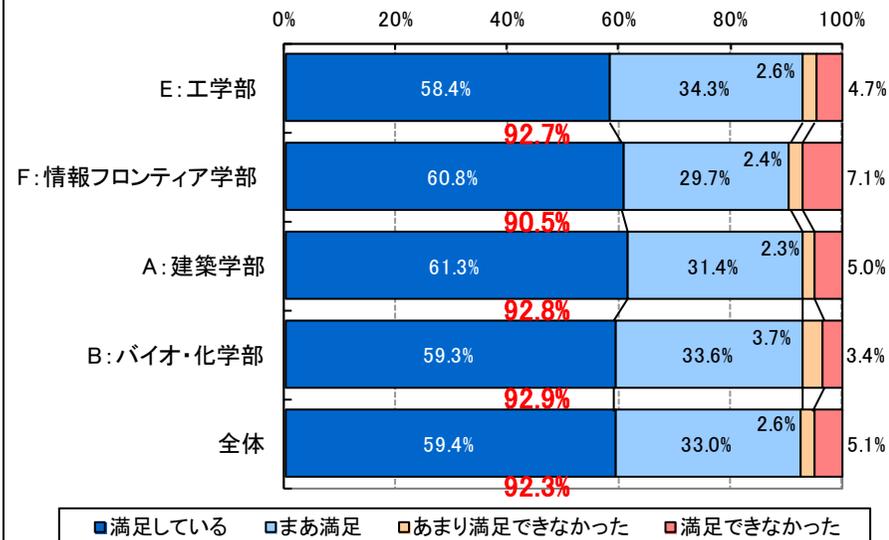
■ 主体的(自主的)な学習への有効性 学部別比較



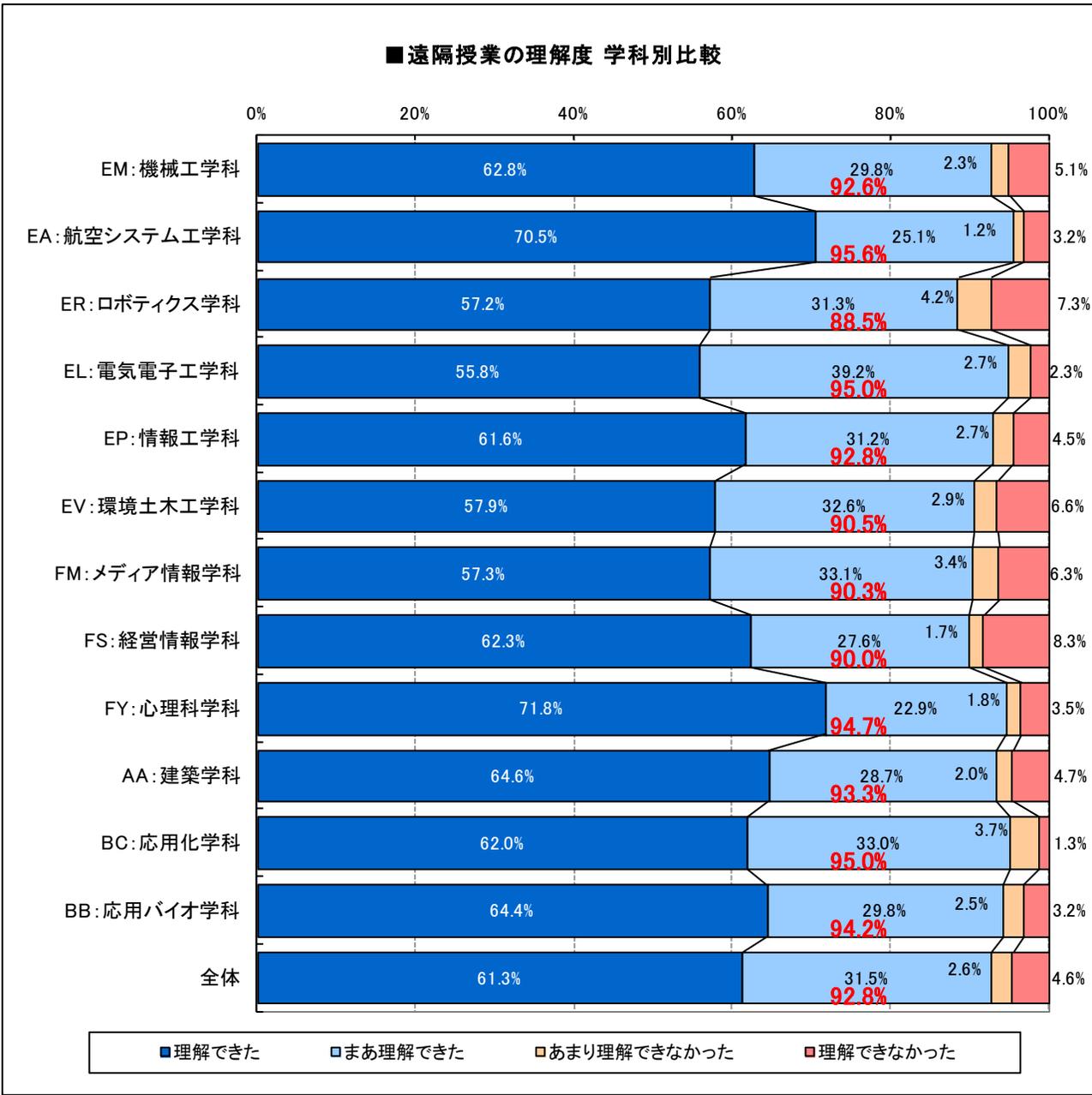
■ 遠隔授業の理解度 学部別比較



■ 遠隔授業の満足度 学部別比較

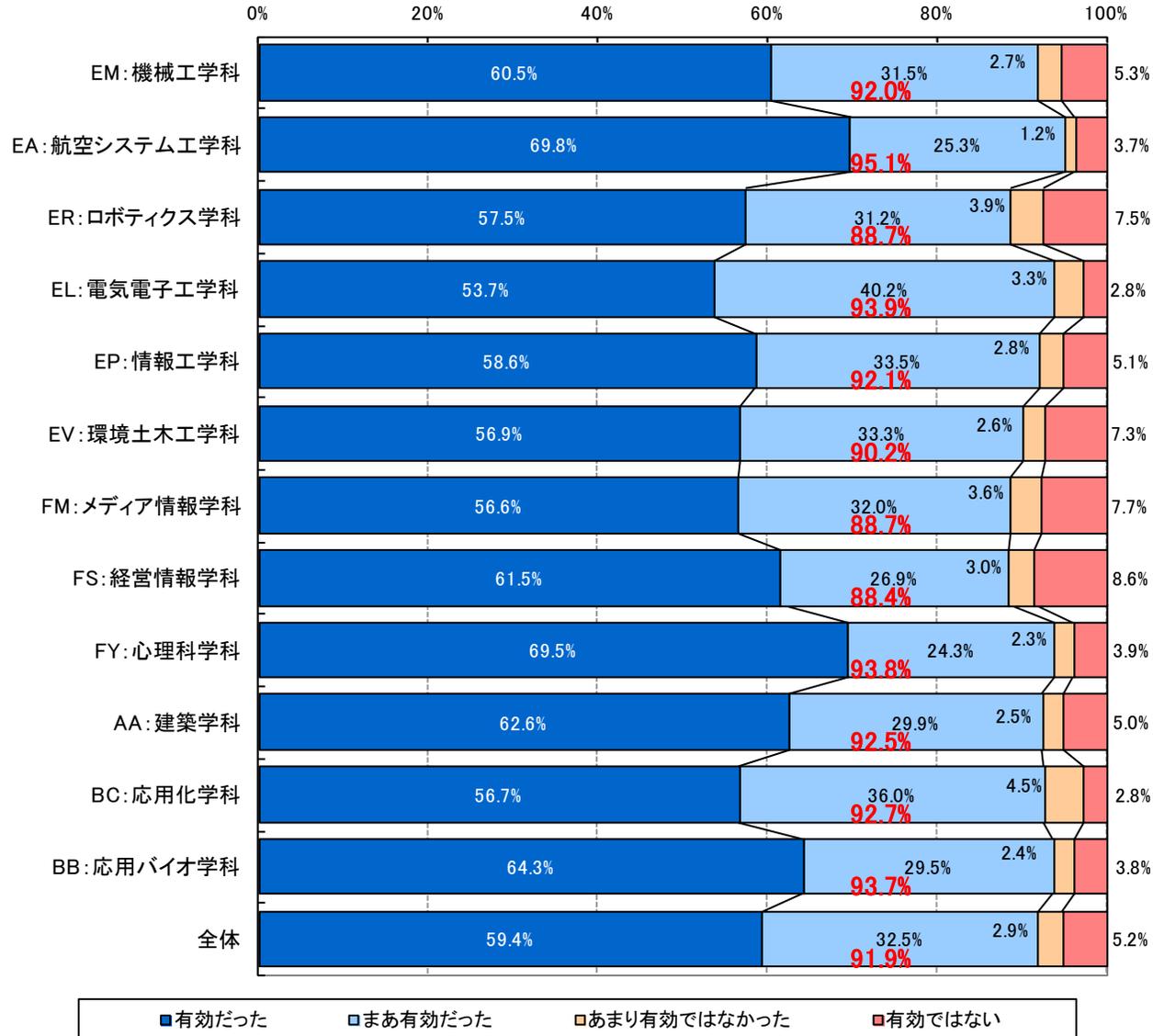


- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学科別に比較したところ、最も多かったのは「EA:航空システム工学科」の95.6%であり、「BC:応用化学科」と「EL:電気電子工学科」が95.0%で続いていた。
- 「理解できた」だけを見ると、「FY:心理科学科」が71.8%、「EA:航空システム工学科」が70.5%であり、この2学科の多さが目立っていた。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の88.5%で、唯一90%を下回っており、「EA:航空システム工学科」との差は7.1ポイントであった。



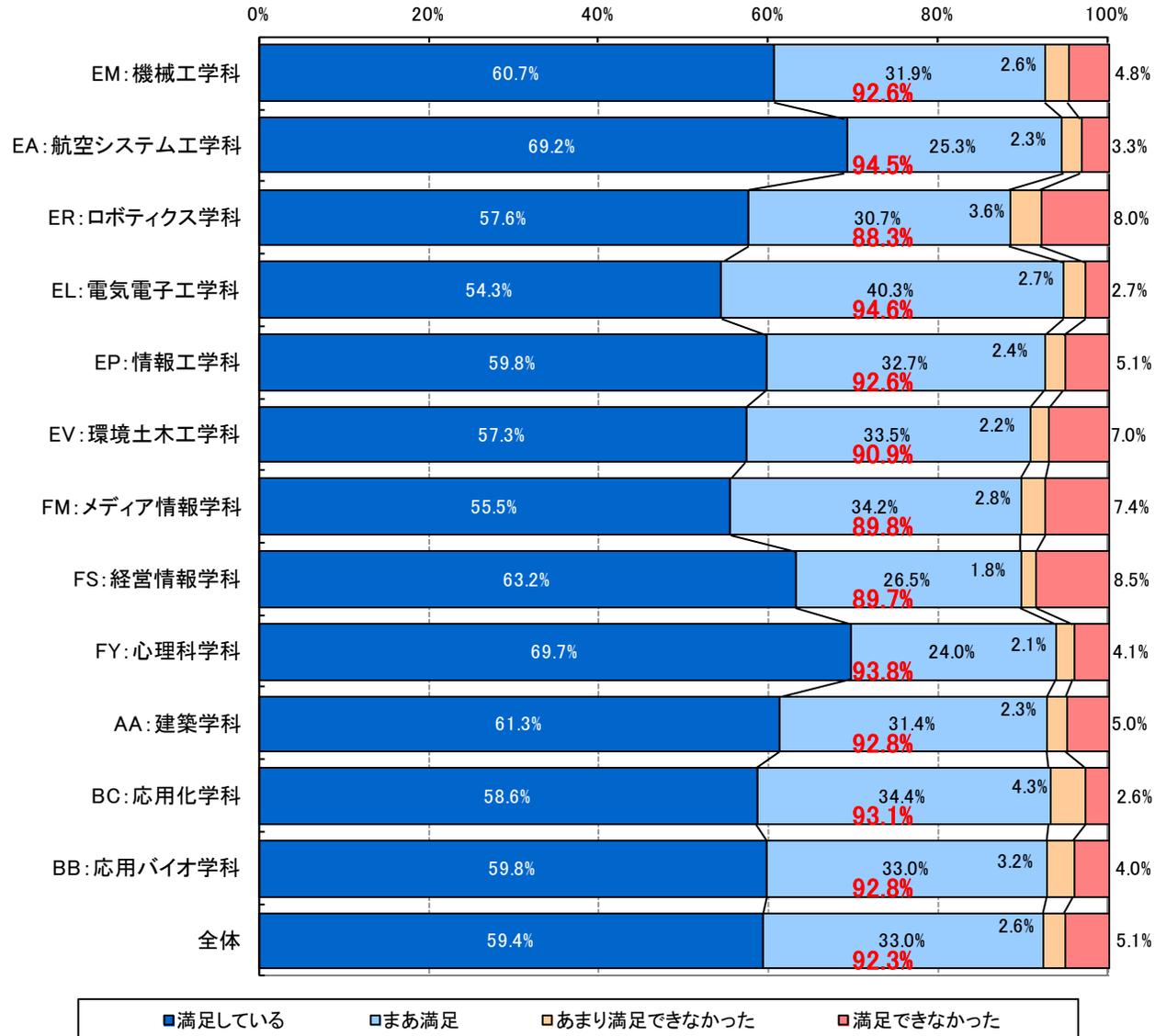
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多かったのは「EA:航空システム工学科」の95.1%であり、「EL:電気電子工学科」が93.9%、「FY:心理科学科」が93.8%で続いていた。
- 「有効だった」だけを見ると、「EA:航空システム工学科」が69.8%、「FY:心理科学科」が69.5%と多さが目立っており、この2学科は前項と同じであった。
- 一方、最も少なかったのは「FS:経営情報学科」の88.4%であり、「FM:メディア情報学科」と「ER:ロボティクス学科」が88.7%で続いており、この3学科が90%を下回っていた。ただし、「FS:経営情報学科」と「EA:航空システム工学科」との差は6.7ポイントと、それほど大きくはなかった。

■ 主体的(自主的)な学習への有効性 学科別比較



- 「遠隔授業の満足度」で最も満足度が高かったのは「EL:電気電子工学科」の94.6%であり、「EA:航空システム工学科」が94.5%、「FY:心理科学科」が93.8%、「BC:応用化学科」が93.1%で続いており、遠隔授業の3つの質問の上位5位には、同じ学科が入っていた。
- 「満足している」だけを見ると、やはり「FY:心理科学科」の69.7%と「EA:航空システム工学科」の69.2%の多さが目立っていた。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の88.3%であったが、これも十分に高い満足度であり、「EL:電気電子工学科」との差は6.3ポイントとなっていた。
- 否定的な意見の合計は、「ER:ロボティクス学科」では11.6%、「FS:経営情報学科」では10.3%、「FM:メディア情報学科」では10.2%であり、1割が遠隔授業に不満という意見であった。

■ 遠隔授業の満足度 学科別比較



<9> 全体のまとめ

<9-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

約8割の学生が「興味」を持って授業に取り組んでおり、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」を見ると、ほとんどの学生が充実した授業に満足している様子がうかがえた。

- ◆ 授業の前段階として、「事前の興味」は76.6%、「事前の内容理解(学習支援計画書)」は93.4%が肯定的な意見であった。
- ◆ 授業の内容として、「教科書・指導書の適切さ」では84.1%、「課題・レポートの適切さ」では95.1%、「学習支援計画書との一致」では98.0%、「授業の進度の適切さ」では94.3%、「学習相談の有効性」では94.4%が肯定的な意見であり、いずれも非常に高い評価であった。
- ◆ 授業に対する学生の姿勢として、「自分の熱意と努力」では95.1%、「教員の熱意」では95.9%、「満足度」では95.3%が肯定的な意見であり、ほとんどの学生が積極的に授業に取り組み、満足しているようであった。

【経年変化で確認できた事】

「自分の熱意と努力」「満足度」や「教科書・指導書」「課題」「進度」などで、強く肯定する意見の増加が続いていた。一方、「事前の興味」「学習時間」の低下が続いている点が気になった。

- ◆ 多くの項目が過去最高の評価であった前回より、今回はわずかに低下しているものも見られたが、いずれも高い評価が続いていた。ただし、「事前の興味」と「学習時間」は継続的に低下する傾向が見られた。
- ◆ 「教員の熱意」「満足度」の肯定的な意見は前回からほぼ横ばいであったが、「感じ取れた」「満足している」など、強く肯定する意見はいずれも過去最高となっていた。
- ◆ 「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」「学習支援計画書との一致」「授業の進度の適切さ」「学習相談の有効性」など、授業の内容に関しても、強く肯定する意見が継続的に増加する傾向が続いていた。

【学年別比較で確認できた事】

授業への「興味」は高学年ほど高く、学習時間も高学年ほど長かった。一方、「自分の熱意と努力」は学年による差がなく、「教員の熱意」「満足度」では「4年次」で強く肯定する意見が多かった。

- ◆ 肯定的な意見の合計は全体的に学年による差がそれほど大きくなかった。ただし、強く肯定する意見は高学年ほど多いものが多かった。
- ◆ 「事前の興味」は学年による差がやや大きく、高学年ほど強く興味を持って授業に取り組んでいるようであった。また、「学習時間」は高学年ほど長かった。「学習相談の有効性」は「4年次」と「1年次」の利用度が高く、有効だと感じる意見も多かった。
- ◆ 一方、「自分の熱意と努力」は学年による差がほとんどなく、「教員の熱意」「満足度」は「4年次」で強く肯定する意見が多いものの、すべての学年でほとんどが肯定的な意見であった。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部による差は全体的に小さいが、学習時間は「建築学部」がやや長く、「学習相談」は「建築学部」と「バイオ・化学部」が有効に活用しているようであった。

- ◆ 学部による差は全体的に小さく、目立つものは見られなかったが、数値を見ると、「バイオ・化学部」は6項目で最も低かった。そして、「学習時間」は「建築学部」がやや長く、「学習相談」は「建築学部」と「バイオ・化学部」が有効に活用しているようであった。
- ◆ 学部ごとに学科を見ると、「工学部」の学科には特徴が見られなかった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」でも大きな差は見られなかったが、数値を見ると、「FY:心理科学科」は9項目で最も高く、「FM:メディア情報学科」は7項目で最も低かった。
- ◆ 「バイオ・化学部」では全体的に「応用化学科」の評価が高かった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」は「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」と「基礎実技科目」が高かった。そして、「教員の熱意」と「満足度」では「英語科目」で強く肯定する意見が多かった。

- ◆ 「事前の興味」では、「修学基礎科目」が非常に低い点が特徴的で、「専門科目」と「基礎実技科目」に対する興味がやや強かった。
- ◆ 「教科書・指導書の適切さ」にも差があり、「修学基礎科目」が高く、「基礎実技科目」が低かった。ただし、この項目を見る際には「教科書・指導書はなかった」の割合に差があるという点を考慮する必要がある。
- ◆ 上記の2項目以外では科目区分による差は少なかったが、「英語科目」で「教員の熱意」「満足度」に対して強く肯定する意見が多かった。
- ◆ 学習時間では、「専門科目」が長く、「修学基礎科目」が短かった。一方、「学習相談」は「修学基礎科目」の利用率が高かった。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」あたりを境目として、4年間を通して「興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高い学生群が増加しており、ここ最近では1年次の前学期から満足度が非常に高いケースも増えている。

- ◆ 「H26卒業生」あたりまでは、中だるみのような変化が見られたが、それ以降は4年間を通して「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高いまま卒業に至るケースも増え、学生の意識変化が感じられた。
- ◆ ここ数年の学生群では「1年次-前学期」の満足度が95%を超えるケースも増加している。そして、連動して「自分の熱意と努力」や「教員の熱意」も非常に高くなってきている。
- ◆ 「学習相談利用者割合」は4年間の間に35%～50%で推移し、一定割合の学生は継続的に学習相談を利用しているようであったが、「4年次-後学期」に学生群によるバラツキが大きくなるという特徴が見られた。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は93.2%で、前回は0.8ポイント下回ったものの横ばい状態が続いていた。学年間の差はほとんどなく、学部では「建築学部」、学科では「心理科学科」が最も多かった。

- ◆ 「積極・満足型」は過去最高であった前回は0.8ポイント下回って93.2%となり、横ばい状態が続いていた。そして内訳を見ると、「満足度」と「積極性」がともに高い学生が44.9%を占めていた。
- ◆ 学年別に比較すると、「積極・満足型」は高学年がやや高い傾向が見られたが、差はわずかであり、ほぼ横並びとなっていた。
- ◆ 学部では「建築学部」が94.5%で最も多かったが、最も少ない「情報フロンティア学部」との差は1.8ポイントと小さかった。また、学科では「心理科学科」が94.9%で最も高く、「航空システム工学科」が91.4%で最も低かったが、数値的には十分に高く、充実している様子がうかがえた。

【遠隔授業の評価で確認できた事】

遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の内訳を見ると、前回より評価は上がっている。そして、学年では高学年ほど高く、学部では「バイオ・化学部」が高かった。

- ◆ 「遠隔授業の理解度」「主体的(自主的)な学習への有効性」「満足度」の3指標ともに肯定的な意見の合計は減少しているものの、強く肯定する意見は増加しており、評価としては上がっていると言える。ただし、強く否定する意見もわずかに増加しており、この点には注意する必要がある。
- ◆ 学年による差は3指標ともに高学年ほど高くなっており、学年との相関関係がはっきりと現れていた。
- ◆ 学部別の評価の差も小さかったが、3指標ともに「バイオ・化学部」がやや高かった。学科では3指標ともに「心理科学科」「航空システム工学科」「電気電子工学科」「応用化学科」「応用バイオ学科」が高めであった。

<9-2> 全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 約8割の学生が「興味」を持って授業に取り組んでおり、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」を見ると、ほとんどの学生が充実した授業に満足している様子が見えた。
- 「自分の熱意と努力」「満足度」や「教科書・指導書」「課題」「進捗」などで、強く肯定する意見の増加が続いていた。一方、「事前の興味」「学習時間」の低下が続いている点が気になった。
- 授業への「興味」は高学年ほど高く、学習時間も高学年ほど長かった。一方、「自分の熱意と努力」は学年による差がなく、「教員の熱意」「満足度」では「4年次」で強く肯定する意見が多かった。
- 学部による差は全体的に小さいが、学習時間は「建築学部」がやや長く、「学習相談」は「建築学部」と「バイオ・化学部」が有効に活用しているようであった。
- 「事前の興味」は「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」と「基礎実技科目」が高かった。そして、「教員の熱意」と「満足度」では「英語科目」で強く肯定する意見が多かった。
- 「H26卒業生」あたりを境目として、4年間を通して「興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高い学生群が増加しており、ここ最近では1年次の前学期から満足度が非常に高いケースも増えている。
- 「積極・満足型」は93.2%で、前回は0.8ポイント下回ったものの横ばい状態が続いていた。学年間の差はほとんどなく、学部では「建築学部」、学科では「心理科学科」が最も多かった。
- 遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の内訳を見ると、前回より評価は上がっている。そして、学年では高学年ほど高く、学部では「バイオ・化学部」が高かった。



- ❖ 主要な指標はほぼ全員が肯定的な意見で、高いまま横ばいの状態であったが、内訳を見ると強く肯定する意見の増加は続いており、授業の評価は継続的に上がっていると言える。ただし、「事前の興味」では評価の低下、「学習時間」では時間の減少が続いており、やや気になる点と言える。
- ❖ ここ数年の学生群は「1年次」から高い満足度であり、中だるみのような低下のないまま卒業に至るケースも増加していた。このような学生の意識変化を見極めながら学習サポートや指導を考えていくことが求められていると言える。
- ❖ 「積極・満足型」の学生は大勢を占めたまま横ばい状態となっており、緊急の課題はなさそうであった。
- ❖ 遠隔授業は授業の一つの形態として浸透し、高く評価されている様子が見えた。今後は、コロナ禍後に向けて内容を見直しながら、遠隔授業の新たな活用方法を探るステップがくるものと思われる。